



2023 年東京都港区

チャレンジコミュニティ・クラブの
実態と活動に関する調査報告書
(速報版)

2024 年 2 月

チャレンジコミュニティ・クラブ

この報告書は東京都港区におけるチャレンジコミュニティ・クラブの、創設以来 16 年に及ぶ活動の実態をアンケート形式により調査、分析したものである。

調査期間は 2023 年 6 月 1 日から 2023 年 7 月 11 日までである。調査の対象はチャレンジコミュニティ・クラブ第 1 期から第 15 期までとした。

アンケートの設問内容は前回 2018 年調査とほぼ同様にし、回答の変化をわかるようにした。

この間の大きな変化は世界中を襲った新型コロナによるパンデミックである。2020 年 1 月から 2023 年 5 月に季節性インフルエンザ並みに行動制限が緩和されるまでチャレンジコミュニティ・クラブ会員はどのような生活や活動をしていたのだろうか。どのような影響を受けたのだろうか。

チャレンジコミュニティ大学を修了後、年数を経るにつれ地域活動への意識の変化や生活、行動の変化はあったのだろうか。

私たちは 2018 年の調査結果を踏まえ比較対象として新たな資料の必要性を感じた。今回、港区高輪地区総合支所や港区社会福祉協議会、明治学院大学の協力を得て 2023 年活動実態調査を行い、その結果報告書を速報版（抜粋版）として作成した。

この報告書を作成するにあたり共同執筆をしていただきました石川由美先生（帝京平成大学健康医療スポーツ学部准教授）並びに、多大なるご助言とご指導を賜りました河合克義先生（明治学院大学名誉教授・CCクラブ顧問）に深く感謝申し上げます。

目次

1	調査の概要	3
2	調査の結果 基本集計	5
3	2023年活動実態調査から見えてきたこと	
	～2018年調査と比較して～	57
	おわりに	69
	資料 CCクラブ 2018年度活動実態調査票	71

1 調査の概要

(1) 調査の名称

調査の名称は、「チャレンジコミュニティ・クラブ 2023 年活動実態調査」である。

(2) 調査主体

調査の主体は、港区高輪総合支所とチャレンジコミュニティ・クラブ（以下、「CCクラブ」と略す。）である。ただし、調査の設計、調査結果の集計・分析については、港区高輪地区総合支所、CCクラブ地域連携部会、明治学院大学総合企画室、明治学院大学名誉教授・CCクラブ顧問の河合克義、帝京平成大学健康医療スポーツ学部准教授の石川由美が共同で行った。

(3) 調査の目的と経過

本調査の目的は、CCクラブの活動実態と課題を明らかにし、今後のCCクラブ活動の方向性を考える基礎資料を得ることにある。

CCクラブは、2008年3月にチャレンジコミュニティ大学（以下、「CC大学」と略す。）を修了した第1期生が自主的に創設した組織である。CCクラブの活動は今年で16年の歴史をもつ。

2023年現在でCCクラブの会員数は約750名となっている。CC大学の修了者は約850名いるが、区外への引越あるいは諸事情で退会された方がおり、この会員数となっている。地域の地域活動組織としては、他に例を見ない規模と言える。

CCクラブは、2018年に会員の生活実態と活動内容の調査を行っている。報告書は『東京都港区チャレンジコミュニティ・クラブの実態と活動に関する調査報告書』として2019年7月にCCクラブから発行した。それから5年が経過し、会員としてCC大学12期生から15期生を迎え、会員数は161名増加している。

CC大学修了後、多くの会員が地域の中で多様な活動を展開しているが、特にこの3年間は新型コロナウイルス禍があり、CCクラブ会員の生活と活動にはいろいろな変化が見られた。会員の活動においても、対面活動や会議が制限され、いろいろな困難に直面していた。そうした状況下、CCクラブとして、実態把握が必要であることを痛感していた。そのなかで港区高輪地区総合支所からの調査の提案があり、今回の調査が実現した。港区高輪地区総合支所に心から感謝申し上げたい。

(4) 調査対象

調査対象は、2023年6月1日現在のCCクラブ会員753名である。

(5) 調査時点及び期間

調査時点は2023年6月1日現在であり、調査期間は2023年6月1日から2023年7月11日までである。

(6) 調査の方法

本調査は、郵送調査である。全会員に返信用封筒を同封し、調査票を回収した。

(7) 回収数及び回収率

本調査の回収総数は 480 ケース、回収率は 63.7%、有効回収数は 471 ケース、有効回収率は 62.5%である。

(8) 執筆分担

本報告書（速報版）の執筆者は以下の通りである。

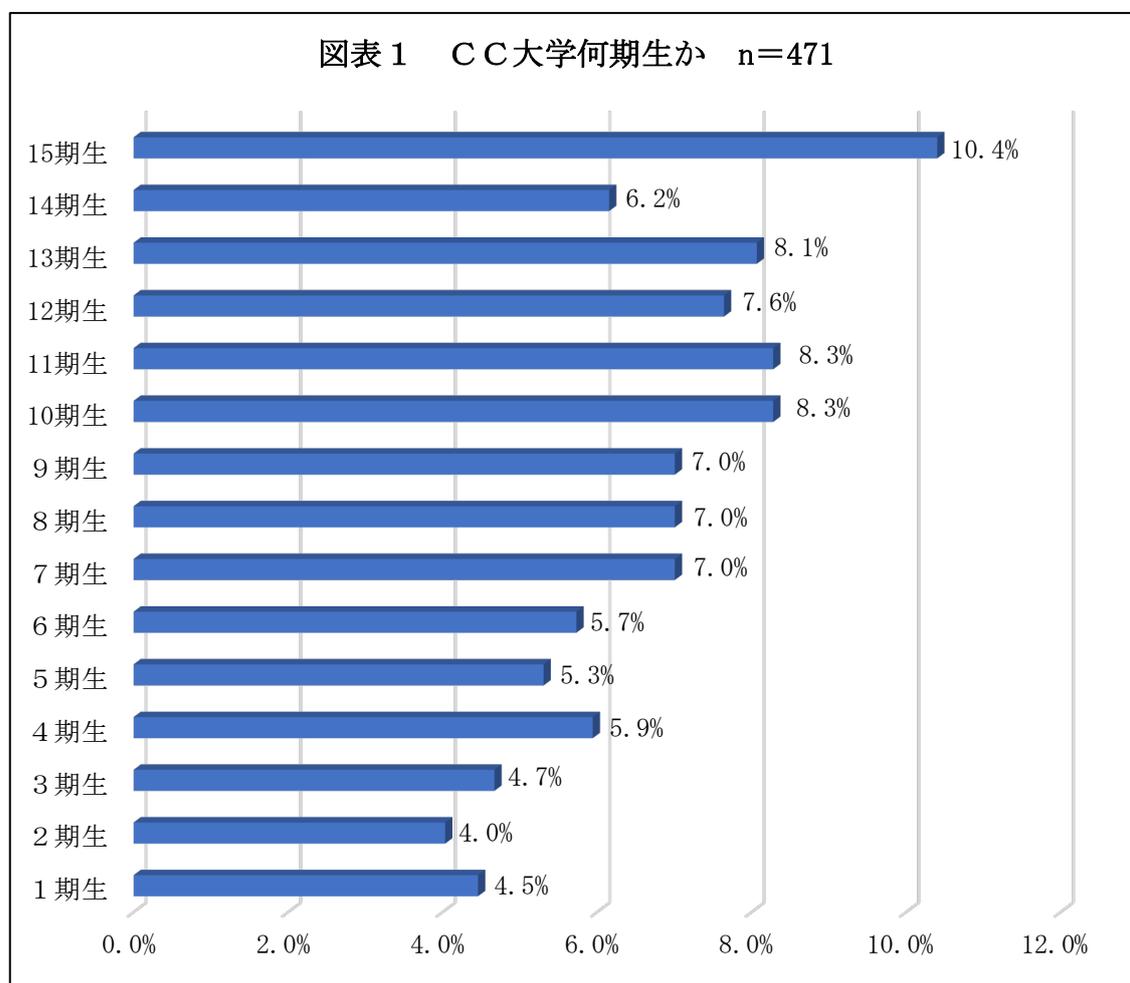
- ① 「調査の概要」－明治学院大学名誉教授河合克義
- ② 「調査の結果－基本集計」－帝京平成大学健康医療スポーツ学部准教授石川由美
- ③ 「コロナ禍で現在もできていないことに関する自由回答の内容」－地域連携部会
- ④ 「行政、社会福祉協議会、港区の関連団体、CCクラブなどに関する自由回答の内容」
－帝京平成大学健康医療スポーツ学部准教授石川由美
- ⑤ 2023年活動実態調査から見えてきたこと～2018年調査と比較して－地域連携部会
- ⑥ おわりに－地域連携部会長 金原智子

2 調査の結果 基本集計

ここでは、本調査で回収された 471 ケースの基本集計結果を概観する。

(1) CC大学何期生か

本調査の対象は、CC大学の1期生から15期生までである。回収された調査票の各期の分布は、図表1の通りである。15期生が10.4%と最も割合が高く、ついで10期生と11期生がともに8.3%、13期生が8.1%、12期生が7.6%となっている。7期生、8期生、9期生はいずれも7.0%、14期生は6.2%であった。4期生、5期生、6期生は5%台、1期生、2期生、3期生は4%台であった。

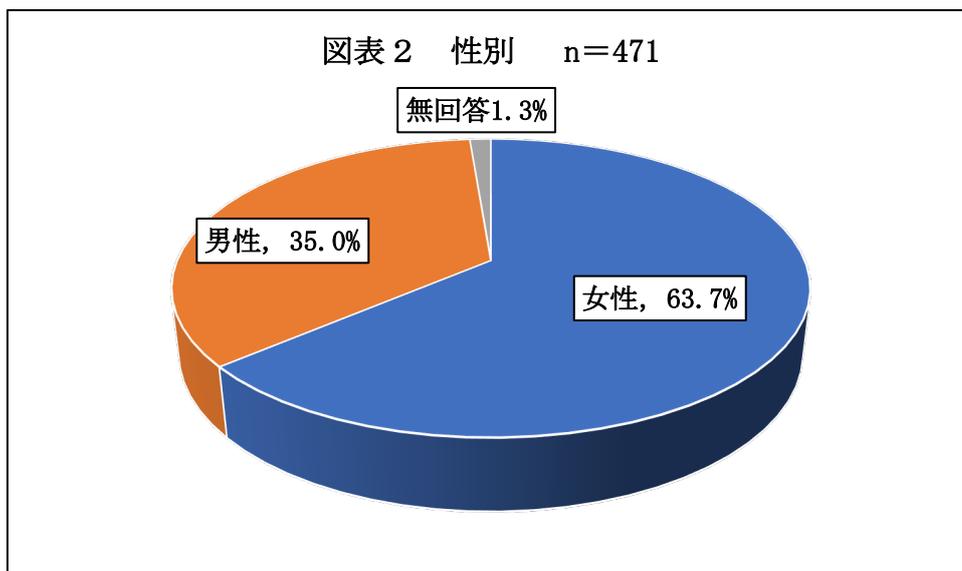


(2) 性別、年齢

①性別

性別は、女性が63.7%、男性が35.0%であった（図表2）。このように回答者の6割は女性であった。なお、今回の調査対象者（調査母数）753名の性別を見ると、女性が503

名, 66, 8%、男性が 250 名、33, 2%となっている。母数でも女性の割合が高い。

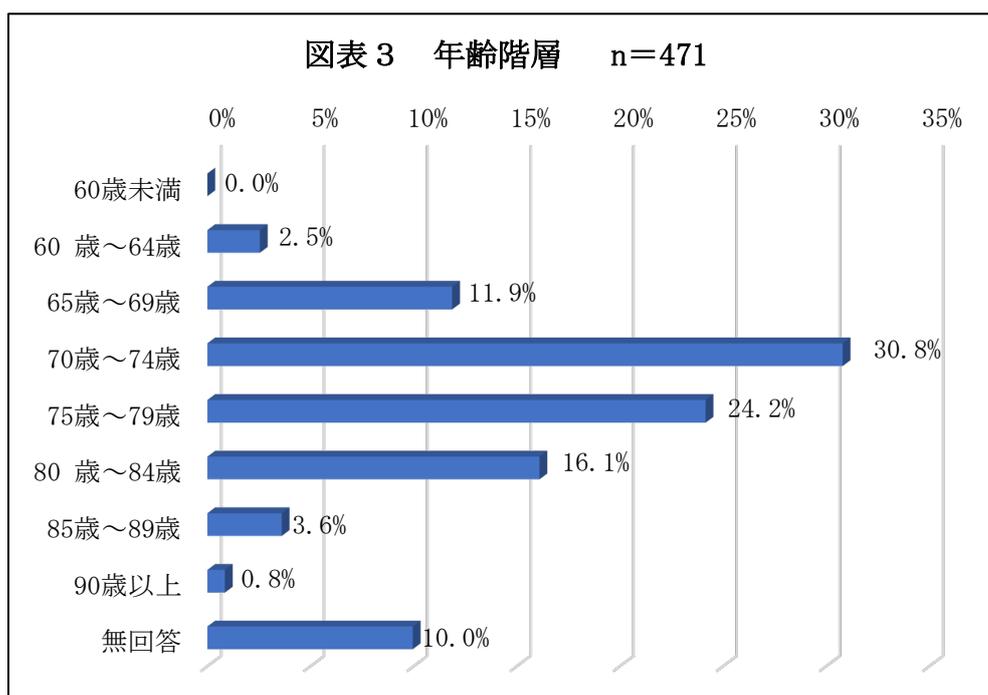


②年齢

年齢は最低年齢が、60 歳、最高年齢が 92 歳であった。平均年齢は 75 歳である。

各年代別に集計した図 3 を見ると、「70 歳～74 歳」が最も高く 30.8%を占め、次いで「75 歳～79 歳」が 24.2%であり、70 歳代を合計すると 55.0%で全体の 5 割を占めている。

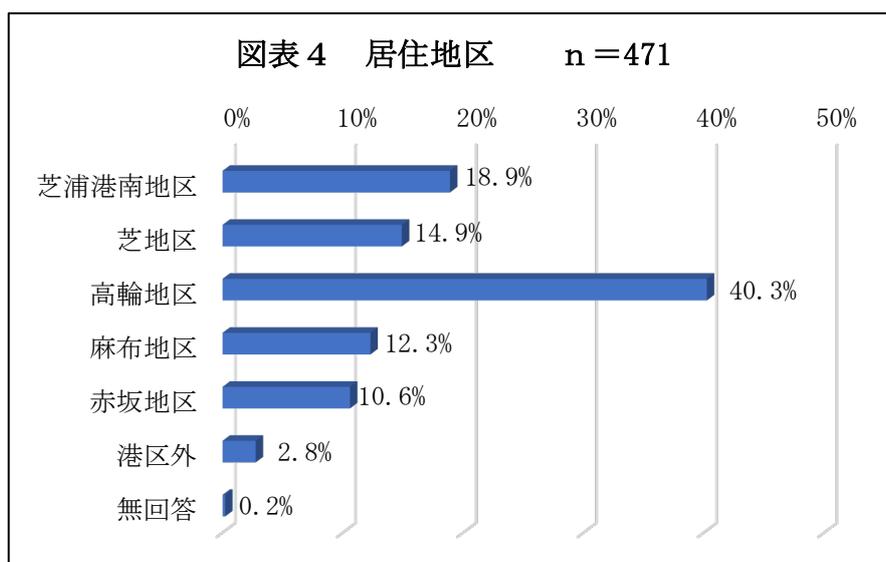
一方、「80 歳～84 歳」は 16.1%となっている。80 歳以上を合計すると 20.5%と全体の約 2 割を占めている。



(3) 居住地区

港区は、行政区として5つの地区に分けている。その5地区ごとにCCクラブ会員が居住している地区を見ると、「高輪地区」が40.3%と最も割合が高い。次いで「芝浦港南地区」が18.9%、「芝地区」が14.9%、「麻布地区」が12.3%、「赤坂地区」が10.6%となっている（図表4）

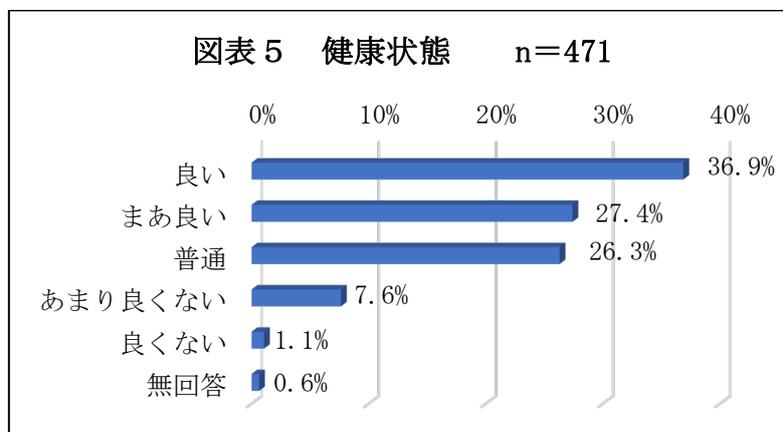
高輪地区にCCクラブ会員が多いのは、CC大学が明治学院大学において開講されており、大学が地理的に近いことが理由のひとつであろう。なお、CC大学を修了後、港区外に転居したCCクラブ会員が2.8%いる。



(4) 健康状態

健康状態は、社会活動、地域活動または外出の前提として重要な要素である。図表5は、CCクラブ会員の健康状態を見たものである。

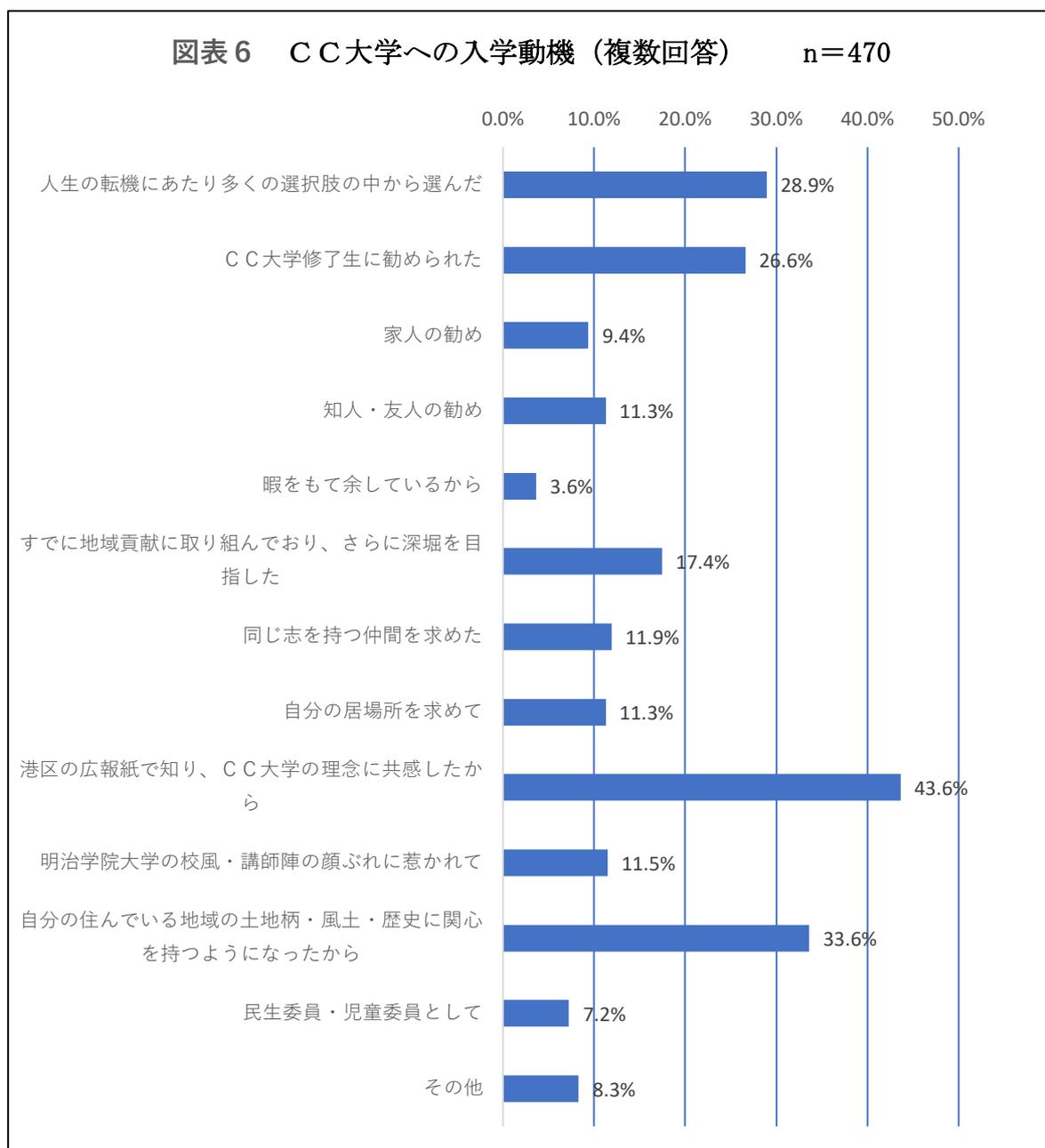
「良い」が36.9%、「まあ良い」が27.4%となっている。この2つを合わせると64.3%と全体の6割を占めており、大半が健康状態を良いと感じている。他方、「あまり良くない」と「良くない」を合わせると8.7%で、1割未満となっている。



(5) CC大学への入学動機

図表6は、CC大学への入学動機（複数回答）を見たものである。全体のケース数は470で、それに対する割合を項目ごとに示した。

最も割合が高いのは、「港区の広報紙で知り、CC大学の理念に共感したから」が43.6%、次いで、「自分の住んでいる地域の土地柄・風土・歴史に関心を持つようになったから」が33.6%、「人生の転機にあたり多くの選択肢の中から選んだ」が28.9%、「CC大学修了生に勧められた」が26.6%、そして、「すでに地域貢献に取り組んでおり、さらに深堀を目指した」が17.4%となっている。これ以外の項目は概ね10%前後の割合であった。

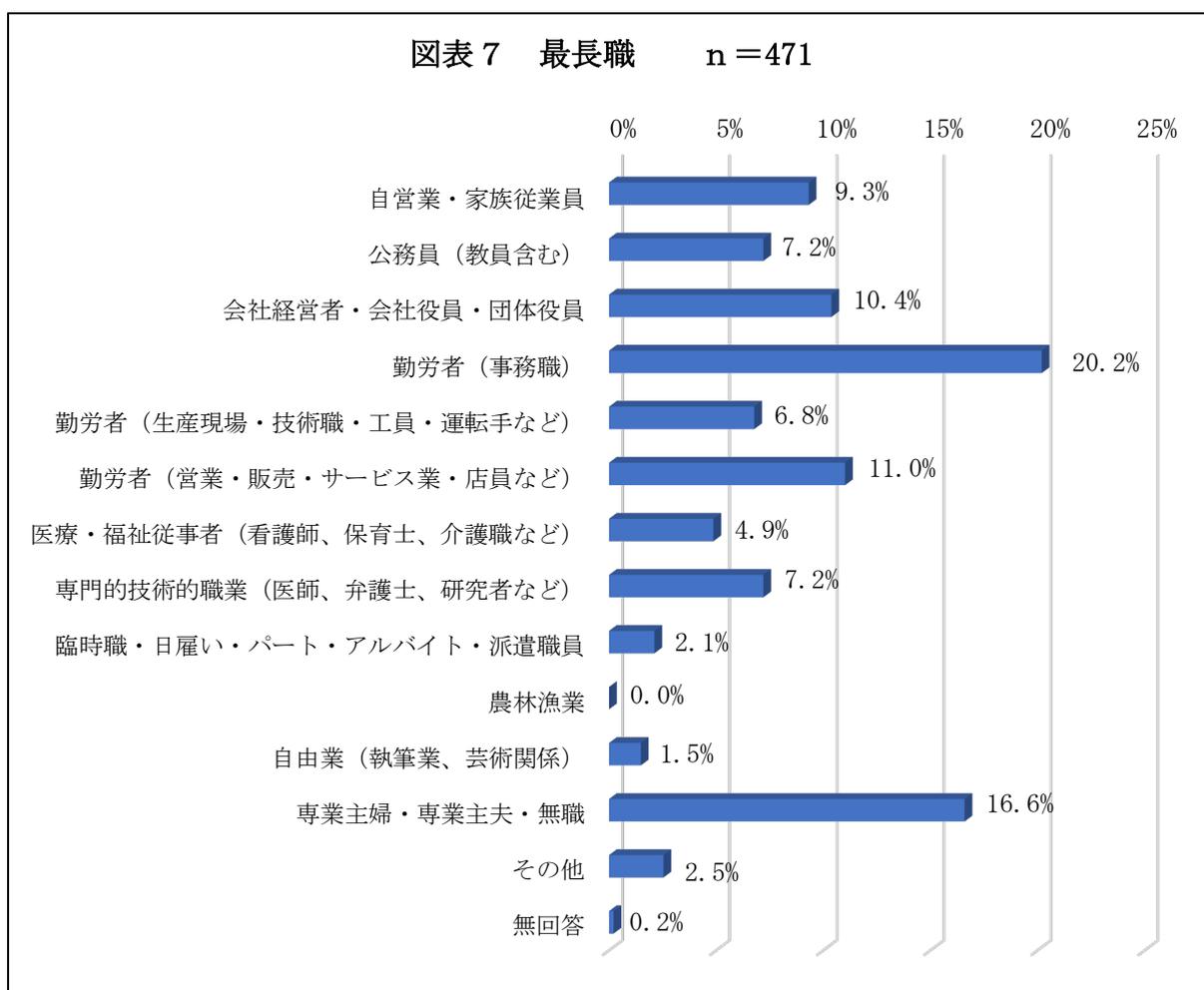


(6) 最長職

最長職すなわち生涯の中で一番長くしていた職業については(図表7)、最も割合が高いものは、「勤労者(事務職)」で20.2%を占めている。次いで、「勤労者(営業・販売・サービス業・店員など)」が11.0%、「会社経営者・会社役員・団体役員」が10.4%、「自営業・家族従業員」が9.3%と、それぞれ10%前後であった。

その他、「公務員(教員含む)」と「専門的技術的職業(医師、弁護士、研究者など)」がともに7.2%、「勤労者(生産現場・技術職・工員・運転手など)」が6.8%、「医療・福祉従事者(看護師、保育士、介護職など)」が4.9%であった。

なお、「専業主婦・専業主夫、無職」は16.6%である。



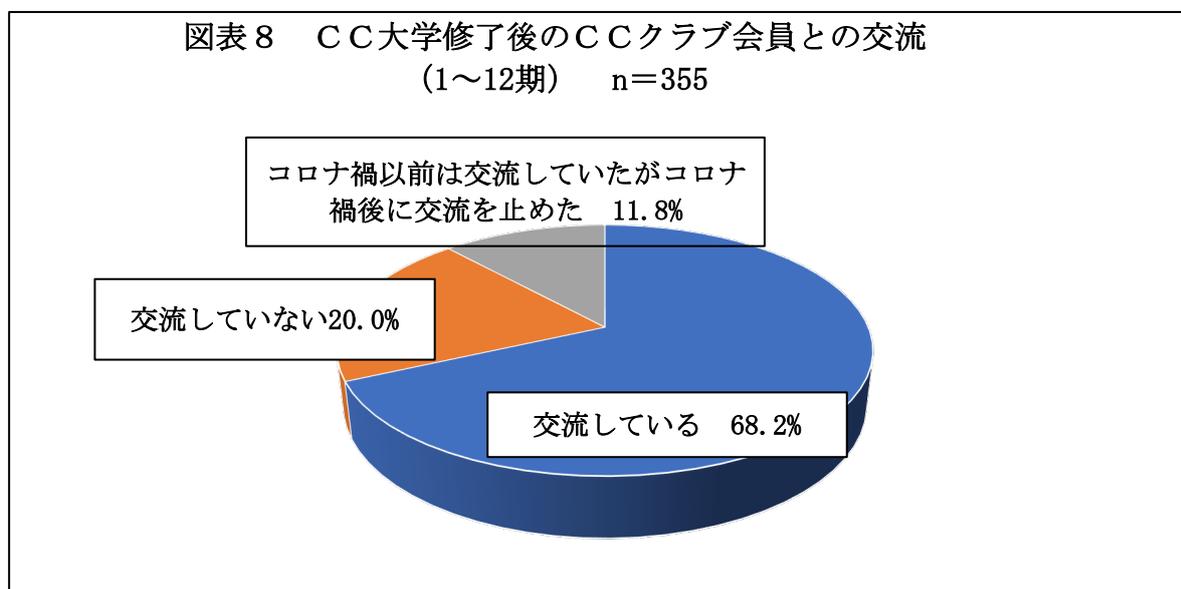
(7) CC大学修了後の状況について(1期生~12期生)

(7)の①~⑤は、コロナ禍以前にCC大学に入学した1期生~12期生に対して、CC大学修了後の状況について尋ねたものである。

① CCクラブ会員との交流

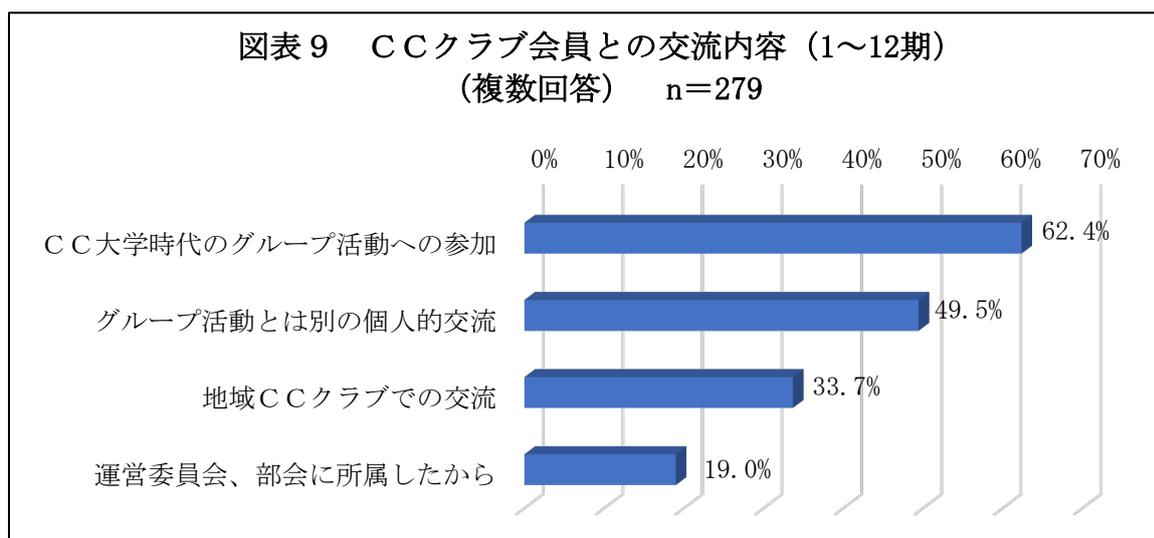
この設問は、CC大学修了後に、CCクラブ会員と交流しているかどうかを尋ねたものである。図表8のとおり、「交流している」が68.2%、「交流していない」が20.0%であっ

た。「コロナ禍以前は交流していたがコロナ禍後に交流を止めた」は 11.8%で、コロナ禍の影響が見られる。



② CCクラブ会員との交流内容

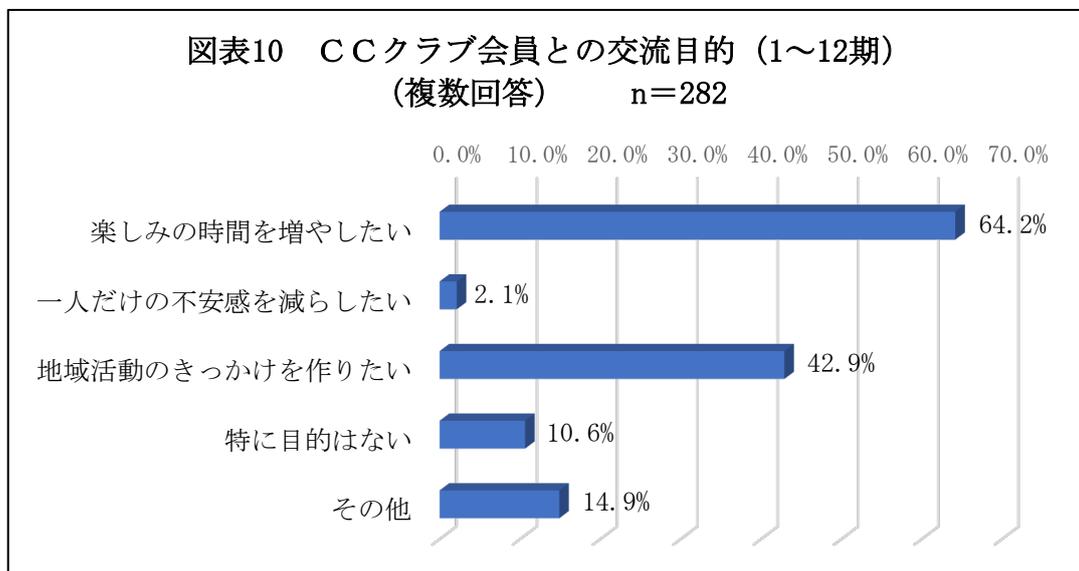
図表 9 は、CCクラブ会員と交流している人に尋ねた質問で、交流の内容を答えてもらったものである（複数回答）。最も割合が高いものは、「CC大学時代のグループ活動への参加」で 62.4%を占めている。次いで、「グループ活動とは別の個人的交流」が 49.5%、「地域CCクラブでの交流」が 33.7%、「運営委員会、部会に属したから」が 19.0%となっている。



③ CCクラブ会員との交流目的

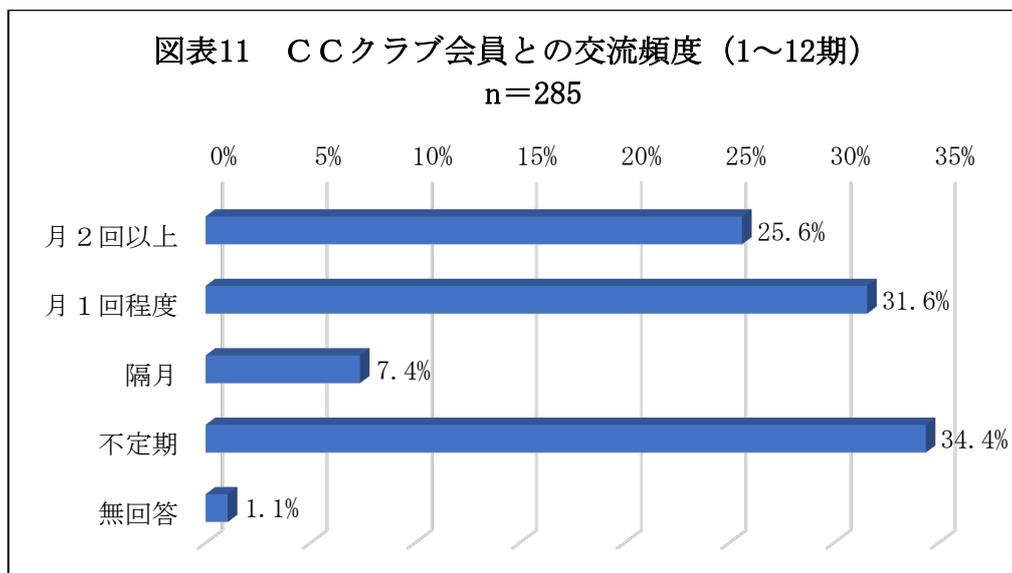
CCクラブ会員との交流目的については（図表 10、複数回答）、「楽しみの時間を増やし

たい」が64.2%と最も割合が高く、次いで「地域活動のきっかけを作りたい」が42.9%となっている。「特に目的はない」が10.6%、「一人だけの不安感を減らしたい」が2.1%であった。



④ CCクラブ会員との交流頻度

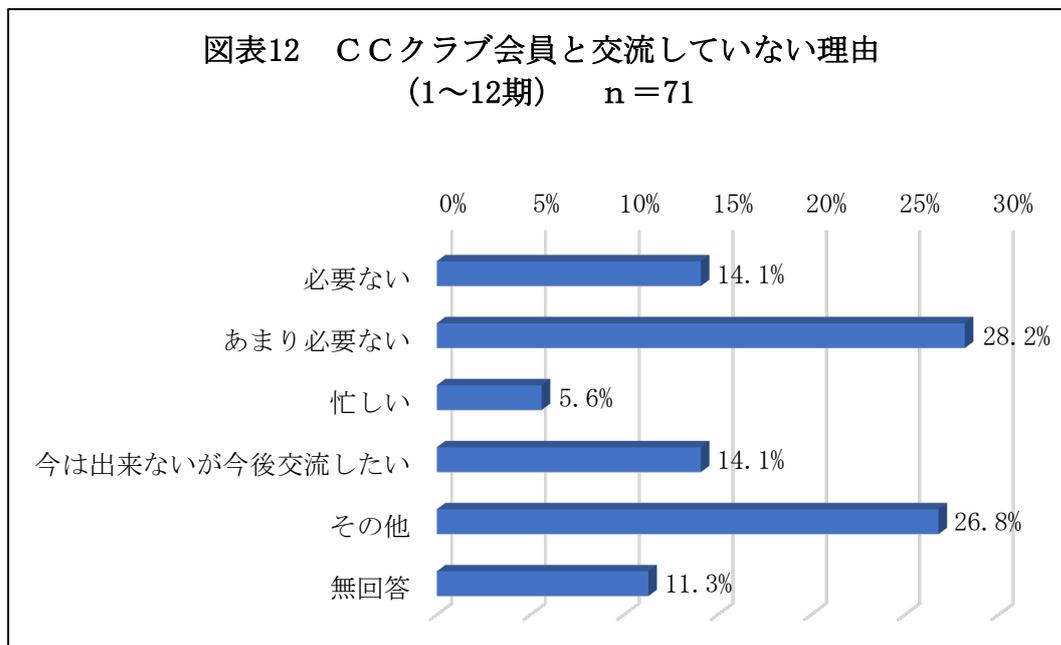
CCクラブ会員との交流の頻度については（図表11）、「不定期」が34.4%と最も割合が高く、次いで「月1回程度」が31.6%、「月2回以上」が25.6%、「隔月」が7.4%であった。



⑤ CCクラブ会員との交流がない理由

CCクラブ会員との交流がない71人に、その理由を尋ねた（図表12）。「あまり必要ない」が28.2%、「その他」が26.8%、「必要ない」と「今は出来ないが今後交流したい」が

ともに 14.1%、「忙しい」が 5.6%であった。

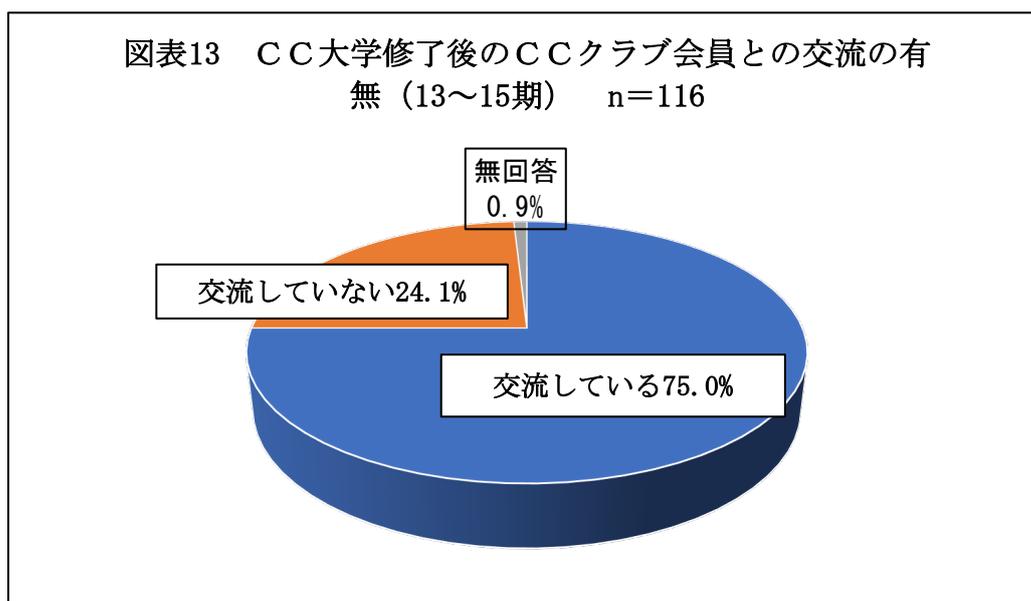


(8) CC大学修了後の状況 (13期生~15期生)

(8) ①~⑤は、コロナ禍以降にCC大学に入学した13期生~15期生に対して、CC大学修了後の状況について尋ねたものである。

①CCクラブ会員との交流

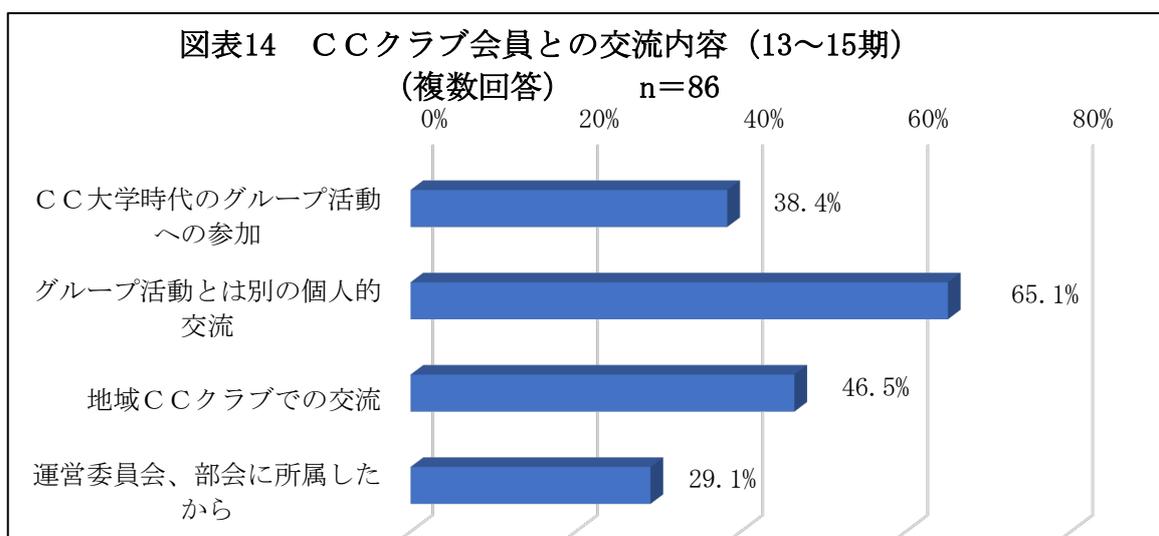
この設問は、CC大学修了後に、CCクラブ会員と交流しているかどうかを尋ねたものである。図表13のとおり、「交流している」が75.0%、「交流していない」が24.1%であった。



②CCクラブ会員との交流内容

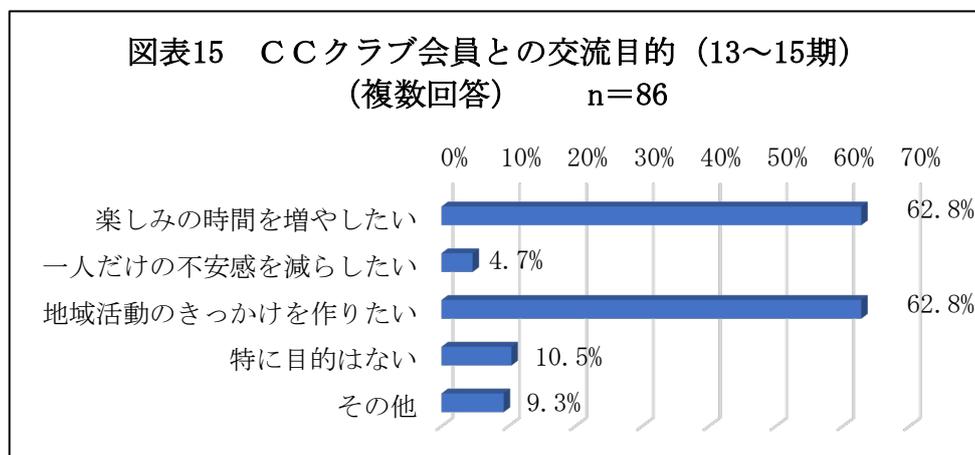
図表 14 は、CCクラブ会員と交流している人に尋ねた質問で、交流の内容を答えてもらったものである（複数回答）。最も割合が高いものは、「グループ活動とは別の個人的交流」で 65.1%を占めている。次いで、「地域CCクラブでの交流」が 46.5%、「CC大学時代のグループ活動への参加」が 38.4%、「運営委員会、部会に属したから」が 29.1%となっている。

1 期から 12 期については、最も割合が高いものが「CC大学時代のグループ活動への参加」の 62.4%であったが、13 期～15 期では「グループ活動とは別の個人的交流」が 65.1%であり、交流内容の傾向に変化が見られる。



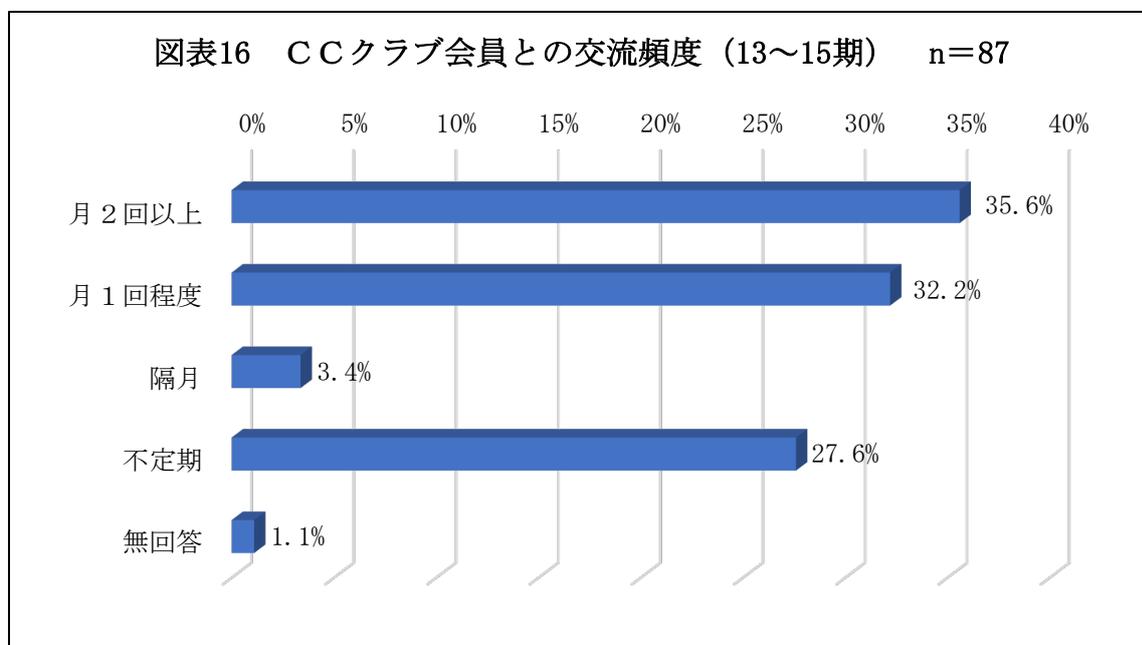
⑤ CCクラブ会員との交流目的

CCクラブ会員との交流目的については（図表 15、複数回答）、「楽しみの時間を増やしたい」と「地域活動のきっかけを作りたい」がともに 62.8%で最も割合が高く、「特に目的はない」が 10.5%、「一人だけの不安感を減らしたい」が 4.7%であった。



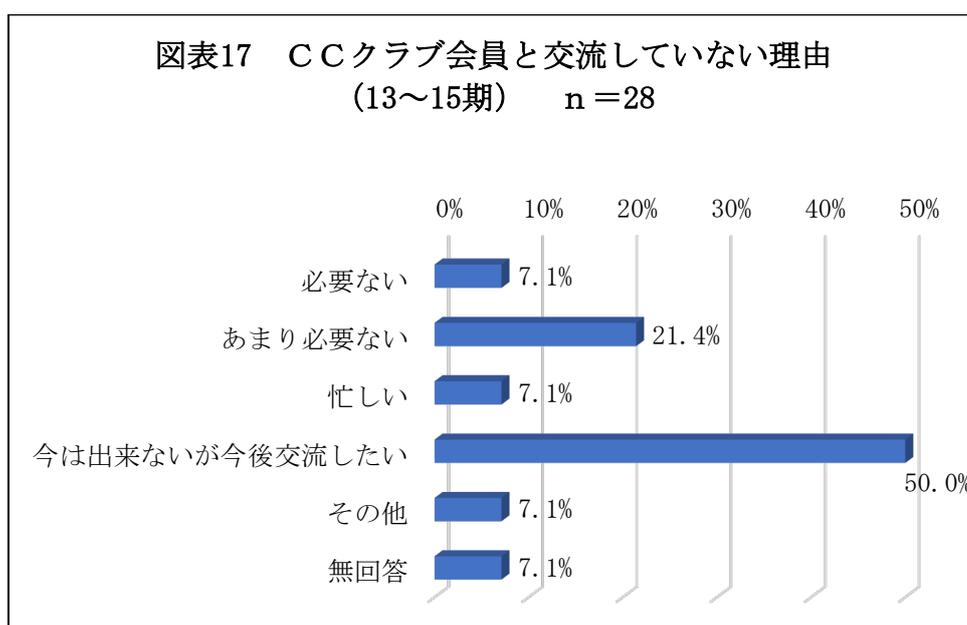
④CCクラブ会員との交流頻度

CCクラブ会員との交流の頻度については（図表16）、「月2回以上」が35.6%と最も割合が高く、次いで「月1回程度」が32.2%、「不定期」が27.6%、「隔月」が3.4%であった。



⑥ CCクラブ会員との交流がない理由

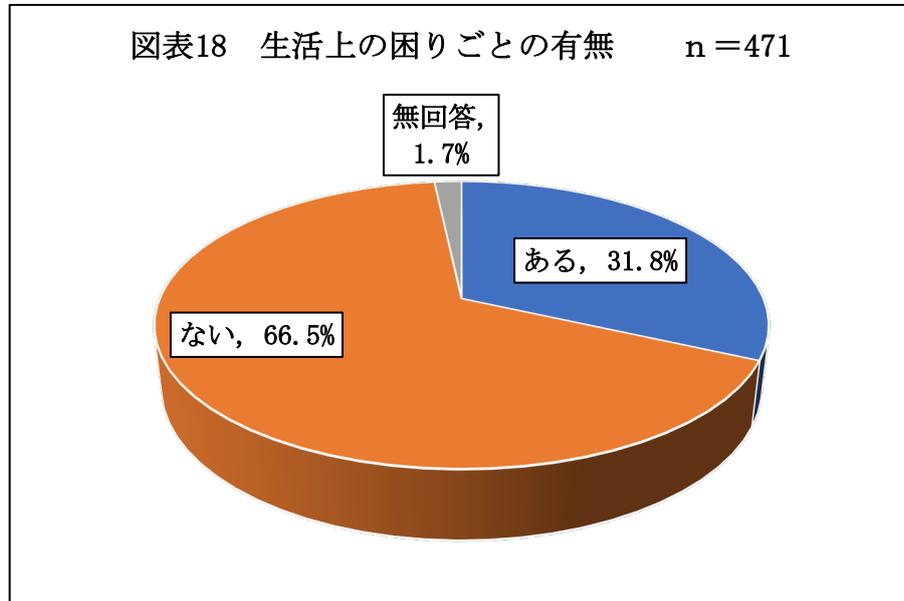
CCクラブ会員との交流がない28人に、その理由を尋ねた（図表17）。「今は出来ないが今後交流したい」が50.0%と最も割合が高かった。次いで、「あまり必要ない」が21.4%、「必要ない」と「忙しい」がともに7.1%であった。



(9) 生活上の困りごと

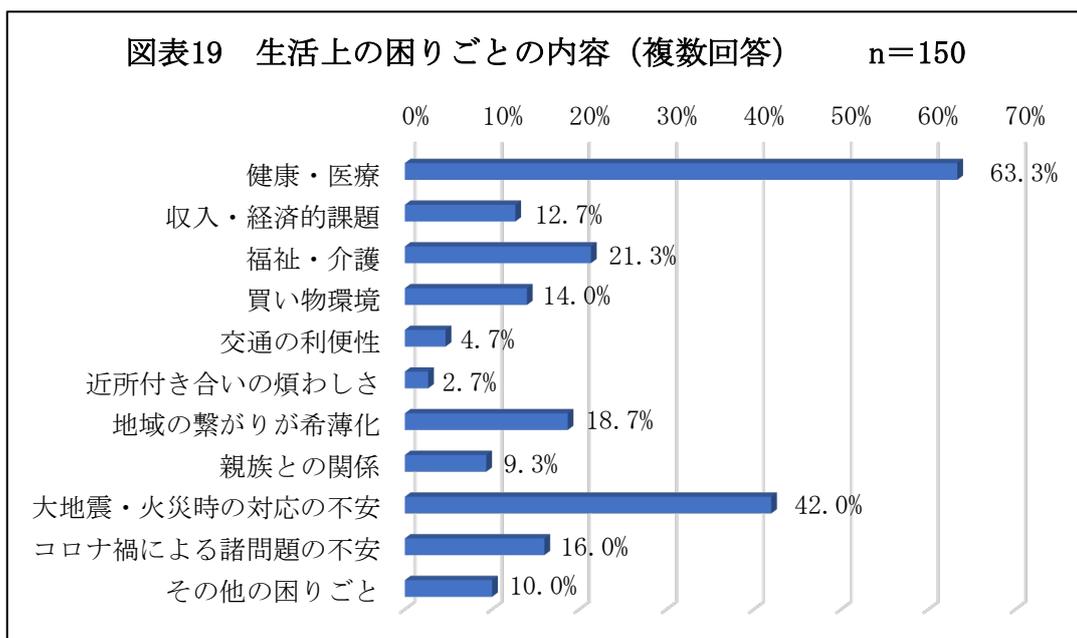
①生活上の困りごとの有無

生活上の困りごとについては(図表18)、「ない」が66.5%、「ある」が31.8%であった。



②生活上の困りごとの内容

生活上の困りごとがあると答えた人に、その内容を尋ねた(図表19、複数回答)。最も割合が高いものは、「健康・医療」で63.3%を占めている。次いで「大地震・火災時の対応の不安」が42.0%、「福祉・介護」が21.3%、「地域の繋がりが希薄化」が18.7%、「買い物環境」が14.0%であった。また、「コロナ禍による諸問題の不安」が16.0%であった。



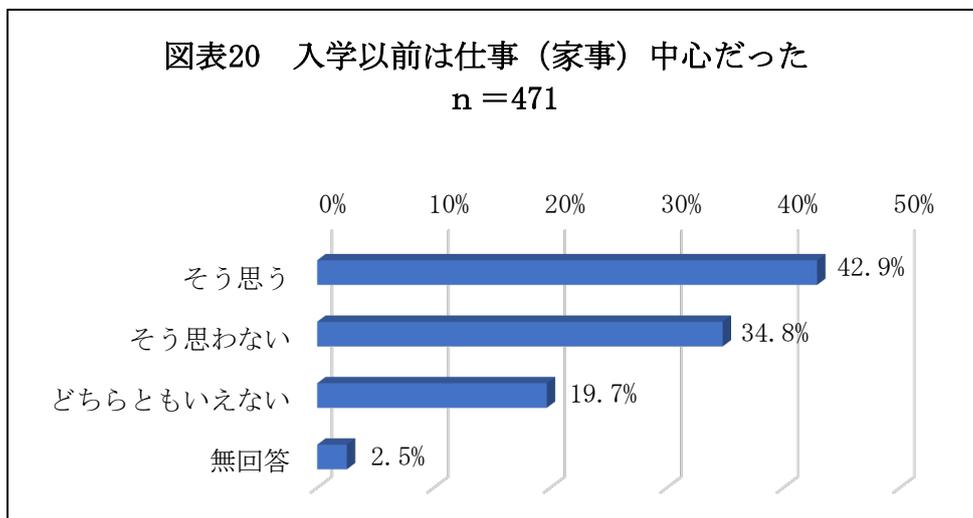
(10) CC大学入学以前と以降の意識について

CC大学入学以前と以降の意識について、次の10項目について尋ねた。

①入学前は仕事（家事）中心だったかどうか

まず、入学以前は仕事（家事）中心であったかどうかの意識を尋ねた（図表20）。

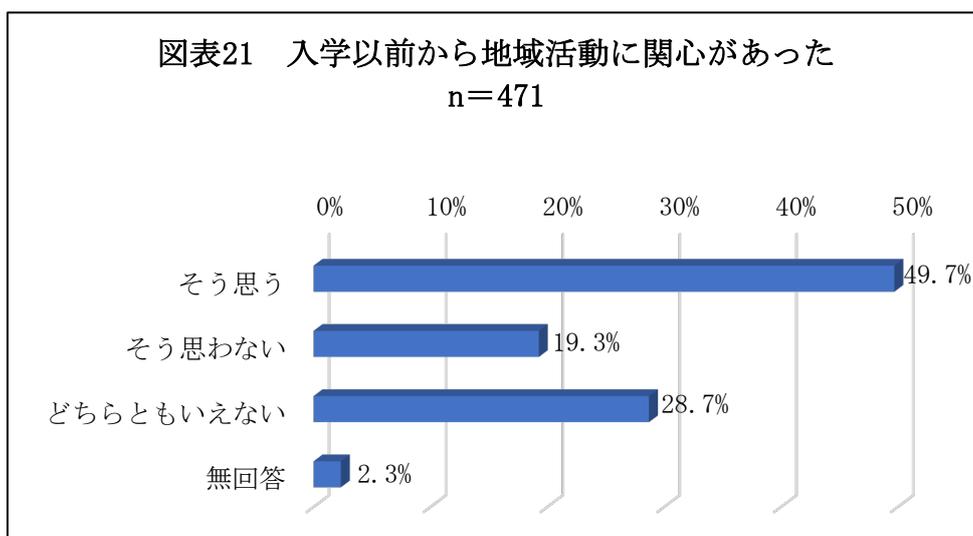
「そう思う」が42.9%、「そう思わない」が34.8%、「どちらともいえない」が19.7%となっている。



②入学以前から地域活動に関心があったかどうか

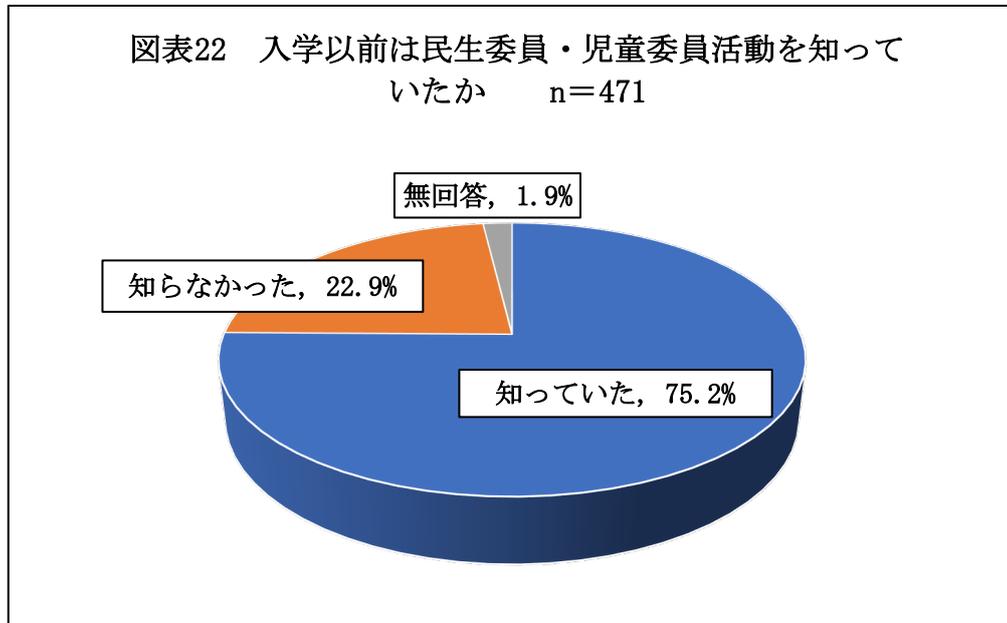
入学以前から地域活動に関心があったかどうかについては（図表21）、「そう思う」が49.7%となっている。他方、「そう思わない」が19.3%、「どちらともいえない」が28.7%であった。

入学以前から地域活動に関心があった人が全体の半数を占めており、地域活動への意識が高い人が多い。



③入学以前に民生委員・児童委員活動を知っていたかどうか

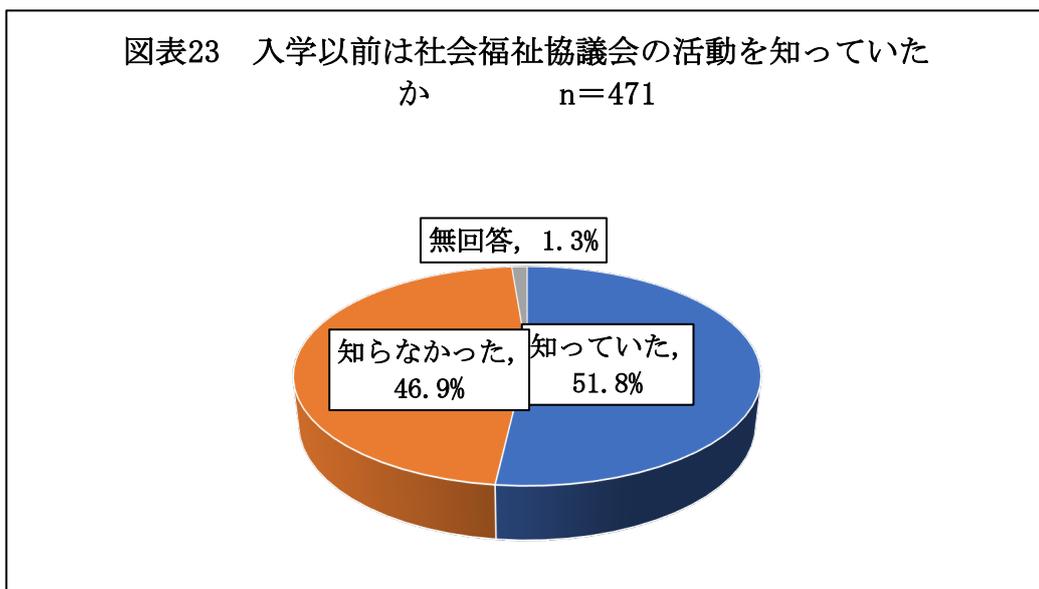
入学以前に民生委員・児童委員活動を知っていたかどうかについては（図表 22）、「知っていた」が 75.2%、「知らなかった」が 22.9%であった。民生委員・児童委員活動を知っていた人が 7 割を超えている。



④入学以前は社会福祉協議会の活動を知っていたかどうか

入学以前に社会福祉協議会の活動を知っていたかどうかについては（図表 23）、「知っていた」が 51.8%、「知らなかった」が 46.9%であった。

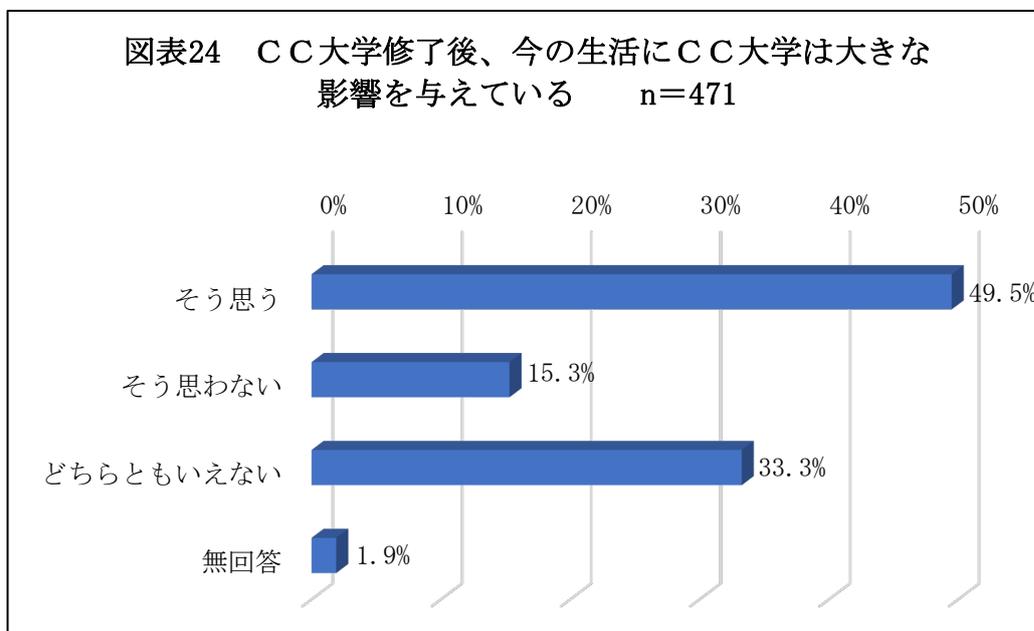
民生委員・児童委員活動よりは社会福祉協議会活動の認知度が低い、それでも 5 割を超えている。



⑤CC大学修了後、今の生活にCC大学は大きな影響を与えているかどうか

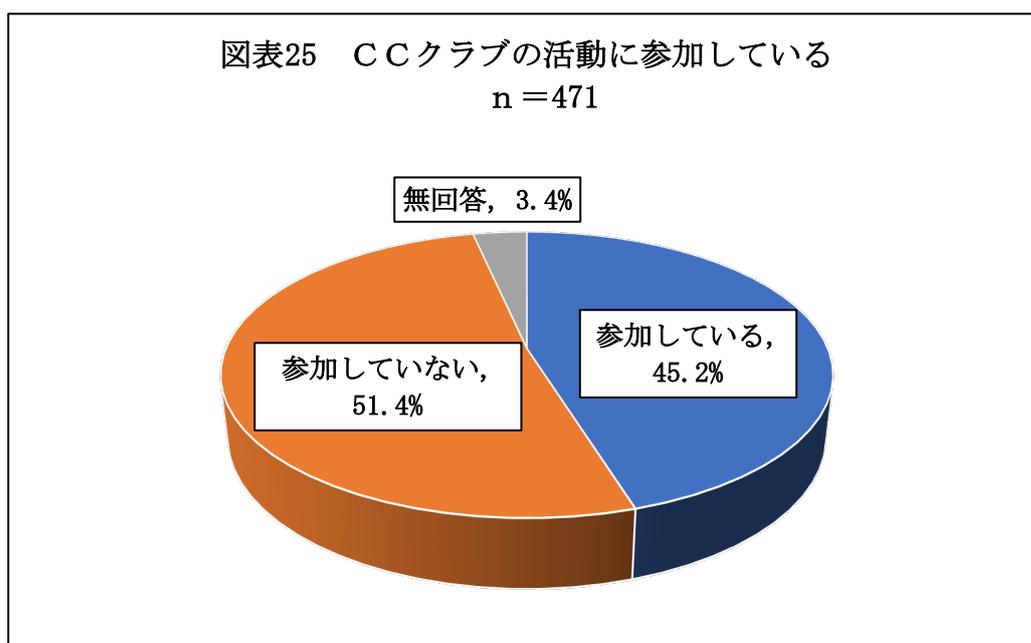
CC大学修了後、今の生活にCC大学は大きな影響を与えているかどうかについては(図表24)、「そう思う」が49.5%、「そう思わない」が15.3%となっている。

このように、CC大学で学んだことが、全体の約半数の人に大きな影響を与えている。



⑥CCクラブの活動に参加しているかどうか

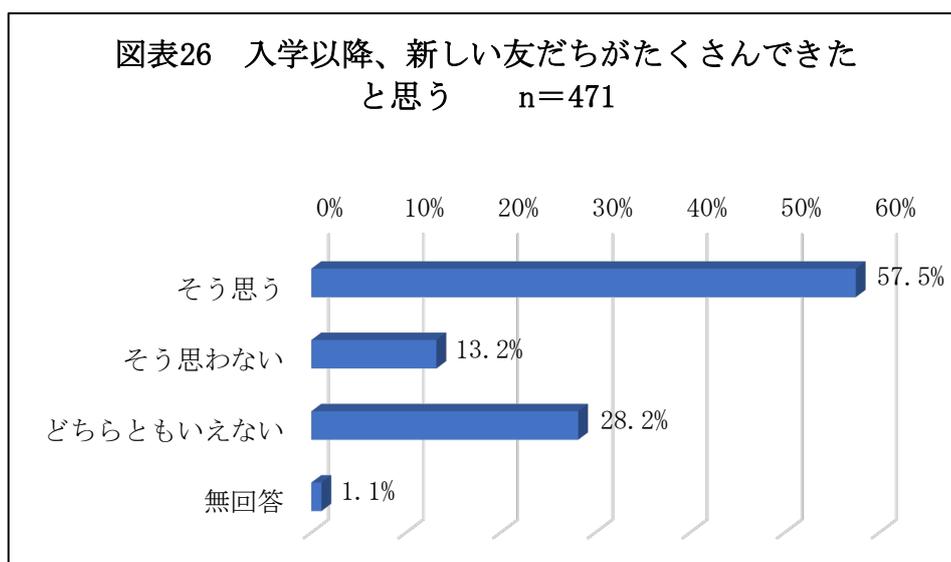
CCクラブの活動に参加しているかどうかについて(図表25)は、「参加している」が45.2%、「参加していない」が51.4%となっている。



⑦入学以降、新しい友だちがたくさんできたかどうか

CC大学入学以降、新しい友だちができたかどうかについては（図表 26）、「そう思う」が 57.5%、「そう思わない」が 13.2%であった。

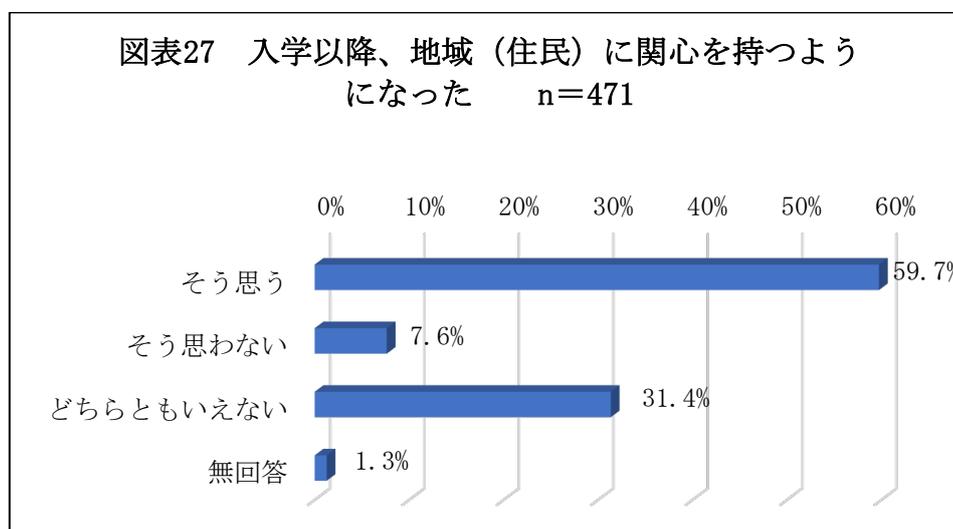
全体の半数以上の人々が「そう思う」と回答しており、CC大学が、これまでのネットワークとは異なる新しい人間関係の形成に大きな役割を果たしている。とくに、コロナ禍の3年間（2020年～2022年）は、人との繋がりの希薄化が社会的な問題となった。そのような中、CC大学への入学は、個々の人間関係の形成および地域での繋がりの形成において重要な機会となった。



⑧入学以降、地域（住民）に関心を持つようになったかどうか

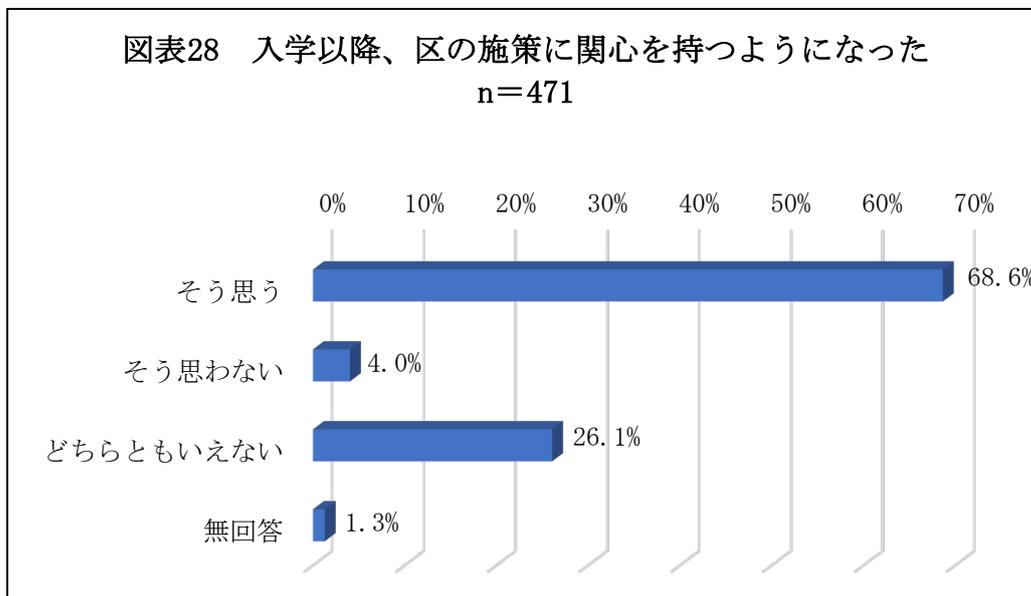
CC大学入学以降、地域や地域住民に関心を持つようになったかどうかについては（図表 27）、「そう思う」が 59.7%、「そう思わない」が 7.6%であった。

全体の6割の人が、以前より地域や地域住民に関心を持つようになっている。



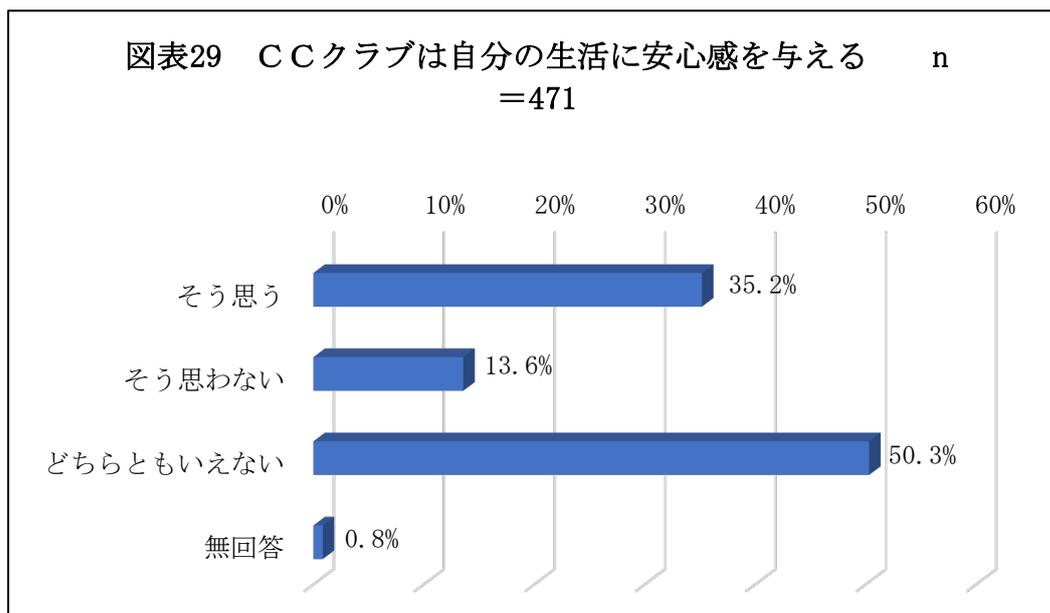
⑨入学以降、区の施策に関心を持つようになったか

CC大学入学以降、港区の施策に関心を持つようになったかどうかについては(図表28)、「そう思う」が68.6%、「そう思わない」が4.0%であった。全体の7割の人が、以前より港区の施策に関心を持つようになっている。



⑩CCクラブは自分の生活に安心感を与えるかどうか

CC大学入学以前と以後の意識についての設問の最後は、CCクラブの存在が自分にとってどのような意識的位置を与えているかを尋ねた。図表29のとおり、「自分の生活に安心感を与えるかどうか」については、「そう思う」が35.2%、「そう思わない」が13.6%となっている。



(11) 地域活動、社会福祉活動について

ここでは、CCクラブ会員が、どのような地域活動、社会福祉活動をしているかを見てみる。以下、活動の有無、活動していない場合の理由、活動の拠点、活動内容などについて尋ねたものである。

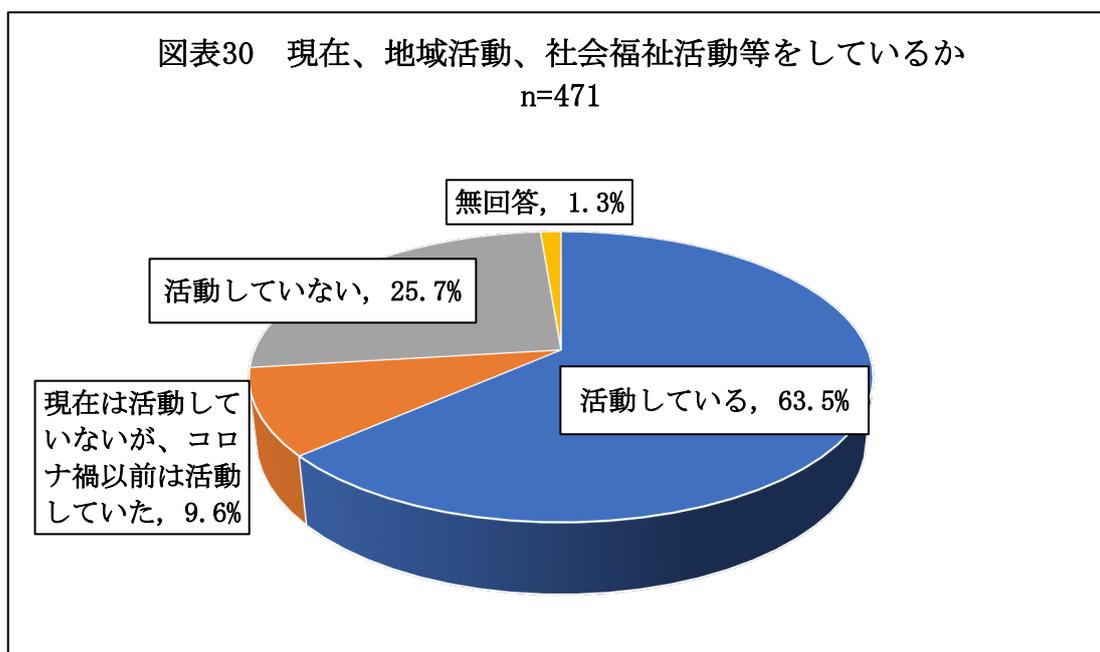
① 地域活動、社会福祉活動を現在しているかどうか

地域活動、社会福祉活動をしているかどうかについては（図表 30）、「活動している」が 63.5%、「現在は活動していないが、コロナ禍以前は活動していた」が 9.6%、「活動していない」が 25.7%となっている。

新型コロナの感染拡大は、地域活動に大きな制約をもたらした。当初は、地域活動だけでなく対面の会議も制限されCCクラブにも大きな影響を与えた。

しかしCCクラブは役員を中心に、リモートでの通信手法をいち早く学び、その技術を習得して会員に広めた。そのおかげで、以前に活動していたがコロナ禍で活動を控えていた人ともつながりを維持してることができた。実際に、最近の傾向として、地域活動、CCクラブの諸活動に復帰している会員が多くなってきている。

この現状を踏まえれば、コロナ禍でも地域活動、社会福祉活動を継続してきた会員、活動を再開した会員、そして再開したいと考えている会員が7割強（73.1%）いると言える。



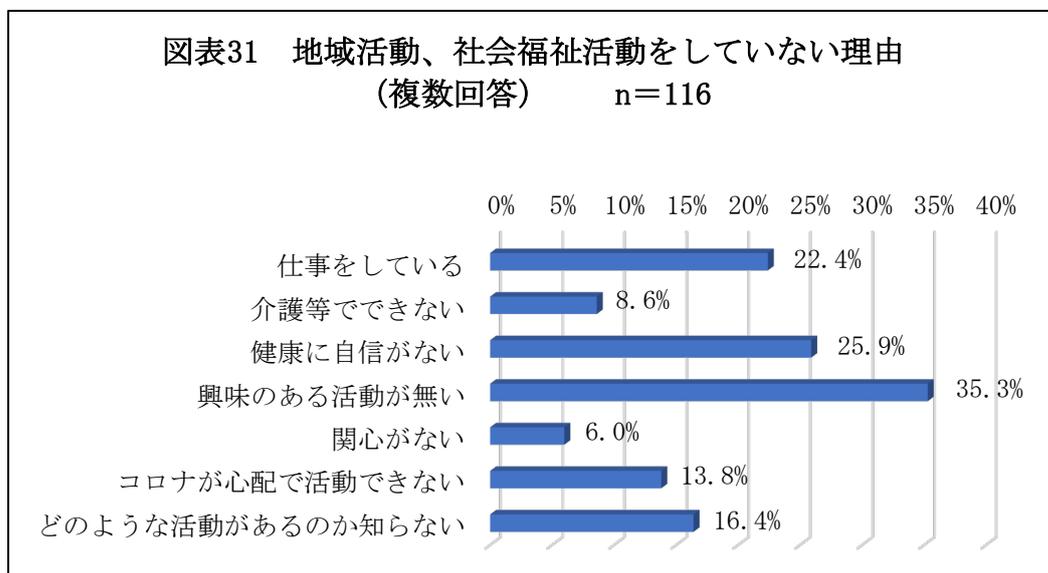
② 地域活動、社会福祉活動をしない理由

他方、地域活動、社会福祉活動をしていない 116 人に、その理由を尋ねた（図表 31、複数回答）。

最も多いものは、「興味のある活動がない」で 35.3%、次いで「健康に自信がない」が 25.9%、「仕事をしている」が 22.4%、「どのような活動があるのか知らない」が 16.4%

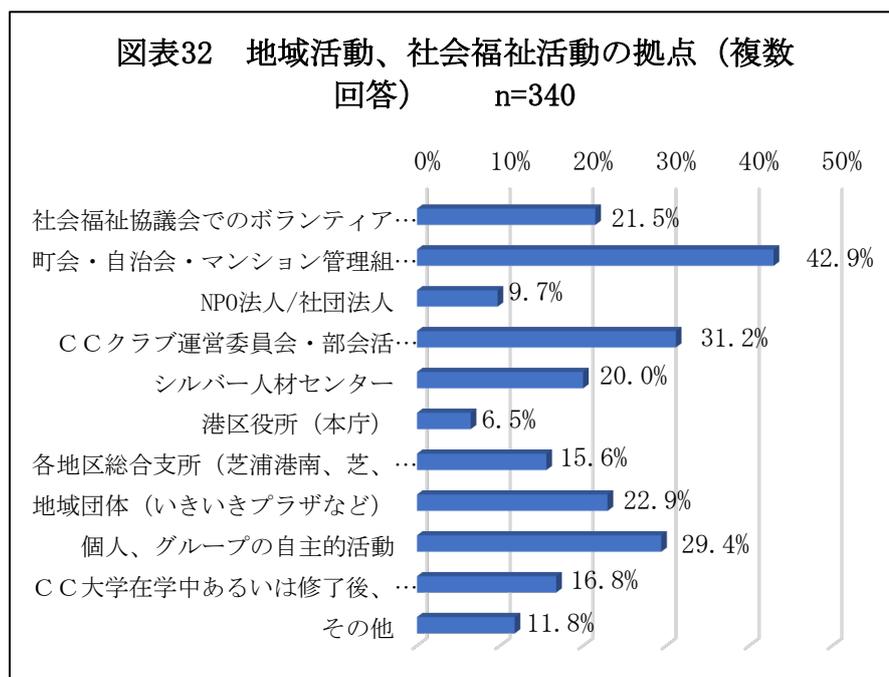
であった。また、「コロナが心配で活動できない」と答えた人が13.8%いた。

「興味のある活動が無い」と「どのような活動があるのか知らない」を合わせた5割の人については、活動内容や働きかけの工夫によっては、活動への参加に転じる可能性がある。



③ 現在の地域活動・社会福祉活動の拠点

図表32は、現在あるいは過去2～3年も含めた地域活動、社会福祉活動の拠点について答えてもらったものである(複数回答)。

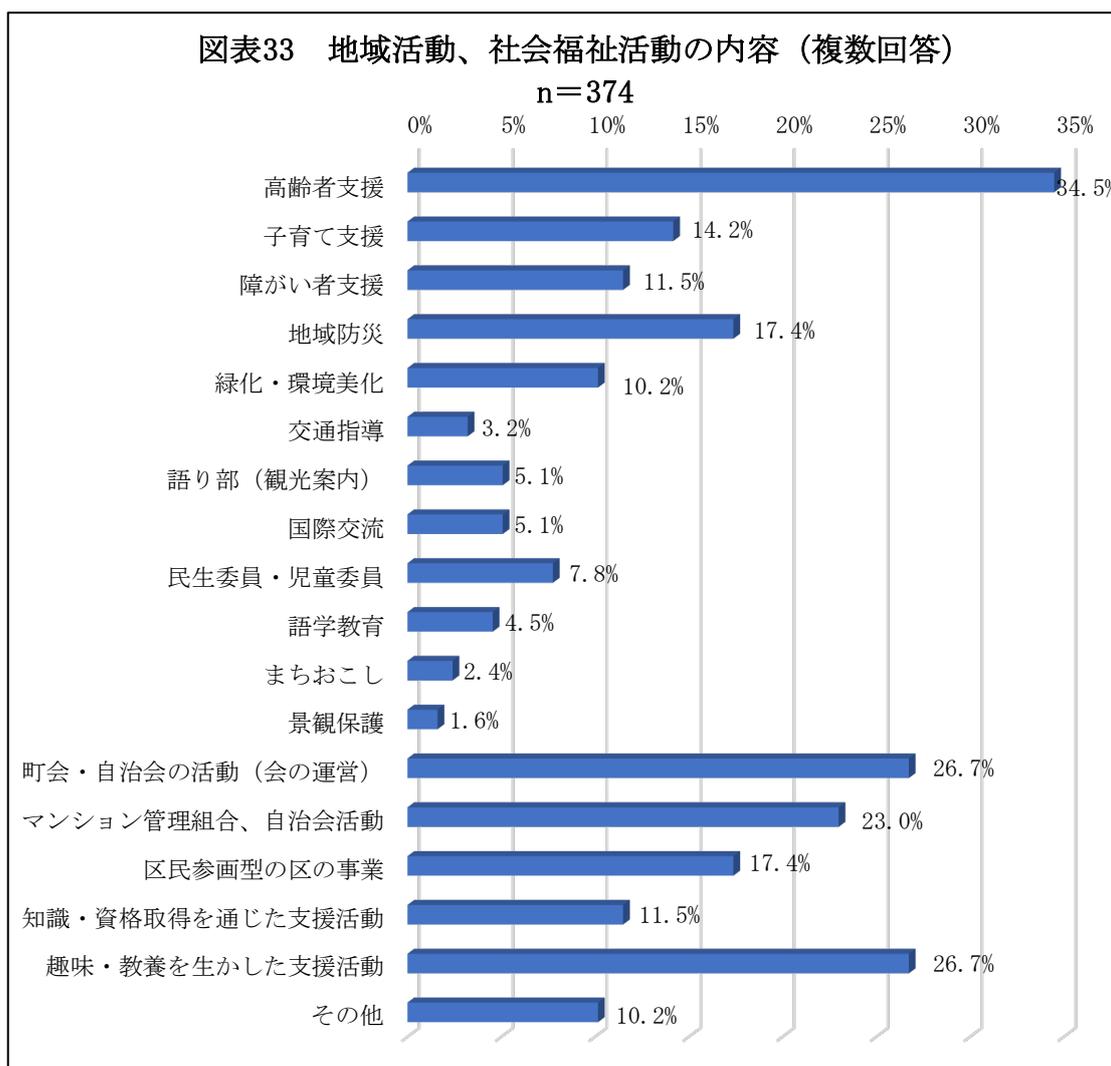


活動拠点として最も高い割合のものは、「町会・自治会・マンション管理組合・老人クラブ等」で 42.9%、次いで「CCクラブ運営委員会・部会活動、地域CCクラブ活動」が 31.2%、「個人、グループの自主的活動」が 29.4%、となっている。「地域団体（いきいきプラザなど）は 22.9%、「社会福祉協議会でのボランティア活動」が 21.5%、「シルバー人材センター」が 20.0%であった。

このように、CCクラブ会員は、多様な拠点で活動を展開している。

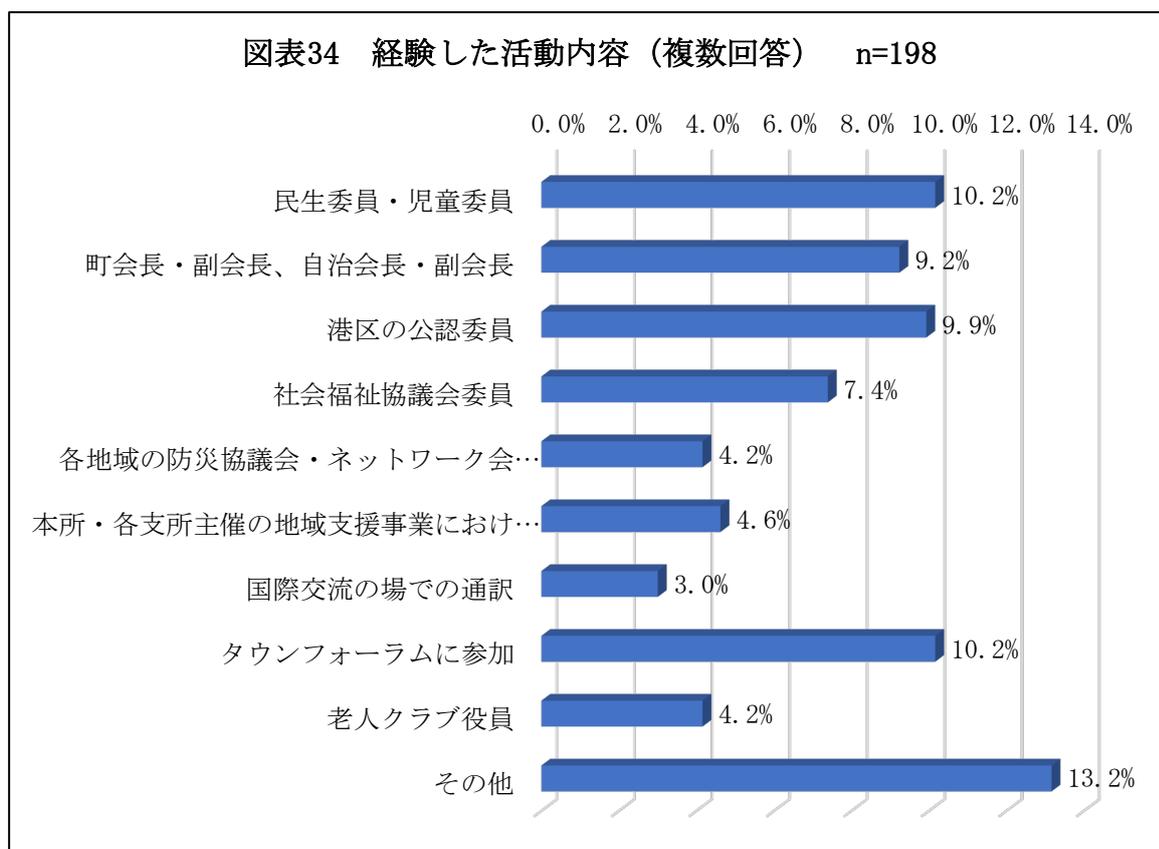
④ 地域活動・社会福祉活動の内容

図表 33 は地域活動・社会福祉活動の内容を見たものである（複数回答）。最も割合が高いものは、「高齢者支援」で 34.5%となっている。次いで、「町会・自治会の活動（会の運営）」と「趣味・教養を活かした支援活動」がともに 26.7%、「マンション管理組合、自治会活動」が 23.0%、「地域防災」と「区民参加型の区の事業」がともに 17.4%、「子育て支援」が 14.2%、「障害者支援」と「知識・資格取得を通じた支援活動」がともに 11.5%、「緑化・環境美化」が 10.2%となっている。



⑤ これまで経験した活動内容

図表 34 は、CCクラブ会員が、これまで経験した活動内容である（複数回答）。最も割合が高いものが「民生委員・児童委員」と「タウンフォーラムに参加」がともに 10.2%であった。次いで、「港区の公認委員」が 9.9%、「町会長・副会長、自治会長・副会長」が 9.2%、「社会福祉協議会委員」が 7.4%、「本所・各支所主催の地域支援事業における委員会・協議会の会長・副会長・座長」が 4.6%、「各地域の防災協議会・ネットワーク会長・副会長」と「老人クラブ役員」がともに 4.2%となっている。「その他」が 13.2%と多いのは、CCクラブ会員が、ここにあげた活動内容以外の多様な活動に参加していることを示している。



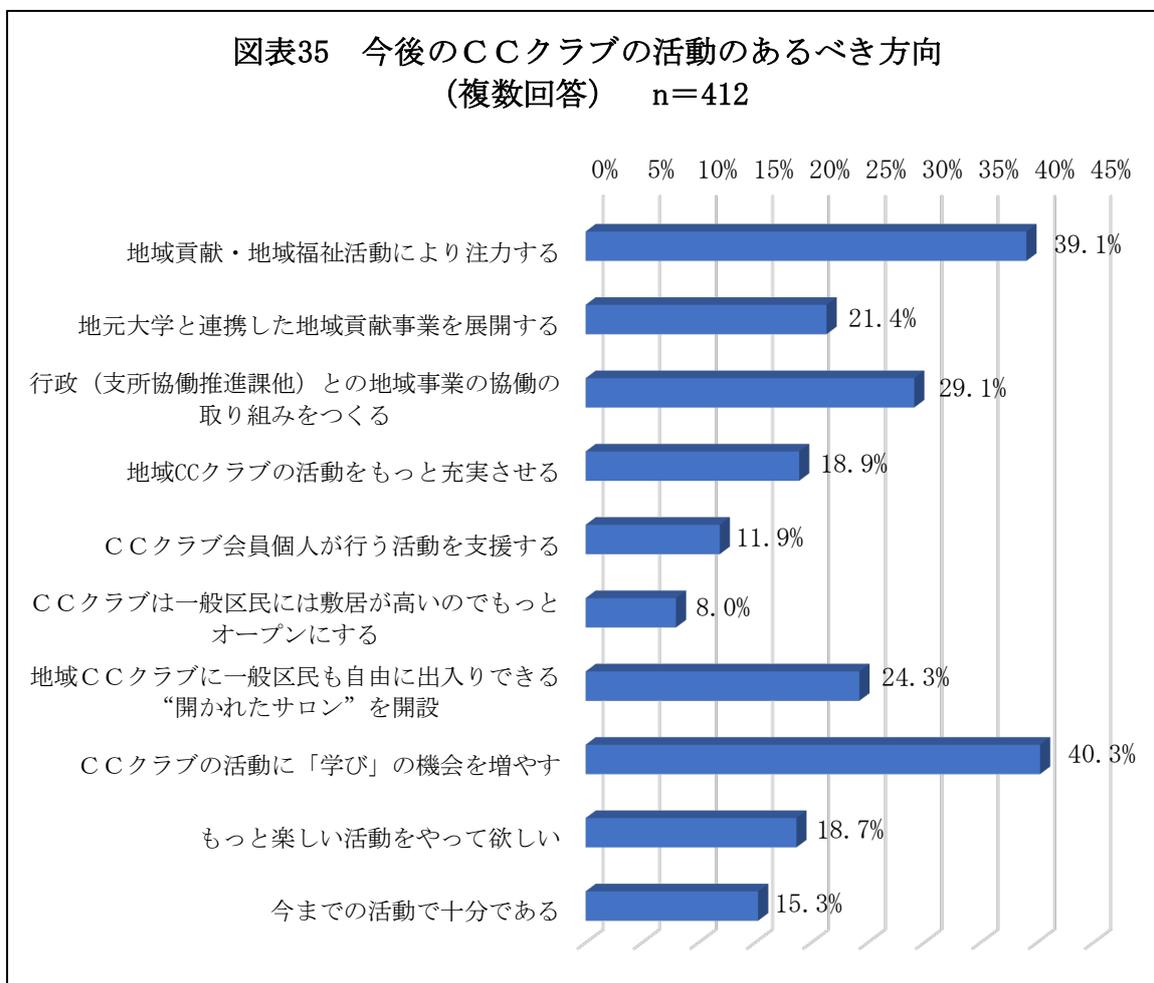
(12) CCクラブの今後の活動について

① 今後のCCクラブの活動のあるべき方向

図表 35 は、今後のCCクラブの活動のあるべき方向について尋ねた結果である（複数回答）。最も割合が高いものは、「CCクラブの活動の『学び』の機会を増やす」で 40.3%、次いで、「地域貢献・地域福祉活動により注力する」が 39.1%、「行政（支所協働推進課他）との地域事業の協働の取り組みをつくる」が 29.1%、「地域CCクラブに一般区民も自由に入出りできる『開かれたサロン』を開設」が 24.3%、「地元大学と連携した地域貢献事業を展開する」が 21.4%となっている。

その他として、「地域CCクラブの活動をもっと充実させる」が 18.9%、「もっと楽しい

活動をやって欲しい」が 18.7%、「今までの活動で十分である」が 15.3%、「CCクラブ
会員個人が行う活動を支援する」が 11.9%、「CCクラブは一般区民には敷居が高いの
でもっとオープンにする」が 8.0%となっている。



② 携帯電話などのモバイル環境について

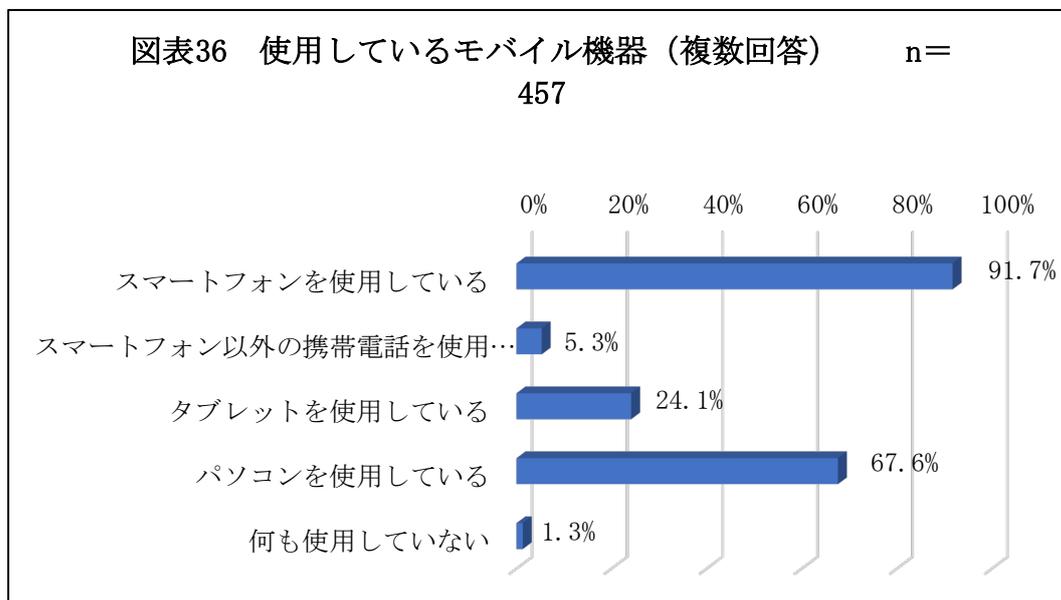
CCクラブは、月1回、運営委員会を開催して全体活動を進めてきている。会の運営
や会員同士の情報交換の媒体として、モバイル環境の整備やSNS等の利用は有効であろ
うと考える。これらを踏まえCCクラブ会員のモバイル環境について尋ねた。

1) どのようなモバイル機器を使用しているか

図表 36 は、使用しているモバイル機器について尋ねた結果である（複数回答）。最
も割合が高かったのは、「スマートフォンを使用している」が 91.7%であった。次い
で、「パソコンを使用している」が 67.6%、「タブレットを使用している」24.1%、「ス
マートフォン以外の携帯電話を使用している」が 5.3%、「何も使用していない」は
1.3%となっている。

前回調査（2018年）で、スマートフォンを使用している人の割合は 68.3%と 7 割弱

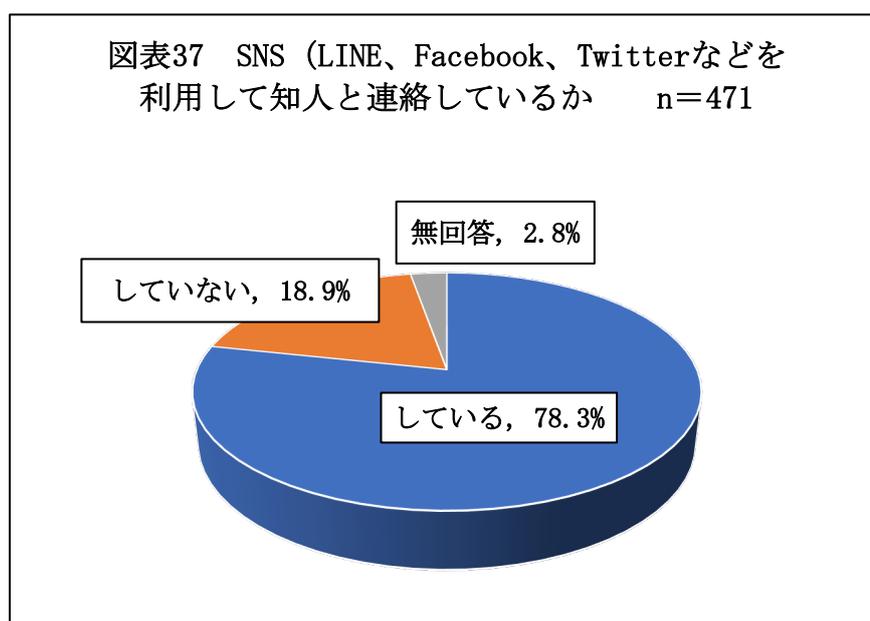
であったが、今回の調査では91.7%と全体の9割に増加している。多くの人がスマートフォンを使用している状況である。



2) SNS (LINE、Facebook、Twitter など) を利用して知人と連絡しているか

図表37は、SNS (LINE、Facebook、旧Twitter など) を利用して知人と連絡しているかどうかを尋ねた結果である。「している」が78.3%。「していない」が18.9%であった。

前回調査 (2018年) では、「している」と「していない」の割合はほぼ半々であったが、今回の調査では、「している」が全体の8割弱まで増加している。この結果は、スマートフォンを使用している人の増加を反映しているものと考えられる。

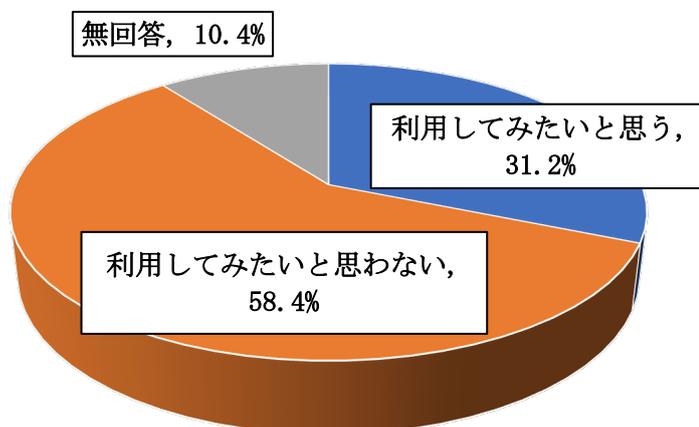


3) CCクラブのホームページを SNS で簡単に投稿できれば、連絡・コメント等で利用してみたいか

図表 38 は、CC クラブのホームページに SNS で簡単に投稿できれば、連絡・コメントなどグループ間で利用してみたいかどうかを尋ねた結果である。

「利用してみたいと思う」が 31.2%、「利用してみたいと思わない」が 58.4%であった。前の質問では、SNS を利用して知人と連絡をとっている人の割合が高かったが、CC クラブのホームページを活用した情報交換については、利用したいと考える人は全体の 3 割にとどまった。

図表38 CCクラブのホームページをSNSで簡単に投稿できれば、自分も連絡やコメントなどグループ間で利用してみたいか n=471

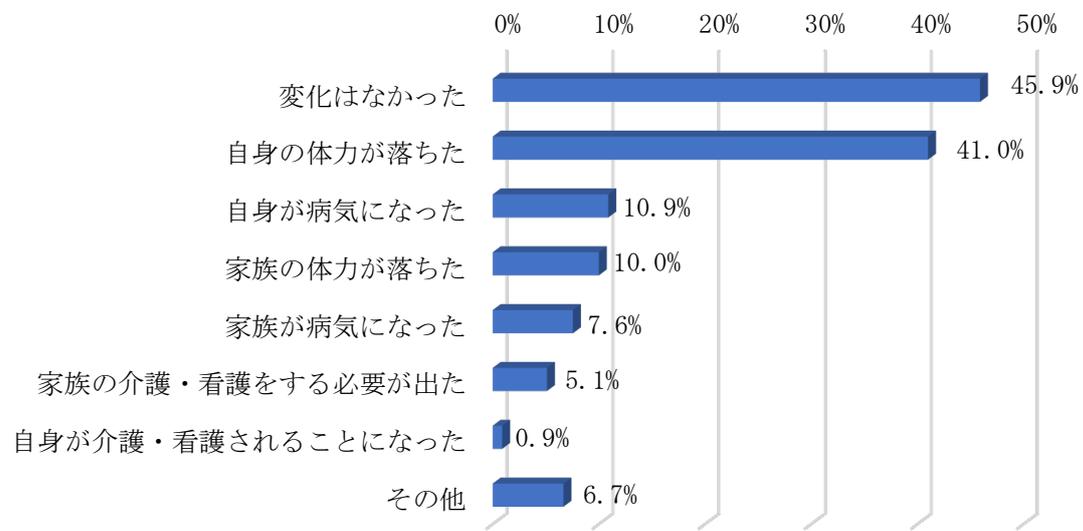


(13) コロナ禍以降の変化について

① コロナ禍以降、自身や家族に変化があったか

図表 39 は、コロナ禍以降、自身や家族に変化があったかどうかを尋ねた結果である（複数回答）。「変化はなかった」が 45.9%と最も割合が高かった。次いで、「自身の体力が落ちた」が 41.0%で、全体の 4 割の人が体力の低下を感じている。その他、「自身が病気になった」が 10.9%、「家族の体力が落ちた」が 10.0%、「家族が病気になった」が 7.6%、「家族の介護・看護をする必要が出た」が 5.1%となっている。

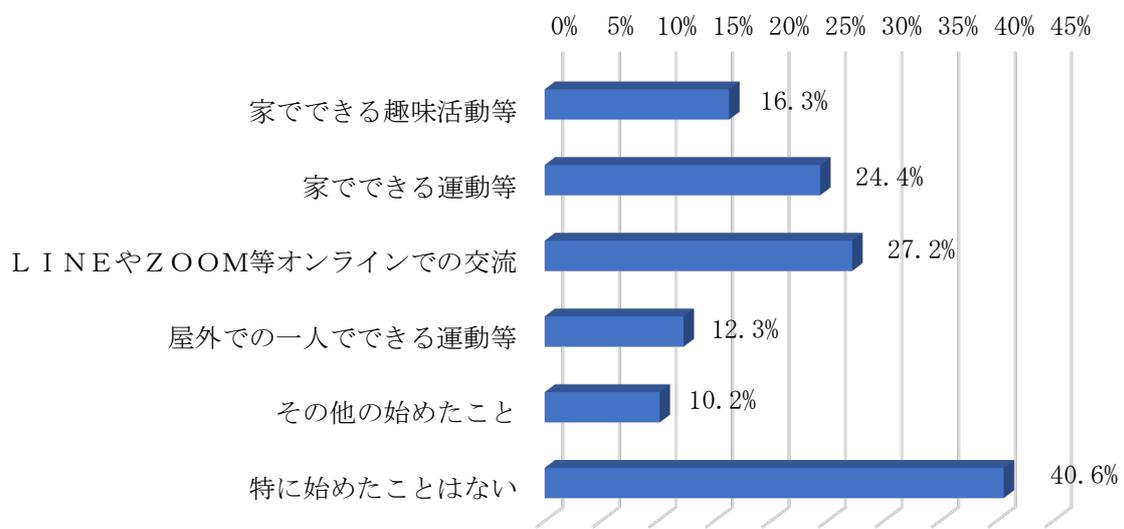
図表39 コロナ禍以降、自身や家族に変化があったか
(複数回答) n=449



②コロナ禍になってから新しく始めたこと

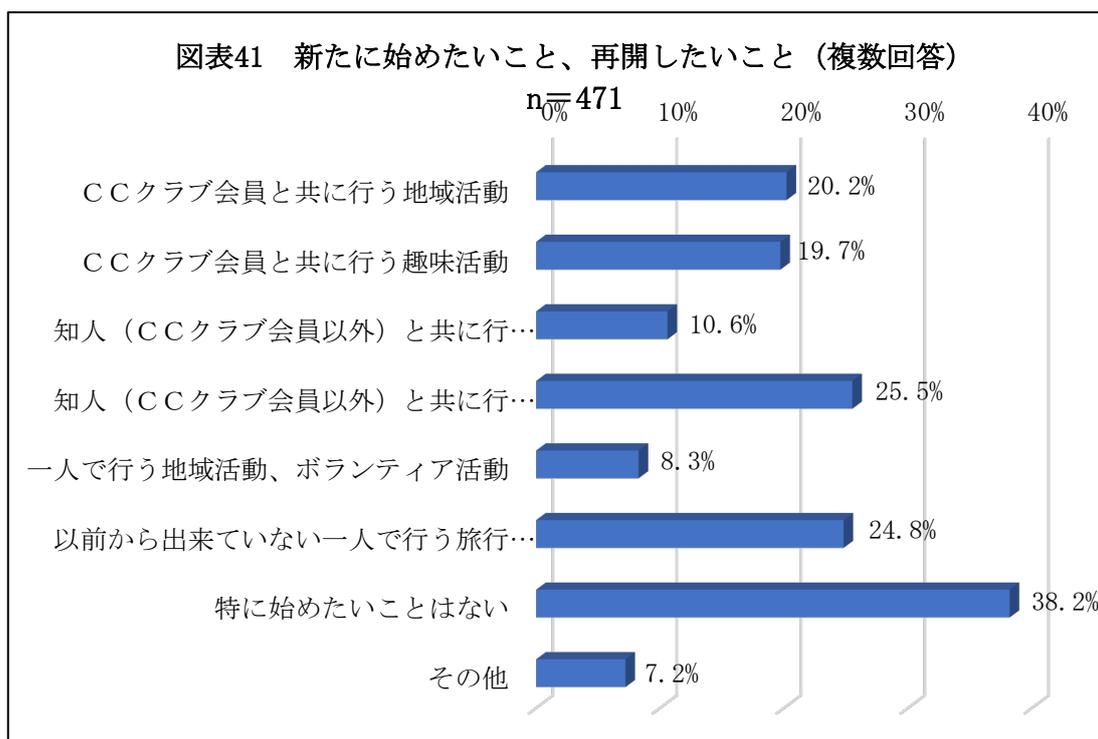
図表40は、コロナ禍になってから新しく始めたことについて尋ねた結果である(複数回答)。「特にはじめたことはない」が40.6%で最も割合が高い。次いで、「LINEやZOOM等のオンラインでの交流」が27.2%、「家でできる運動等」が24.4%、「家でできる趣味活動等」が16.3%、「屋外での一人でする運動等」が12.3%、「その他始めたこと」が10.2%となっている。

図表40 コロナ禍以降、新しく始めたこと(複数回答)
n=471



③今後、新たに始めたいこと、再開したいこと

図表 41 は、コロナの感染症分類が 2 類から 5 類になり、人々の行動制限が大幅に緩和されたなかで、新たに始めたいことまたは再開したいことについて尋ねた結果である（複数回答）。「特に始めたいことはない」が 38.2%で最も割合が高かった。他方、「知人（CCクラブ会員以外）と共に行う趣味活動」が 25.5%、「以前から出来ていない一人で行う旅行や趣味活動」が 24.8%、「CCクラブ会員と共に行う地域活動」が 20.2%、「CCクラブ会員と共に行う趣味活動」が 19.7%など、全体の 2 割の人が、今後、旅行や趣味活動、地域活動を始めたいと考えている。



(14)問 20「コロナ禍で出来なくなったこと、現在もできていないこと」自由回答

次に「コロナ禍で出来なかったこと、現在もできていないこと」について選択肢を選ぶ方法でなく自由に書いてもらうことにした。

I 自由回答の分類

自由記述の回答者総数は 183 名であった。以下では、回答内容をもとに分類し、項目ごとのケース数を示し、さらに主な項目についての具体例を選択して記載する。

なお、以下の回答内容の項目ごとの合計数は、1 つの回答には複数の意見が書かれているものがあり、それらを項目ごとに数えているので、回答者総数と回答総数とは一致しない。項目ごとの合計数は 278 ケースであった。

1. 家族や友人との会食と飲食ができなくなったこと (61 ケース)

- ①友人との会食ができなくなった 25 ケース
- ②友人との飲食ができなくなった 8 ケース
- ③家族、親族との会食ができなくなった 4 ケース
- ④その他のケースや会食ができなくなった 23 ケース
- ⑤その他のケースや飲食ができなくなった 1 ケース

2. 家族友人との会合や交流ができなくなったこと (61 ケース)

- ①友人との会合や交流ができなくなった 33 ケース
- ②CCクラブ会員との会合や交流ができなくなった 7 ケース
- ③家族、親族との会合や交流ができなくなった 4 ケース
- ④その他会合、交流ができなかった 17 ケース

3. 趣味のために外で出かけることができなくなったこと (57 ケース)

- ①歌を歌うこと、カラオケに行くこと、コーラスに行くことができなくなった
25 ケース
- ②美術館、映画館に行けなくなった 6 ケース
- ③運動に行く機会がなくなった 6 ケース
- ④趣味の講座、パソコン教室に行けなくなった 5 ケース
- ⑤料理教室に行けなくなった 4 ケース
- ⑥その他の趣味ができなくなった 11 ケース

4. ボランティア活動に参加できなくなったこと (49 ケース)

- ①食事作りのボランティア活動ができなくなった 12 ケース
- ②地域活動ができなくなった 12 ケース
- ③歌のボランティアができなくなった 7 ケース
- ④介護施設に行けなくなった 7 ケース
- ⑤サロン活動ができなくなった 6 ケース
- ⑥居場所作りのボランティアができなくなった 5 ケース

5. 海外旅行や国内旅行ができなくなったこと (19 ケース)

- ①海外旅行に行けなくなった 11 ケース
- ②国内旅行に行けなくなった 8 ケース

6. CCクラブの活動に参加できなくなったこと (14 ケース)

- ①CCクラブの活動に参加できなくなった 14 ケース

7. 外出ができず、病院への面会や葬儀にいけなくなったこと (11 ケース)

- ①外出ができなくなった 6 ケース
- ②病院の面会ができなくなった 2 ケース
- ③葬儀に行けなくなった 2 ケース
- ④近隣の訪問ができなくなった 1 ケース

8. その他の意見 (6 ケース、2.2%)

- ①仕事や海外出張ができなくなった 3 ケース
- ②健康に関することができなくなった 2 ケース
- ③オンライン交流になってしまった 1 ケース

II 自由回答の具体例

複数の記載があるものは代表的な項目に入れた。

1. 家族や友人との会食と飲食ができなくなったこと

①友人との会食ができなくなった

- ・70 歳代 女 グループでの会議 (対面)・グループでの会食・歌のレッスン・習字教室の閉鎖・新幹線での里帰りなど。
- ・70 歳代 男 会食で交流会の活動が不自由になった。
- ・70 歳代 女 特にないが、障害者親の会のクリスマス会、新年会など会食が企画しづらくなった。
- ・60 歳代 女 友人などとの会食が出来なくなりました。激しい運動 (例えばジャス・エアロビクス) が出来なくなり、今も、開始出来てない。
- ・70 歳代 女 複数で集まる友人との会食が減った。スポーツジムでの運動をやめた。
- ・70 歳代 男 ランチに行く事が少なくなった。会食は2ヵ月に1回。旅行に行けなくなった。必要ない限り、人との出会いはなくなった。

②友人との飲食ができなくなった

- ・80 歳代 男 友人、知人等との会食、会話、各種教室の中止等。旅行、趣味の会。
- ・70 歳代 男 会食を月1度CCメンバーで行っていましたが、出来なくなりました。
- ・70 歳代 男 古くからの友人との会合 (飲み会等)。
- ・70 歳代 男 職場での定期的な会食が無くなった (コミュニケーションの場が無くなる)。OBも含めた情報交換もあり残念でならない。

③家族、親族との会食ができなくなった

- ・70 歳代 男 (現在はできている) コロナ禍で、親族とテーブルを囲んでの食事会
- ・60 歳代 男 友人との直接の交流、特に飲み会、食事会など妻や家族との旅行、外食、その他の行事。
- ・80 歳代 女 親戚や友人との会食等含め交流が激減した。
- ・70 歳代 女 友人との会話、会食。家族との会食 (子や孫との会食激減)。ボラン

ティア。

④その他のケースや会食ができなくなったと答えた方

・80歳代 男 食に関することが一番の多かった様で未だに元に戻っていない。今までの様に外で、みんなで飲み、歌うことが出来なかったことかな…。

⑤その他のケースや飲食ができなくなったと答えた方

・60歳代 男 飲食を伴う会合

2. 家族友人との会合や交流ができなくなったこと

①友人との会合や交流ができなくなった

・70歳代 女 地域以外での友人との交流。

・80歳代 女 友人と会えず対面での会話が出来なかった事は精神的につらく、淋しい日々でした。歌を歌う時はまだマスク着用ですので不自由です。

・70歳代 女 以前活発に行っていたグループ活動への参加やSNSへの投稿が億劫になり、家に居る事が多くなった。

・70歳代 男 友人と会う機会は減ったが、運動と趣味の活動は継続している。

・70歳代 男 会議にしても対面でないと熱が伝わらない。これからも対面会議を重視したい。

・70歳代 女 遠い友人と会えない。カラオケが出来ない。海外、国内旅行が出来ない。

・70歳代 女 一番辛く心を痛めたのは、子供の頃からお世話になった方々へいろいろな機会を作って顔を出していた事が出来なくなった時、ストレスになり、精神的に不安定になっている自分を感じました。

・80歳代 男 交流が出来なかった。対人関係は交流から生まれると思う。

②CCクラブ会員との会合や交流ができなくなった

・70歳代 女 CC終了直前にコロナ禍となり、会員とのつながりが途切れたままになっている。LINEを立ち上げたが続かず残念に思っています。

・70歳代 女 コロナ禍でグループ活動（会食、歌、スポーツ）を中止していたが、そのうち未だ再開に至っていないものや実質的に解散状態となったものが半分程度はある。

・70歳代 女 友人との交流機会が減少した。仕事の回数が減った。対面での仕事が減った。

・70歳代 男 CCでできた友人との交流。

・70歳代 女 コロナ禍と自身の老化が重なり外出不可や困難な体調になり、CC仲間と会えなくなった事がありました。唯、Lineを使い心の交流はできていました。現在はグループサロン活動を再開、杖を頼りに参加しています。

・年齢不詳 男 懇親会等が出来ない状態です。友人との交流も少なくなっている！

③家族、親族との会合や交流ができなくなった。

・60歳代 女 コロナ禍で、子供や孫との交流が減り、旅行や実家への移動も制限を受けた。趣味の活動も、出来なくなり、意欲も失しなわれつつある。ボランティア等

ふやしたかったが、受入体制にも未まだ制限がある。

- ・70歳代 女 姉妹との行き来ができない。
- ④その他会合、交流ができなかったと答えた人
 - ・80歳代 男 人との交流が激減→社会の在り方が大きく変容。一方で、自分の高齢化が進み、生活の維持ができなくなった。
 - ・80歳代 女 シルバー（港区シルバー人材センター）の会合事業に係わっておりましたがコロナにて中止となりました。その後会合や料理に関する件は中止が続いております。会食を利用していた方にはどの様になさっているか心配しております。
 - ・70歳代 女 外に出なくなったことで、情報が届かず、まわりで何か楽しいことをやってもわからず、家の中に居ることが多くなった。

3. 趣味のために外で出かけることができなくなったこと

- ①歌を歌うこと、カラオケに行くこと、コーラスに行くことができなくなった
 - ・70歳代 女 コーラスをはじめていたが、コロナ禍で中断、再開したいが、多勢で集まり、発声する事に、まだ不安がある。
 - ・70歳代 女 合唱サークルが中止になり、再開したが、意欲が失せて参加していない。
 - ・60歳代 女 歌を歌う事がなくなりました。歌わなかった期間が長すぎて歌いたいという意欲がなくなってしまいました。
- ②美術館、映画館に行けなくなった
 - ・80歳代 女 病人がでてしまい、美術館等行く機会がへってしまった事。
 - ・70歳代 女 美術館などに行くことが減った。感染対策が不十分と感ずるため。子ども食堂での食事の提供が未だにできていない。
- ③運動に行く機会がなくなった
 - ・60歳代 女 コロナ以前はスポーツセンターを個人でプール利用（週一回程度）していましたが、休館終っても何となく行かなくなり、今でも、気分的に動けない。
- ④趣味の講座、パソコン教室に行けなくなった
 - ・80歳代 男 1. パソコン教室→オンライン（ZOOM）で活動。2. 参加するグループが減った→オンライン（ZOOM）で活動。3. カラオケ等が減った。→オンライン（ZOOM）で活動。4. 現在は復活しはじめている。5. オンライン（ZOOM等）は残ると思う。
- ⑤料理教室に行けなくなった
 - ・80歳代 女 ①料理教室を開いてほしい②歌の場所をもっと多くして欲しい（ボケ防止に良い）。
 - ・70歳代 男 男の料理教室が全滅し楽しみが無くなった。
- ⑥その他の趣味ができなくなったと答えた方
 - ・80歳代 女 読書が好きで、図書館通いが日常でしたが、家人が「誰もが手にする図書館の本は危険」と言い、図書館への出入りを禁止されました。現在もです。図書館には、借りた本を消毒する箱もあり、私は借りてきた本はすぐ自分でカバーをか

けるなど注意して菌を持ち込まないように注意してきましたが、未だ許可されていません。あと少し、もう少しの時間で「コロナ終結」の報道がされる事を待ち望んでいます。これを読まれてお笑いかもしれませんが、老人になるって今迄、気付かなかった、つまらない、許しがたい「クセ」等を発見してうろたえます。家庭円満の為に、大好きな活字を読む生活は、新聞、パソコンの青空文庫、娘がリックサックで持ち込む彼女の家の本で楽しんでいます。家人が「買えばいい！」と言いますが、近頃の本の値の高さに、今度はケチな私が抵抗しています。

- ・70歳代 女 ダンスのレッスン。コロナの影響でレッスンが中止になり、その後若い方達は再開したが、私はコロナと体力が落ちたのでまだ再開していない。
- ・70歳代 男 いきいきプラザで開催している事業の中に興味があるものがありますが、参加する契機、勇気が足りません。今年こそはと考えております。
- ・60歳代 男 コロナになり習い事を止めたり、ズームになったりしました。ズームになったものはリアルになりコロナ禍前に戻りつつありますが、止めてしまったものは再開していません。
- ・年齢不詳 女 自宅から遠いお教室を閉めました。又、自身がコロナになりその後いろいろな病気になったことで通っていた習い事をやめました。

4. ボランティア活動に参加できなくなったこと

①食事作りのボランティア活動ができなくなった

- ・80歳代 女 会食や食事作りなどの活動。
- ・70歳代 女 会食や食事作りなどの活動。歌を歌うなどの活動。
- ・80歳代 女 食事作りなどの活動・いきいきプラザと協賛の活動（茶会）。
- ・70歳代 男 地域での会食サービス活動。特別養護老人ホームへの訪問。

②地域活動ができなくなった

- ・60歳代 男 近隣、地域住民を中心に毎年実施していた「おまつり」イベント。
- ・80歳代 男 老人が買物に行く手伝い。
- ・80歳代 男 「サイエンスカフェ・イン高輪」の会場をHUGに求めてzoomと併用で続けて来たが、以前の熱気は戻って来ていない。
- ・70歳代 男 まち歩きツアーができなかった。座学ができなかったり、人数制限があった。
- ・70歳代 女 港区内複数社にて訪問介護員として勤務しており、有償ですが、地域の高齢者、障害者の支援をしています。コロナ禍で増々人手不足の業界となっており、CC終了後かえって仕事が増えており、CCクラブの活動には参加できない状況です。移動中にCCの同期の方とバツタリお会いする事があり、時間があれば立話等しています。
- ・年齢不詳 女 団体活動をしています、日帰りバスハイク等団体行動がまだ出来ない。ミュージアムの見学等。
- ・60歳代 女 民生児童委員として訪問活動が出来なくなり、現在活動が始める事が出来る様になりましたが、この3年の交流が出来ないのでフレイル状態が進んでい

る方が多いと感じました。外出する事の大切さを感じます。すべての生活にコロナ禍の影響が出ていると思います。(自分自身もです。) 気力にも大きく影響があったと思っています。

・60歳代 女 ハンドマッサージボランティアが、出来なくなった。現在もできていない。ボランティア仲間との交流は、続いているので、再開できたら嬉しい。

③歌のボランティアができなくなった

・80歳代 男 会食の回数が減った高齢者施設での歌のボランティア。

・80歳代 女 各場所へ訪問しコーラスを皆様といっしょに歌う事。月に2ヶ所位行っていました。・1人暮らしの方々に傾聴ボランティアを計画しましたがコロナの流行で今は中止の感じです。

・60歳代 女 会食の機会が減った。合唱団の活動ができなくなった。

④介護施設に行けなくなった

・80歳代 男 認知症の方のケアができなくなった。(マスクを強要できないなどによる) 会食、歌を歌うなどの制限があり集まることも難しくなった。

・70歳代 男 ボランティアで施設に行っていましたでしたがそれが出来ませんでした。毎月何か所かに行っていました。

・70歳代 女 施設を訪問しての歌のボランティア・読み聞かせ・街歩きなどが出来なくなりました。

・60歳代 女 病院のボランティア。

・70歳代 女 老人施設などの訪問のボランティア活動が中止になり、まだ再開できない。CC同期の人達との集りがまだできない。

⑤サロン活動ができなくなった

・70歳代 女 コロナ禍と前後して地元のサロンを市街地開発の為、終了せざるをえず、納会しました。世話人として参加していたので、サロンにいらしていた高齢な方の身心に対して気がかりの方が何人かいらっしゃいます。電話やLINEを時々していますが、身近な場所での居場所は大切です。それについて現在考えております。

・70歳代 女 サロン活動が一時的に閉鎖されたりはしたが、その時は数軒ずつ各お家を訪ねて近況を伺う様にしていた。

⑥居場所作りのボランティアができなくなった

・70歳代 女 サロン活動などの居場所活動・会食や食事作りなどの活動・歌を歌うなどの活動←上記の様な活動が制約された3年間、友人達との会食、おしゃべりが出来ず電話で長話も遠慮して辛い年月を送りましたが、過ぎてみれば遠慮することが習慣になってしまい、友人を誘うことに勇気が必要になりました。行動を起す事が面倒になる老人病(?)がまん延しないことを願い徐々に元の様な交流を望んでいます。

5. 海外旅行や国内旅行ができなくなったこと

①海外旅行に行けなくなった

・70歳代 男 海外旅行、同窓会など。

・60歳代 女 海外旅行をしたい!という気持ちがなくなった。そのかわりに、今

まで興味のなかった国内で行きたい所がたくさん見つかり、年に必ず1回は、ゆっくり計画をたてて行くようになりました。

②国内旅行に行けなくなった

・70歳代 女 知人との会食、旅行

・70歳代 女 自由な時間を持てるようになったが、体力の減退、体質の変化により、以前より楽しみにしていた日本各地への小旅行などが遠くなってしまった。

6. CCクラブの活動に参加できなくなったこと

①CCクラブの活動に参加できなくなったこと

・70歳代 女 グループでの活動がコロナになってから出来なくなって、それぞれの近況が現在分からない。

・年齢不詳 女 各委員会の会合・懇親会・施設見学。

7. 外出ができず、病院への面会や葬儀にいけなくなったこと

①外出ができなくなった

・70歳代 女 多人数が集まるイベント等には、出かけることにためらいます。

・80歳代 男 特になし（自宅で読書とテレビ、暇なので変化はない）区のスポーツセンターに週三日行っているので会員と若干交渉あり。

②病院の面会ができなくなった

・70歳代 女 病院への面会（入院中の友人に会えなくなった事）孫の運動会、入学式などの出席。

・70歳代 女 ほぼ元に戻り現在もできていないことはないが、コロナ禍では友人の見舞・面会・葬儀にも行けずに悔いが残った。

③葬儀に行けなくなった

・70歳代 男 年齢とともに、親戚・知人の中での葬式が増えて来たが、コロナ禍によりすべて家族で取り行なわれ、参列が出来なかった事で、故人との最後の別れが出来なかったことのさみしさ又、親戚・知人との交流も叶わなかったことが残念。

④近隣の訪問ができなくなった

・90歳代 男 口才になったので自分の毎日の生活を自分で自活出来るだけで精一杯です。

8. その他の意見

①仕事や海外出張ができなくなった

・60歳代 女 海外出張や旅行は今年春から開始出来たが、日本の感染対策が徹底しすぎて（清潔が過ぎて）海外での免疫が落ちたように感じる。実際に海外に同行した若者がインフルエンザや腹痛に悩まされていた。まだ出来ていないこと：アロマリラクゼーションマッサージ等、個室サロンでのサービス。

・70歳代 男 旅行などの外出。会社時代の友達との交流。CC大学同期との交流が制限されコミュニケーションが不足していた。

②健康に関することができなくなった

・60歳代 女 コロナ以前はスポーツセンターで個人でプール利用（週一回程度）

していましたが、休館終っても何となく行かなくなり、今でも、気分的に動けない。

③オンライン交流になってしまった

・70歳代 男 活動は元に戻った。オンラインを多く使うようになった。

Ⅲ 自由回答からいえること

1. 家族や友人との会食と飲食ができなくなったこと

- ・家族との会食・飲食よりも友人との会食・飲食が出来なかった人の方が多い。
- ・会食、飲食と同様に他の行動ができなくなったという記述が目立つ。
- ・家族・親族との会食・飲食が出来なくなったケースが少ないのは、日常の生活を共にしているケースが多く取って表現する必要がなく、潜在的にもっと多いとも感じる。

2. 家族友人との会合や交流ができなくなったこと

- ・地域の内外を問わず、具体的な記述が多くみられる。
- ・友人との対面交流ができなくなったが、別の交流手段を得た会員もいる。
- ・友人との交流に比べ家族親族との交流ができなくなったことへの意見は少ないが、交流が途絶えたことによる、情報の遮断や、疎外感等内容は切実さを感じる。
- ・CCクラブ会員との交流ができなくなったことも生活に大きな影響があったことを感じる。

3. 趣味のために外で出かけることができなくなったこと

- ・歌に関連する記述は多く、コーラスグループ、カラオケ等があり、日常生活のなかで歌を歌うことの大切さを感じる。
- ・美術館、映画館に行けなくなった等外出の機会が減ったことも心身ともに及ぼす大きな影響があった。
- ・運動に出かける機会がなくなり、その他の行動も含めた制約が、体力や気力の衰えをもたらして現在の生活にも影響がでていることが危惧される。
- ・身近にあったいきいきプラザの講習や料理教室が休止となった。その後復活したものはあるが復活していないものもあり、このような地域の居場所を求めていることを感じる。
- ・その他の項目に入れたが、図書館通いを止めたこと、自分が行っていた習い事教室を止めた記述もある。コロナ禍という未知のものに対する家族間での認識の相違があり、本人の意思に反しての行動制限を余儀なくされた。

4. ボランティア活動に参加できなくなったこと

- ・食事作り、地域活動、歌のボランティア、介護施設、サロン活動等のボランティア活動の中断は会員本人の気持ちはもとより、受け手側の現況を心配する声が多くあった。
- ・ここでも歌に関する記述があり、個人の活動の項目と合わせると、歌に関する活動が停止されたことは大きな影響があったと感じる。
- ・一時的にできなくなったボランティアを再開する記述もあり、熱心さや使命感も感じる。

5. 海外旅行や国内旅行ができなくなったこと

- ・旅行に関する事として項目を設けたが、ここでの記述内容には趣味での活動が多く記されている。

6. CCクラブの活動に参加できなくなったこと

- ・CCクラブとしての活動として分類したが、CCクラブ友人やグループでの活動を含めると多くの会員の活動が相当数制限されたと感じる。

7. 外出ができず、病院への面会や葬儀にいけなくなったこと

- ・外出ができない、病院の面会に行けない、葬儀に行けないと具体的に書いた人は少ないが、潜在的には多いと感じる。人生の節目に友人知人との別れや見舞いに行けないことに大きな悔いを感じている。
- ・記述には切実さを感じ、また、近隣への行動も制約された記述もある。

9. その他の意見

- ・現在も仕事をしている会員もおり、仕事の一部を中止や制限されるなど、その影響もあった。また、記述は少ないが健康に関する関心も多いと感じる。

(15) 行政、社会福祉協議会、港区の関連団体、CCクラブなどに関する自由回答

調査票の最後に、行政、社会福祉協議会、港区の関連団体、CCクラブなどに対する意見や要望を自由に記入してもらう欄を設けた。自由記述の回答総数は135ケースであった。

I 自由回答の分類

回答内容をもとに分類し、項目ごとのケース数を示し、さらに主な項目についての具体例を選択して記載する。

なお、以下の回答内容の項目ごとの合計数は、1つの回答には複数の意見が書かれているものがあり、それらを項目ごとに数えているので、回答総数とは一致しない。

1. CCクラブに関すること (100 ケース)

- ①活動内容について 25 ケース
- ②CCクラブへの感謝 17 ケース
- ③活動への意欲について 13 ケース
- ④組織運営（担い手、体制、予算など）について 12 ケース
- ⑤行政や関係機関との連携について 8 ケース
- ⑥会員間の連絡・交流について 8 ケース
- ⑦活動参加者を増やすことについて 4 ケース
- ⑧CCクラブ活動のあり方について 4 ケース
- ⑨CCクラブのPR、認知について 4 ケース
- ⑩高齢化による活動への影響について 3 ケース
- ⑪活動を求めてほしくない 2 ケース

2. CC大学に関すること (11 ケース)

- ①講義内容、開講方法について 5 ケース
- ②CC大学への感謝 4 ケース
- ③さらなる学びの機会について 2 ケース

3. 港区、行政サービスに関すること (16 ケース)

- ①連携・協働について 7 ケース
- ②港区職員の業務について 3 ケース
- ③CCクラブ活動への支援（資金面を含む）について 3 ケース
- ④行政への感謝 2 ケース
- ⑤公助の充実 1 ケース

4. 社会福祉協議会、福祉サービス、地域活動などに関すること (20 ケース)

- ①地域活動について 9 ケース
- ②福祉サービスについて 6 ケース
- ③社会福祉協議会への感謝 3 ケース
- ④ボランティア活動への資金援助について 2 ケース

5. 高齢期の暮らしと（体力、健康、介護等の影響） (17 ケース)

- ①体力・健康上の問題 8 ケース

②高齢期の暮らしと思い 7 ケース

③家族介護 2 ケース

6. コロナ禍の影響に関すること (3 ケース)

7. その他 (11 ケース)

II 自由回答の具体例

1. CCクラブに関すること

①活動内容について

- ・80 歳代 女 13 期生は合宿が無かったので実現して頂けたら幸いです。
- ・70 歳代 男 CCクラブを持続可能な組織にするためには活動のスリム化を考える必要があると思います。
- ・70 歳代 男 CCクラブ (CC 大学を卒業した人々) が、単なる茶飲み話の会に終始している。これでは老人クラブである。もっと地域に出て、障害者への支援 (ボランティア) など積極的にやるべきである。何の為に CC 大学で学んだのか! 月に 1 回ほど集まって世間話をする会に出ても意味はない。私は①港区社会福祉協議会ヒューマンプラザの障害者支援 (月 2 回ほど) のボランティアをしたり、②観光ガイドを実施している。社会に役立っている自覚を持ってこそ、CCクラブ (CC 大学卒業生) と言えるのではないか。そのような働きを事務局はすべきである。現在はしていない!!

私は、①ヒューマンプラザでの障害者支援のボランティア、②観光ガイドの他、③地域の小学校での児童見守り活動、④聴覚障害者向けの手話の学習、などを続けている。

- ・80 歳代 男 現在、町会の役員が超高齢化で、会長は 90 歳近い。行事等の役員の成り手なし。私は 78 歳で、地域、町会の行事、チャレンジコミュニティ・クラブの活動、また私の地域の 12 世帯の世話人等のお手伝いをしている。現在でも 2 社の会社顧問、OB会の役員幹事をしており多忙なのでお断りしていましたが、懇願され、条件付でお引受しました。チャレンジコミュニティ大学終了後は、多くの修了生が地域活動、町会、自治会の役員等々に推選される機会がもっと多くあると良いと思います。
- ・60 歳代 男 港区の行政が地域貢献活動に熱心な事もあり、時として CC クラブの活動自体が行政、協議会、関連団体と重複してしまうケースが見受けられると思う。CC クラブの独自性、存在意義も含めて認知度を高める活動をして頂きたいと思いません。
- ・70 歳代 女 CC クラブの年齢層が高いのは、年齢が限定されているので致し方ないと思うが、ボランティア活動には若い人の参加があると良いと思う。同世代のみの交流は、同じ価値感があって分かりあえることが多い反面、斬新なアイデアや新時代の変化や現役世代の意見などを聞くことができないために、アドバンテージの可能性が制限されている気がします。
- ・60 歳代 女 CC クラブの皆様の活躍は、折にふれて感じております。知識や経験を活かしての活動に、港区ならではの質の高さと多様性があります。今後も、この

エネルギーを継続してください。

②CCクラブへの感謝

- ・70 歳代 男 CCクラブでメンバーのお世話をいただいている役員各位に敬意と感謝を申し上げます。お手伝いをしなければと思いつつ仕事を含めて他の活動との兼合いがあり、できておりません。ただ、CCクラブの理念に沿って、いきいきプラザを使用してのボランティア活動を月1回（6年程継続）実施をしておりますので、可能な限り続けたいと思っております。
- ・70 歳代 女 CCの同期・卒業生・地域の方々9名と大正琴で皆様が楽しく歌って頂けるように伴奏したり、演奏するグループを2017年に立ち上げ、いきいきセンターで月2回講師に来て頂き練習をしております。依頼があれば町会・区民センターなどで、活動しております。今年の4月より、港区老連の大正琴部として活動する事になりました。昨日も大樹会の総会で演奏・伴奏して参りました。皆様の喜びが私達の喜びになっております。CCで学び人間関係が出来た事のおかげと感謝しております。
- ・70 歳代 女 C・Cクラブで各々の役割を担っている人たちに、感謝しております。
- ・60 歳代 男 CCクラブでの体験はたいへん有意義なものでした。現在特に活動していないことは、とても心苦しく思っています。CCクラブの委員の方々の活動には、感謝しております。ありがとうございました。
- ・80 歳代 女 明学の法学部の授業に出席し成年後見制度等を学びました。自分の母校より学べるが多かったです。同期会は楽しい思い出いっぱいです。感謝の気持です。個人的には交流もありますが年齢的に退会したいです。介護保険も使わずありがたいことです。どうぞこの高齢化社会で生涯学習楽しんで学んでいただきますように…

③活動への意欲について

- ・70 歳代 女 微力ですが、活動内容をよく理解し社会貢献ができるようにしていきたいと思えます。
- ・60 歳代 女 3Aクラブに入会しましたので、先輩の皆様との交流や活動を楽しみにしています。
- ・60 歳代 女 CCクラブの活動を通して、色々な方とお会いする機会も増え、毎日の生活が充実しています。
- ・60 歳代 女 65歳になって、現在勤務している福祉団体を退職したら、CCクラブでがんばろうと思っております！！
- ・80 歳代 男 区の活動については以前から感心しているが、関連団体、CCクラブの活動については余り関心がない。

④組織運営（担い手、体制、予算など）について

- ・年齢・性別無回答 今回の役員が10期生が半数だが、その理由を知りたかった。反対ではなく、賛同するが、理由を知りたい。組織が出来ているとか、人材が特に揃って

いるとか…。

- ・70歳代 男 地域CCクラブの運営を担う新しい人が現れないという継承の課題がある。地域CCクラブに予算がなく、地域活動を広げるには限界がある。
- ・年齢無回答 男 CCクラブの助成金等の使用実績のチェック強化。会計監査を厳密に行う必要がある。
- ・80歳代 女 CCクラブが仲良しクラブになっている。前は、もっと自由な雰囲気、楽しかった。老兵は去るのみである。(リストラにあつたみたいだ)。定年になり、上記から脱皮と夢をもって入ったものの、元の本阿弥である。リーダー格が、一人牛耳って、狭苦しい。イノベーションをした方が良い。老人クラブでも、商店街でかたまっていると前からの柵(しがらみ)があるとかの傾向がある。会員の気持を無視した、地域の絆などありえない。ベールにつつまれた運営である。ひきこもり、孤独等をなくすCCであってほしい。平等、公平、民主主義が大切。よろしく、お願い致します。
- ・80歳代 女 新しい課題が持ち上がると、運営委員の皆様が真剣に取り組んで下さるので引き続きよろしくお願ひいたします。
- ・60歳代 男 (CCクラブについて)多岐に亘る精力的なご活動に敬意を表しますが、一方で活動報告や議事録の膨大さに気後れを感じます。組織が巨大化、肥大化(今後もほぼ自動的にCC大学の卒業生を毎年、受け入れ?)していく一方になるのではないのでしょうか。簡素化や大きな枠組みでの分轄・再構築(会員交流主体、自己啓発支援主体、地域活動主体、ボランティア主体、寄付事業主体等…)についても検討しては如何でしょうか。
- ・80歳代 男 ①CCクラブの法人化。②行政のCCクラブへの積極的支援。高輪支所、各支所協働推進課以外の窓口のほとんどがCCクラブについての理解がない(知らないようです)。③行政、社会福祉協議会等からの交流資金供与。
- ・年齢無回答 女 地域CCクラブの活動をもっと活発に推進すべきと思う。700名を超える会員を抱えたCCクラブ本部の役割はそれなりに変わってきていると思うので、これからは各地域CC毎の活動に注力し、行政などとの調整役に廻り、各地域CCクラブ(4地域)の活動を盛り上げていってほしい。

⑤行政や関係機関との連携について

- ・70歳代 女 CCクラブ会員側だけでなく、行政にとっての、CC大学やCCクラブの存在はどのようなものなのだろうか。16年という長い年月の中で、変化や得るものはあつたのだろうか。こちらの方から行政にアンケートをとってみたい。
- ・80歳代 男 20年前に比べると、格段に、行政の在り方も、住民の活動も、地域活動が活性化している。更に、行政や各種団体に住民(CCクラブ会員)が参画し、活動の効率を高めることを期待したい。
- ・70歳代 女 行政、社協、自治会、CCクラブの地域活動が各々、様々に展開されていて、類似の活動も多いと感じる。しかし、それぞれの活動の連携や情報共有が成されていないように感じる。また、その活動参加をしようと思った時、どこに所属し

て参加できるのか解かりにくく、参加しづらい。

- ・60歳代 女 CCクラブの活動は、地元に基づいたサロンの開催や趣味に関する活動などが中心で、それも大切だと思うが、もっと、大学や自治体（区）と連携した活動が展開できるようになればと思う。港区をさらに住みやすく、住民どうしの交流もある街にするには、そういった街や区ぐるみの活動（予算も必要）の展開が必要だと思う。たとえば、白金どんぐり公園での朝のラジオ体操には、50歳以上の人々が集まるが、そのネットワークを生かした活動（緑の利用など）などもできるのではないかと思う。

⑥会員間の連絡・交流について

- ・60歳代 女 ①CC大学を卒業すると自動的にCCクラブに所属し、メールアドレスもCC大学に出したアドレスが引きつがれると皆が思っていました。一斉メールアドレスや、地域コミュニティの参加の意志をCC大学の「まとめの会」あたりで集計（情報収集）しておけば4月以降にリーダーがあわててグループに連絡する必要もなくなります。②今後はSNSに慣れた人がCCクラブに入会してきます（想像）。LINEでのCCクラブからの情報発信が出来ればより早くメンバーもアクションに移せるかと思えます。
- ・60歳代 男 近所にCC大学の卒業生が居るようであるが、どなたなのかほとんど知らない。どうしたらよいでしょうか？
- ・60歳代 女 各地区のCCクラブ活動について、「知らない」と言う会員の方が多数存在している実情を知りました。各クラブに参加希望を出しても、自分からアクセス出来ないのが問題のようです。又、毎月の議事録も見ていただけてない様子。何か改善策が必要と思えます。
- ・70歳代 女 仕事を持っているため、平日の日中の集まりには出席できないので残念です。またLineをしていないため、同期からの情報が全くないため、活動実態が分かりません。
- ・80歳代 女 所属する地域内外の情報が少ないと感じます。一斉メールを依頼してないからでしょうか。やはり全体の情報が必要でしたね。
- ・70歳代 女 CCクラブホームページの閲覧や投稿を、同期の人に勧めているが、それらをしている度は少ない。LINE公式アカウント、FB、Twitterを取り入れた方がメンバー同志の反応が増加すると思う。

⑦活動参加者を増やすことについて

- ・70歳代 女 2007年にCC大学が始まって16年、これまでに約850名の卒業生をだした。現在活動している人の実態調査を行い、新たなデータが得られると思うが、活動している人よりも活動していない人の理由等を把握する事で、課題や対策も考えられると思う。
- ・70歳代 男 CCクラブ会員は750名に達しているのに、その中で地域活動や福祉活動に関わっている人は多くないと思う。今回の調査でも人数は把握できるはずだが。不参加の大きな原因は、敷居が高い、何から参加したら良いか判らない等がある。

解決には、「手を差しのべる」「声をかける」等、小まめな努力が必要。CC大学費用は一人に対し多額がかかっているはずで、これを港区が負担しているのだから恩返しの意味でも充実を望みたい。ちなみに、他大学では殆んど受益者負担であった。

- ・70歳代 男 今後、例えば他のCCクラブの人々がどういう活動をしているかを確認する場（テーマを設定し）を設け、話し合い、そうした中で地域活性化への輪が広がって行くと思う。〇〇地域若しくは、〇期〇Gの集りに出て、交流の場に出て、“単に交流＝世間ばなしをするだけ”では何か何処か違うと思う。（CCクラブの）さまざまな人々が今、どういう社会貢献活動をしているのかを確認し合ってこそ、前向きになれると思う。事務局側として、CC大学で学んだ事を無駄にしない為（相当投資したと思う、その見返り（卒業生が港区地域の活性化にもっと働くこと）を真摯に追求し）に、より具体的な方策を講じて行くべきだと思う。
- ・70歳代 女 CC大学は、地域のボランティアグループリーダーの養成が目的の一つになっていたと思います。しかし数年たつと私達のグループの方々には集りにも無関心の方が多く、毎回メールを出しても無反応の方が多くいます。そこで、これからのCC大学に期待する事は2つあります。①インターン制の充実、もう既に行なわれていますが、在学中にCCのボランティアグループに3ヶ所以上参加し、修了後の感覚のイメージを持たせる。②リーダー養成となっている事に違和感を持つ人をすくい上げる。皆が皆リーダー体質ではないので、下支えできる人も貴重、その意味でも①の体験は大事。

⑧CCクラブ活動のあり方について

- ・70歳代 女 CCクラブに疑問？CCクラブ入学時にすでに年齢的には若くない！年々、高齢になり、以前より精神的にも身体的にも衰えるのがあたり前である。無理に活動しなくてもCC大学で学んだことを実践（個人個人で）すれば良いと思う。とくに活動が見つからなくても良いのでは？
- ・70歳代 女 CCは、上段に構え過ぎているのでは…と思うことがある。多様な意見・目的はあって当然だが、根本が共有されてはいないと思う。
- ・70歳代 男 行政における「CCクラブ」の位置づけが未だによくわからない。CC大学自体が「地域で活動するリーダーを養成する」ことを目的としている以上、修了後が重要だと思うのだが、それを行政がサポートする姿勢が全く感じられない。言ってみれば、「自主的」という名の放置プレイになっている。その結果、閉ざされた組織になって、地域とのつながりよりも会員同志の交流が主になる。物心両面での交流活動が必要なのに、予算すらなく、活動は自らの持ち出しとなる。社会活動を求めるなら、チャリティーとボランティアの線引きをしっかりとつける必要があると思う。

⑨CCクラブのPR、認知について

- ・70歳代 女 CCクラブの存在自体を、区の公報をメインにもっとPRし、認知度を高めてはいかがですか。
- ・70歳代 女 CCクラブで学んだことを地域…特に町会での集まりなどで話す機会がない（個人的な学習の場くらいに思っている）。

- ・70歳代 男 CCクラブは、今や大きな組織・団体であるが、地域社会との関係や、協働活動は必ずしも充分とは言えないと感じている。活動している人は、間違いなく存在しているが、その数は少なく限られた人のみが活動しているのではないかと考えている。また地域住民にもっと認知されるような組織となるべく、活動を活発にし、PRしてもよいと考える。

⑩高齢化による活動への影響について

- ・70歳代 女 CC大学に入学した時は、62歳で若い方だった。経年で、年上の方は、更に高齢化し、同期のクラブ集会はあるが、超高齢者ばかりで、新しい行動がむずかしい。故に、同期CCクラブ会員とは疎遠になっている。趣味のサークルで若い人と交流したほうが、学びが多い。
- ・70歳代 男 CC大学入学生の年代が我々の時（約10年前）より高齢になり、地域のリーダー養成とうたっているが実情は難しいのではないかと！年令で70歳をこえると新規の地域活動をリーダーとして開始する気力や体力面で困難と思う。私が学んでいたCC大学の学生は平均で60歳代台だったと思います。

⑪活動を求めてほしくない

- ・80歳代 女 私の加入しているCCクラブの組織は、暇な方（特に男性）方は四季折々の「楽しみ」を楽しみにしている方が多い様です。私は、CCクラブの内容を良く把握せず入学してしまい（先生方、学習の内容はとても良かった。）、終了してからの交流等の誘いが、とてもわずらわしく思っている。なかなか、お誘いに入る時間も、気持も持てないでいる。いろいろと一生懸命活動して下さっている方々には大変、申し訳ございません。お世話様です。ありがとうございます。
- ・70歳代 女 私自身、チャレンジコミュニティ大学に1年間通ったことは、とても良い経験でした。その後、CCクラブに貢献できていませんが、それでも、個人的には、地域活動を続けております。あまり修了後の活動を求めないでほしい。

2. CC大学に関すること

①講義内容、開講方法について

- ・60歳代 女 CC大学で学んだ1年間はとても貴重なものでした。他の区に住む友人に話を聞いても、CC大学のように1年にわたってカリキュラムが組まれているような学びの場はないようです。折角の学びの機会をもっと区民に知らせる努力が必要だと思います。16期生が49名というのはとてももったいない事です。CCのカリキュラムの一部分を広く区民に公開してはいかがだと思います。例えば法律一暮らしに役立つ民法、遺言について、CCで学んで初めて知った事が沢山ありました。また福祉一社会養護・里親養育について、多くの区民が知る事によって、里親希望等あるのではと思います。
- ・70歳代 男 CC大学の研修メニューや仕組みがマンネリ化している。他の区などの成功事例を参考に見直してはどうでしょうか。今後も継続の必要は大いにありますが、時代や環境変化に伴って“変化”することを強く望みます。

- ・年齢無回答 男 活動をやるには、高齢者を多く取りすぎ、老人会になってしまう。

②CC大学への感謝

- ・80歳代 女 CCクラブに入学卒業して、現在は元気にシルバーセンター所属で働いています。色々な知識を教えていただいた事は本当に良かったと思っています。卒業生の方とふれあい卓球で楽しんでいます。日本赤十字看護大学敷地内にて野菜をつくっていたので自宅でも菜園をつくって楽しんでいます。CC大学で学んだ事は良き勉強、良き友人、良き思い出になりとても感謝致しております。有難とう御座居ました。
- ・70歳代 女 コロナ禍で見学等中止になる授業もありましたが、一年間CCに入学して学べた事は大変有意義な事でした。事務局の皆様、先生には感謝しております。歳に関係なくチャレンジする事は楽しいと実感しました。

③さらなる学びの機会について

- ・70歳代 女 近所にもCC卒業生は多いと思うが、一堂に会する機会がなく、誰が卒業生かわからない。全員集まることはむずかしいので、年に1～2回の明学食堂での懇親会や年に4回くらいの勉強会で多くの人と知り合いたい。何が共通項かといえば「1年間学ぶ」だったと思うので、プラチナカレッジのような企画をシリーズではなく、単発で企画してもらおうと参加しやすい。昼、夜、いろいろあると、夜は苦手という人にもよいし、昼は仕事という人も参加しやすい。また、CCの大学院的な学びの機会がほしい。分野は何ともいえないが、個人的には美術やキリスト教関係を望んでいます。
- ・60歳代 女 今期のCC大学には定員に満たなかったようだと言われ近所の方からお聞きしました。一年間、明治学院に通わせて頂き、多くの方（同じ港区内）とお知り合いになり年令も関係なくお話し出来た事は、私にはかなり影響をあたえたような気がします。今は、同じクラスの方達とのラインのやりとりのみになってしまいましたが、又、学ぶ機会が与えてもらえるのでしたら、是非もう一度参加したいと思いました。同期の中でもなかなかお話しする機会がなかったので、よろしく願い致します。

3. 港区行政サービスに関すること

①連携・協働について

- ・80歳代 女 地域貢献の願望はありますが、個人（民間）のみでも行政のみでも偏りがあるように感じるので、両方の連携が必要と考えます。今までの経験から行政の側は、最後は民間に丸投げの傾向が多かったように思いますので、行政側は是非最後まで共に活動をして頂きたいと願っています。
- ・70歳代 男 行政における「CCクラブ」の位置づけが未だによくわからない。CC大学自体が「地域で活動するリーダーを養成する」ことを目的としている以上、修了後が重要だと思うのだが、それを行政がサポートする姿勢が全く感じられない。言ってみれば、「自主的」という名の放置プレイになっている。その結果、閉ざされた組織になって、地域とのつながりよりも会員同志の交流が主になる。物心両面での交流活動が必要なのに、予算すらなく、活動は自らの持ち出しとなる。社会活動を求め

るなら、チャリティーとボランティアの線引きをしっかりとつける必要があると思う。

- ・70歳代 女 行政、社協、自治会、CCクラブの地域活動が各々、様々に展開されていて、類似の活動も多いと感じる。しかし、それぞれの活動の連携や情報共有が成されていないように感じる。また、その活動参加をしようと思った時、どこに帰属して参加できるのか解かりにくく、参加しづらい。

②港区職員の業務について

- ・70歳代 男 港区は仕事を業者に委託しないで職員で業務をしてほしい。そうすることが区民の声を聞くことになり区民ファーストの政策ができる。
- ・70歳代 女 港区の施設に配布されている印刷物は不要な物が多く、ペーパーレスの時流に逆行していると思うことがしばしばあります。その分、こども食堂などの予算を増やしては？と思っています。
- ・60歳代 女 マンション内老人会（区老連所属）を運営しています。サロン会を毎月第1土曜日の午前中にやっていますが、行政や社会福祉協議会、港区の関連団体に講演等を依頼しても“土曜日はむずかしい”と断られる事が多いです。ぜひ、やって頂ける様をお願いします。

③CCクラブ活動への支援（資金面を含む）について

- ・60歳代 女 何かを企画した時お金がかかる場合もあるので、CCクラブにも港区より予算がとれたらいいのではないかと時々思う場面があります。
- ・80歳代 男 行政のCCクラブへの積極的支援。行政、社会福祉協議会等からの交流資金供与。

④行政への感謝

- ・70歳代 女 有り難い事に、行政、社協さん助けていただく事が多いので感謝しています。
- ・80歳代 女 港区は他の区と比較して、福祉等は手厚く高齢者にとり、ありがたいと感謝しています。

⑤公助の充実

- ・70歳代 女 高齢者は集団自殺しろとまで言われる世の中、生産性がないと弱い立場の者を邪魔者扱いする風潮が強まる中、全ての人の人権が守られるよう活動を続けていかなければと痛感しています。自助の前に公助を充実させたいです。

4. 社協、福祉サービス、地域活動などに関すること

①地域活動について

- ・70歳代 女 地域活動において孫もボランティアに参加できる（港区以外在住）と良いと考えます。春休み、冬・夏休みに高齢者と一緒に、安心できる地域でのボランティア参加が実現できたら嬉しいです。（在住、在学の子供がボランティア参加資格条件となっている。祖父・祖母が港区在住ならよし、としてほしい）
- ・年齢無回答 女 子供の居場所を多く作って欲しい。食堂だけでなく、おやつを食べながら、いろいろな世代の人とおしゃべりできるようなものを。個人的には英語塾に行けない子供達に英語で遊べるような場所を作りたい。

- ・70歳代 女 時代の流れで仕方ない事ですが、親の代から70年以上親しんだ居住地で、廻りがマンションに建て替り、知り合いも減って“隣は何をする人ぞ”があたり前に！！若い時から地域に参加したいと思わせる“何か”を、活動を通して探したいと思います。
- ・70歳代 女 国際交流、港区内で暮らす外国人、留学生などの日々の生活を支援する活動、大学も協力できるのでは。社会福祉はこれら少数の人たちにも及んでほしいと思っています。

②福祉サービスについて

- ・70歳代 女 夫を亡くし、これからの老後で、自分の健康に不安となった時、このような時には、こんな支援があります。例えば、寝た切り状態・半身不随になった時、酸素ボンベを引きずって生活をしなくてはならない時、どのような支援があるのか？具体的に教えて欲しいです。
- ・60歳代 女 コロナ禍の中、大学も港区も力合わせ、CC大学を開いてくれたおかげで少しずつボランティア等もコンスタントに行なわれる事を嬉しく思います。いろいろな所に目をくぼるのが、家族介護等でむずかしいので、簡単に相談や聞くことの出来る窓口が1つあれば嬉しいです。
- ・80歳代 男 近頃いきいきプラザなどのコーナーでスマホの取扱いについて相談コーナーがある。大変良い企画で利用出来ればよいと思っている。ドコモなどの現状は予約制であり、翌日以降になるので調整しづらい。

③社会福祉協議会への感謝

- ・80歳代 女 社協には日頃からお世話になっております。町会としてこれからも御相談する機会が増えると思います。職員の皆さまの一人ひとりが聞く耳を持っている、傾聴、受容力の深さがあります。素人を相手にケースバイケース、心が痛みます。各々の立場でいい方向づけが出来ることを願います。
- ・70歳代 女 社協、高齢者相談センター、らくっちゃ、いきいきプラザの方々には、いつも協力していただき感謝しています。行政では皆さんの活動をどの様に把握され理解されているのか、各地区の理解などが同じなのか、機会があれば知りたいと思います。

④ボランティア活動への資金援助について

- ・70歳代 女 地域でしているボランティアに対して、社協から補助金をもっと出してほしい。補助金がでても、寄付金を〇〇円以上おさめる事と、決められるので、非常に苦しい。会計監査をしっかりとしてもらい、不正がないようにすればいいのではないか。

5. 高齢期の暮らしと（体力、健康、介護等の影響）

①体力・健康上の問題

- ・80歳代 女 私は、昔から人の集いは、学びも、労働も、趣味も大好きでした。が、CC大学を卒業の頃から聴力が劣えはじめ、両耳の補聴器を着けても、二人以上の集りの会話はさっぱり理解出来ない状態になりました。定期的に医院にも通い補聴

器屋さんにもお世話になっていますが、「話していることが解らない」辛さ、悲しさ、悔しさは未だに慣れません。そんな訳で、全ての集まりから遠ざかって、活動というものから身を引きました。でもまだ私でも出来ること、「家事」をして家族を支えること。「老々介護」ですが…。笑顔で、それなりの元気を保って、感謝して暮らしていけたら、CC大学とCCクラブの卒業生として「かけがいのない、充分すぎる楽しい思い出」を頂きました「御礼」を申し上げたくて書きました。ありがとうございました。

- ・80歳代 女 身近で自分ができることはさせていただいております。体力と相談しながら、グループ活動は体調不良の時、周りに迷惑をかけてしまうことが心苦しいため遠慮しています。
- ・80歳代 女 ボランティア活動を、もっと積極的に参加したいが、体力的に自信がなく大変残念に思っている。
- ・80歳代 男 自分の体力の問題が一番であり、今後地域活動もボランティアも小さなことのみのような気がします。たとえば行政とかかわりながら出来る様なことがあればと考えています。

②高齢期の暮らしと思い

- ・80歳代 女 私はチャレンジコミュニティ大学を修了して、もう15年も経っているとは？時として時代を感じることもありますが、港区に生活する者として新しい意見は取り入れて共に進んで行きたいと思えます。老い老いながらも、新しい光を見つめています。
- ・年齢無回答 女 10年夫の看護をしていました。これからは私自身がどうすれば、家族の負担を最少に出来るか考え中しております。
- ・80歳代 女 どんどん年をとるので歩く速度や仕事もSlowになっていちばん最後になってしまい恥しいことですが、“あり”のように遅いあゆみですが死ぬまで元気に笑顔で感謝にあふれて毎日出来るだけのことは心をこめてひそやかにつつましく行動していきたいと願っています。本当にあの楽しい学びの日々を思い出しております。ありがとうございます。皆様の御健勝を心から祈りおります。
- ・80歳代 女 義務感で何かをやらねばでなくても、必要や、困った状況を見聞きした時、率先して、行動に移して行ける高齢者でいたいと思えます。クラブ経営関係の皆様には、いつも感謝しています。これからも、よろしくお願い致します。協力はさせていただきます。

③家族介護

- ・年齢無回答 女 親の介護により卒業後CCクラブへの参加が出来なくなり、そうなる今からの参加が難しくなりました。コロナによる外出を控えた事により対人にいささか用心する様になった事も一因と思っております。しばらく不参加でも、意を決して加わっていこうと思えます。メールでのお知らせ、郵便による伝達をいつもありがとうございます。

6. コロナ禍の影響に関すること

- ・70歳代 女 コロナ以降、人と会うこと、話すこと、すっかり無くなりました。

- ・80 歳代 性別無回答 コロナに時代が変わり、私の体調も変化し、高齢でもあり、活動も難しくなりました。これから、若い方達の活躍を楽しみにしています。

7. その他

- ・70 歳代 女 私は 2020 年のコロナが始まると共に遠い地域に移住しました。コロナの最中でもあり、世界中が停止している中での、他地域への移住生活は地獄の様でありましたが、そんな中に於いて CC の仲間が誘ってくれた「カンガリ活動」への参加はとても嬉しく、誰かのために役に立てる事がこれ程までに自分を勇気づけるとは思いませんでした。

CC 大学に通った事、仲間に出会えた事…に感謝します。東京に暮した事、港区に暮した事を生涯一番の誇りに思います。現在は移住先での地域活動を開始しました。高齢者の見守り活動などを勉強しております。

- ・70 歳代 女 今後少子高齢化に向って必要なのはハードとソフトであると思っている。それぞれの役割を新たに認識して、10 年後を考え行動してゆくことが求められるでしょう。私は、人生の最後はソフトの部分が重要と考えられますので自分出来る範囲で学び、どこも共有して実行できるのか自分自身の最期に向ってソフトを学び続けたいと個人的には考えております。CC クラブの学びが基礎となっております。

III 自由回答からいえること

1. CC クラブに関すること

①活動内容について

- ・組織の基本的な在り方や現在の会員、もしくは CC クラブ組織全体の活動についての指摘がある。
- ・CC クラブの認知度を高める活動の要望や、多様な意見を聞けるように年齢層の若い人の参加も良いのではとの意見もある。

②CC クラブへの感謝

- ・CC クラブの運営に関わっている人への感謝の表現がある。
- ・自身の活動を紹介しつつ CC 大学で学んだことへの感謝の言葉がある。

③活動への意欲について

- ・今後の活動について社会貢献をしたい意欲がある人がいる一方、区の活動にあまり関心のない人もいる

④組織運営（担い手、体制、予算など）について

- ・地域 CC クラブの運営を担う人が少ない現実とその原因について述べる意見がある。
- ・現在の CC クラブ運営部門の人員構成やあり方についての意見がある。
- ・CC クラブの在り方そのものについて具体的な意見がある。
- ・地域 CC クラブの活動について活発な活動を期待する意見がある。

⑤行政や関係機関との連携について

- ・行政が CC クラブをどう見ているか知りたい、という意見がある。
- ・行政の在り方や期待の意見があり、連携に関しては疑問の意見もある。

- ・CCクラブと大学、行政が連携する活動に期待する意見がある。

⑥会員間の連絡・交流について

- ・CC大学在学中の個人情報修了後にも使わせて欲しいとの要望がある。
- ・CCクラブの情報伝達をHP以外にも展開する必要性の指摘がある。

⑦活動参加者を増やすことについて

- ・修了生が増加した現在、活動していない人についての指摘がある。
- ・CC大学に期待し、今後、より多くの人に関心を持てるような具体的な例をいくつか提案された人もいる。

⑧CCクラブ活動のあり方について

- ・CC大学の高齢化に対して、個人の活動実践だけで、他人への活動を求めないでほしいという意見がある。
- ・行政のCCクラブに対する位置づけについての意見がある。

⑨CCクラブのPR、認知について

- ・CCクラブが大きな組織になり地域社会との連携やPR活動が十分でない指摘がある。

⑩高齢化による活動への影響について

- ・CC大学入学以来、年数が経ち、超高齢者同士の活動が難しい、CC大学入学生が以前より高齢化し、「リーダー養成」は難しい、という指摘がある。

⑪活動を求めてほしくない

- ・CC大学の経験は良かったが、修了後の活動を求めないで欲しい、との要望もある。

2. CC大学に関すること

①講義内容、開講方法について

- ・CC大学のような学びの場は他区にはないので、カリキュラムの一部を区民に公開してはどうか、との意見の一方、カリキュラムのマンネリ化しているとの指摘がある。

②CC大学への感謝

感謝の言葉もある。

- ・CC大学中の学んだことが修了後の活動に生かしている。感謝している。
- ・コロナ禍中の入学で見学の中止等があったが、事務局や先生に感謝している。

③さらなる学びの機会について

- ・修了後に一堂に会する機会がなく修了後の学びの機会が欲しい、との意見がある。

3. 港区、行政サービスに関すること

①連携・協働について

- ・個人（民間）と行政の連携が必要、行政におけるCCクラブの位置づけが不明、との意見がある。
- ・区が社会活動を求めるのであればチャリティーとボランティアの線引きを明確にする必要性に関しての意見がある。

②港区職員の業務について

- ・港区は業務の在り方や印刷物は不要なものが多い、との意見がある。

③CCクラブ活動への支援（資金面を含む）について

・CCクラブにも港区より予算がとれたら良いと思う、との意見がある。

④行政への感謝

・行政や社協に助けられていることが多く感謝している、指摘がある。(つながりがよくわかりません)

⑤公助の充実

・自助の前に公助を充実させたい、との意見がある。

4. 社会福祉協議会、福祉サービス、地域活動などに関すること

①地域活動について

・地域活動に孫と一緒にボランティア活動ができると良い、子供の居場所が多く欲しい、国際交流、外国人、留学生を支援する活動ができると良い、との意見がある。

②福祉サービスについて

・一人での老後生活への支援内容についてや、家族介護等で気軽に相談できる窓口についての要望がある。

・いきいきプラザにあるスマホの相談場所が利用出来れば良いと思う、との意見がある。

③社会福祉協議会への感謝

・社協の職員が聞く耳を持っていること、社協、高齢者相談センター、ラクっちゃ、いきいきプラザの協力に感謝している声が寄せられている。

④ボランティア活動への資金援助について

・地域で活動しているボランティアに補助金が欲しい、との意見がある。

5. 高齢期の暮らしとしたい(体力、健康、介護等の影響)

①体力・健康上の問題

・自身の体力の問題から活動できない、との声がある。現在は老々介護だが、CC大学、CCクラブ卒業生に「かけがいのない、充分すぎる楽しい思い出」をいただいた、との文章もある。

②高齢期の暮らしとしたい

以下のような文章がある。

・老い老いながらも、新しい光を見つめています。

・どうすれば家族の負担を最小にできるかを考えている。

・義務感で何かをやらねば、でなくとも、必要な時や、困った状況を見聞きした時、率先して、行動に移して行ける高齢者でいたいと思います。

③家族介護

・親の介護でCC大学卒業後活動できなくなり、今からの参加は難しい、との意見がある。

6. コロナ禍の影響に関すること

・コロナの影響で体力が落ちて活動ができないという声がある。

7. その他

・遠い地域に移住したが、他地域でもできる「カンガリ活動」の参加はでき嬉しかったことや移住先で地域活動を始めたとの知らせもある。

- ・少子高齢化に向かって必要なのはハードとソフトである。10年後を考え行動することが必要です。CCクラブの学びが基礎となっています。このような意見もあった。

3 2023年活動実態調査から見てきたこと～2018年調査と比較して～

CC大学修了生が参加しているCCクラブは新型コロナウイルスの影響で一年間修了生を迎えられなかったが、2023年4月には新たに15期生が参加し、現在、約750名の会員がいる。

2023年6月に全会員を対象に「チャレンジコミュニティ・クラブの実態と活動に関する調査」を行った。総発送数は753通で、回収された総数は477通。そのうちの有効回答は63%の471ケースだった。

年齢について、回答者の平均年齢は75歳であったが、前回の72歳より3歳アップした。

今回の調査では前回との比較のために同じ内容の質問項目を設け、以下に比較して結果を考察した。そのうえで前回とは比較対象とはならない自由回答から得た様々な意見もCCクラブ会員の現状を知るうえで必要と感じ、ここに再掲載した。

(1) 回答のあった期別分類

前回の調査対象は1期から11期で、今回は1期から15期まで行った。回答の最も多かったのは15期で全体の10.4%で、ついで10期、11期がともに8.3%であった。最も少ない期は2期の4.0%で続いて1期の4.5%、3期の4.7%であった。なお、回答数では前回と比較すると2期は3人減少しているが、1期は同数の人から回答があり、3期は7人増加している。

(2) 性別と年齢について

性別は、前回は女性が58.7%で男性が38.9%だったが、今回は女性が63.7%で男性は35.0%。女性の比率が増加し、男性の比率が減少した。

年齢については最低年齢が60歳、最高年齢が92歳で平均年齢が75歳であった。前回は最低年齢55歳、最高年齢89歳、平均年齢は72歳であった。

各年代別と前回調査の結果は次の通りである。「70歳～74歳」が最も高く30.8%（前回32.0%）を占め、次いで「75歳～79歳」が24.2%（前回20.4%）であり、70歳代を合計すると55.0%（前回52.4%）で全体の5割を占めている。一方、「80歳～84歳」は16.1%（前回5.1%）となっている。80歳以上を合計すると20.5%と全体の約2割（前回8.1%）を占めている。

年齢的にはこの4年間でさらに高くなっているが、これはCCクラブが2008年に発足して15年を経ており、順次高齢化が進んでいることも考えられる。

(3) 居住地域について

「高輪地区」が40.3%（前回45.8%）と最も割合が高い。次いで「芝浦港南地区」が18.9%（前回15.3%）、「芝地区」が14.9%（前回16.5%）、「麻布地区」が12.0%（前回11.1%）、「赤坂地区」が10.6%（前回9.6%）となっている。高輪地区と芝地区の比率が減少し、その他の地区が増加している。特に「芝浦港南地区」が前回に比べて3.6%も増加している。

高輪地区が最も高いのはCC大学が明治学院大学で行われ通学の利便性の高さもあると思われる。

(4) 健康状態について

「良い」と「まあ良い」の合計で64.3%、前回は67.3%で微減である。一方「良くない」と「あまり良くない」の合計が8.7%で前回の10.5%よりも減少している。コロナ禍を経験したにも拘わらず自身の健康状態について「良くない」「あまり良くない」と答えた人はわずか8.7%しかいない。

(5) CC大学入学動機について

最も割合が高いのは、「港区の広報紙で知り、CC大学の理念に共感したから」が43.6%（前回38.3%）、次いで、「自分の住んでいる地域の土地柄・風土・歴史に関心を持つようになったから」が33.6%（前回32.0%）、「人生の転機にあたり多くの選択肢の中から選んだ」が28.9%（前回22.8%）、「CC大学修了生に勧められた」が26.6%（前回31.4%）、そして、「すでに地域貢献に取り組んでおり、さらに深堀を目指した」が17.4%（22.8%）となっている。これ以外の動機は概ね10%前後の割合であった。

この項目については前回調査よりも動機に変化がみられる。

「港区の広報誌で知り、CC大学の理念に共感した」が前回は大きく上回っている。そのほかは概ね前回調査よりわずかに増えているが、「CC大学修了生に勧められた」と「すでに地域貢献に取り組んでおり、さらに深堀を目指した」の2つの動機がわずかに減っている。コロナの期間従来行われていたCCクラブ会員からの口コミでの周知が減少したことも要因と思われる。

(6) 最長職について

最も割合が高いものは、「勤労者（事務職）」で20.2%（前回21.6%）、次いで、「勤労者（営業・販売・サービス業・店員など）」が11.0%（前回11.1%）、「会社経営者・会社役員・団体役員」が10.4%（前回12.3%）、「自営業・家族従業員」が9.3%（前回8.1%）である。前回に比較しても大きな変化はない。ただし、専業主婦・専業主夫・無職は前回の13.8%から16.6%と増加した。

(7) CC大学修了後の交流について

1期～12期の会員と13～15期の会員に分けて質問をした。

① 交流の有無について

前は交流しているが91.3%で、交流していないが8.7%だった。今回は1期～12期では「コロナ禍前は交流していたがコロナ禍後に交流を止めた」が11.8%。これはコロナの影響が考えられる。これに「交流している」の68.2%を合わせて80.0%である。

前は交流していると答えた人は91.3%なので、今回の80%との差は11.3%でありこれらの人はコロナ禍とは関係なく減少していると考えられる。

また、13期～15期においては交流している人が75.0%であり、1期～12期の68.2%より高くコロナ禍であってもCCクラブ会員間の交流が多いと考えられる。

② 交流内容について

前回の1期～11期対象の調査では「CC大学時代のグループ活動への参加」で73.2%を占めている。次いで、「グループ活動とは別の個人的交流」が43.1%、「地域CCクラブでの交流」が43.5%、「運営委員会、部会に属したから」が19.1%となっている。

今回の1期～12期では「CC大学時代のグループ活動への参加」で62.4%を占めている。次いで、「グループ活動とは別の個人的交流」が48.5%、「地域CCクラブでの交流」が33.7%、「運営委員会、部会に属したから」が19.0%となっている。

13期～15期では「CC大学時代のグループ活動への参加」が38.4%で「グループ活動とは別の個人的交流」が65.1%、「地域CCクラブでの交流」が46.5%、「運営委員会、部会に属したから」が29.1%となっている。

1期～12期までと13期～15期までとは交流内容に占める割合に大きな相違がみられる。コロナ禍以前にすでにグループ活動を活発化していた前者と、コロナ禍でCC大学の生活やその後のCCクラブでの活動の制限を余儀なくされた後者では交流内容も影響を受けたと思われる。

③ 交流目的について

前回は「楽しみの時間を増やしたい」が61.6%と最も割合が高く、次いで「地域活動のきっかけを作りたい」が49.0%となっている。「特に目的はない」が8.6%、「一人だけの不安感を減らしたい」が3.0%であった。

今回の1期～12期でも「楽しみの時間を増やしたい」が64.2%と最も割合が高く、次いで「地域活動のきっかけを作りたい」が42.9%となっている。「特に目的はない」が10.6%、「一人だけの不安感を減らしたい」が2.1%であった。

13期～15期では「楽しみの時間を増やしたい」と「地域活動のきっかけを作りたい」がともに62.8%となっており最も割合が高い。「特に目的はない」が10.5%、「一人だけの不安感を減らしたい」が4.7%であった。

13期～15期において、前回の調査や1期～12期との顕著な違いは「地域活動のきっかけを作りたい」が大きく増加していることである。コロナ禍で思うようにできなかった地域活動への意欲がうかがえる。

④ 交流の頻度について

CCクラブ会員との交流の頻度については、前回は「月1回程度」が39.0%、「月2回以上」が34.1%、「不定期」が21.6%、「隔月」が4.6%であった。

今回の1期～12期では、「不定期」が34.4%と最も割合が高く、次いで「月1回程度」が31.6%、「月2回以上」が25.6%、「隔月」が7.4%であった。

13期～15期では、「月2回以上」が35.6%と最も割合が高く、次いで「月1回程度」が32.2%、「不定期」が27.6%、「隔月」が3.4%であった。

各期によってわずかに頻度の差がみられる。

⑤ 交流がない理由について

前回は「忙しい」が34.5%、「今は出来ないが今後交流したい」が24.1%、「あまり必要ない」が17.2%、「必要ない」が6.9%、であった。

今回CCクラブ会員との交流がないと答えた1期～15期生までの99名にその理由を尋ねた。

1期～12期の71人では「あまり必要ない」が28.2%、「その他」が26.8%、「必要ない」と「今は出来ないが今後交流したい」がともに14.1%、「忙しい」が5.6%であった。

13期～15期28人では、「今は出来ないが今後交流したい」が50.5%で、「あまり必要ない」が21.4%、「必要ない」と「忙しい」「その他」が7.1%であった。

この項目の質問においても13期～15期の「今は出来ないが今後交流したい」の50.0%が1期～12期に比べて大きく増加している。

(8) 生活上の困りごとについて（ここからは1期～15期まで全部の期の回答である）

① 生活上の困りごとの有無について

「ない」が66.5%（前回76.9%）、「ある」が31.8%（前回20.1%）であった。

② 生活上の困りごとの内容については

最も割合が高いものは「健康・医療」で、63.3%（前回64.2%）を占めている。次いで「大地震・火災時の対応の不安」が42.0%（前回35.8%）、「福祉・介護」が21.3%（前回25.4%）、「地域の繋がりが希薄化」が18.7%（前回20.9%）、「買い物環境」が14.0%（前回9.0%）であった。また、「コロナ禍による諸問題の不安」が16.0%であった。前回、26.9%あった「収入・経済的課題」については12.7%と少なかった。

内容の上位は前回と変わらないが、コロナ禍による諸問題の不安が新たに増えた。

(9) CC大学入学以前と以降の意識について

① 入学前は仕事（家事）中心だったかどうか

「そう思う」が42.9%（前回39.8%）、「そう思わない」が34.8%（前回35.9%）、「どちらともいえない」が19.7%（前回18.0%）であった。

② 入学以前から地域活動に関心があったかどうか

入学以前から地域活動に関心があったかどうかについては、「そう思う」が49.7%（前回51.5%）となっている。他方、「そう思わない」が19.3%（16.5%）、「どちらともいえない」が28.7%（前回28.1%）で大きな変化はない。

③ 入学以前に民生委員・児童委員活動を知っていたかどうか

「知っていた」が75.2%（前回72.5%）、「知らなかった」が22.9%（前回23.4%）であった。民生委員・児童委員活動を知っていた人が前回も今回も7割を超えている。

④ 入学以前は社会福祉協議会の活動を知っていたかどうか

入学以前に社会福祉協議会の活動を知っていたかどうかについては、「知ってい

た」が 51.8% (前回 54.8%)、「知らなかった」が 46.9% (前回 41.6%) であった。

民生委員・児童委員活動よりも社会福祉協議会活動の認知度が低い、それでも 5 割を超えている。

⑤ CC大学修了後、今の生活にCC大学は大きな影響を与えているかどうか

「そう思う」が 49.5% (前回 57.5%)、「そう思わない」が 15.3% (前回 11.1%) となっている。

このように、CC大学で学んだことは今の生活に大きな影響を与えているが、比率は減少した。

⑥ CCクラブの活動に参加しているかどうか

「参加している」が 45.2% (前回 64.7%)、「参加していない」が 51.4% (前回 30.2%) となり、参加している人が大幅に減少した。

ここでもコロナが影響しているという一面も考えられるが、ほかの要因も加味して分析する必要があると思われる

⑦ 入学以降、新しい友だちがたくさんできたかどうか

「そう思う」が 57.5% (前回 70.7%)、「そう思わない」が 13.2% (6.3%) であった。

前回より「そう思う」の比率は大幅に減少したが、全体の半数以上の人「そう思う」と回答しており、CC大学が、これまでのネットワークとは異なる新しい人間関係の形成に大きな役割を果たしている。とくに、コロナ禍の3年間(2020年~2022年)は、人との繋がり希薄化が社会的な問題となった。そのような中、CC大学への入学は、個々の人間関係の形成および地域での繋がり形成において重要な機会となった。

⑧ 入学以降地域(住民)に関心を持つようになったかどうか

「そう思う」が 59.7% (前回 65.3%)、「そう思わない」が 7.6% (前回 7.8%) であった。全体の 6 割の人が、入学前よりも地域や地域住民に関心を持つようになっている。

⑨ 入学以降、区の施策に関心を持つようになったか

「そう思う」が 68.6% (前回 65.6%)、「そう思わない」が 4.0% (前回 6.9%) であった。全体の 7 割の人が、以前よりも区の施策に関心を持つようになっている。

⑩ CCクラブは自分の生活に安心感を与えるかどうか

「そう思う」が 35.2% (前回 36.5%)、「そう思わない」が 13.6% (前回 13.8%) となっている。

(10) 地域活動、社会福祉活動について

① 地域活動、社会福祉活動を現在しているかどうか

「活動している」が63.5%（前回77.5%）、「現在は活動していないが、コロナ禍以前は活動していた」が9.6%、「活動していない」が25.7%（前回21.6%）となっている。

新型コロナの感染拡大は、地域活動に大きな制約をもたらした。当初は、地域活動だけでなく対面の会議も制限されCCクラブにも大きな影響を与えた。

しかしCCクラブは役員を中心に、リモートでの通信手法をいち早く学び、その技術を習得して会員に広めた。そのおかげで、以前に活動していたがコロナ禍で活動を控えていた人ともつながりを維持してることができた。実際に、最近の傾向として、地域活動、CCクラブの諸活動に復帰している会員が多くなってきている。

この現状を踏まえれば、コロナ禍でも実際に地域活動、社会福祉活動を継続している会員、現在、活動を再開した会員、そして再開したいと考えている会員が7割強（73.1%）いると思われる。

② 地域活動、社会福祉活動をしない理由

他方、地域活動、社会福祉活動をしていない116人（前回69人）の回答。

最も多いものは、「興味のある活動がない」で35.3%（前回31.9%）、次いで「健康に自信がない」が25.9%（前回20.3%）、「仕事をしている」が22.4%（前回36.2%）、「どのような活動があるのか知らない」が16.4%（前回11.6%）であった。また、「コロナが心配で活動できない」と答えた人が13.8%いた。

「興味のある活動が無い」と「どのような活動があるのか知らない」を合わせた5割の人については、活動内容や働きかけの工夫によっては、活動への参加に転じる可能性がある。

③ 現在の地域活動・社会福祉活動の拠点

「町会・自治会・マンション管理組合・老人クラブ等」が42.9%（前回45.6%）、ついで「CCクラブ運営委員会・部会活動、地域CCクラブ活動」が31.2%（前回34.0%）、「個人、グループの自主的活動」が29.4%（前回37.8%）、となっている。「地域団体（いきいきプラザなど）は22.9%（前回25.1%）、「社会福祉協議会でのボランティア活動」が21.5%（前回21.6%）、「シルバー人材センター」が20.0%（前回17.0%）であった。「個人、グループの自主的活動」は大幅に減少したがCCクラブ会員はこのように、多様な拠点で活動を展開している。

④ 地域活動・社会福祉活動の内容

最も割合が高いものは、「高齢者支援」で34.5%（前回44.9%）となっている。次いで、「町会・自治会の活動（会の運営）」23.0%（前回26.2%）、「地域防災」と「区民参加型の区の事業」がともに17.4%（前回18.0%と20.7%）、「子育て支援」が14.2%（前回16.4%）、「障害者支援」と「知識・資格取得を通じた支援活動」がともに11.5%（前回12.1%と12.9%）、「緑化・環境美化」が10.2%（前回14.1%）となっている。

高齢者支援が比率で10.4%減少しているが回答者の人数としては115人から129人と増加している。割合も最も高く、自身も高齢者でありながらボランティア活動

を行っている。これには他者への支援であると同時に、自分の楽しみにも結びつくコースなどがある。

⑤ これまで経験した活動内容

最も割合が高いものが「民生委員・児童委員」と「タウンフォーラムに参加」がともに10.2%（前回21.0%と26.6%）であった。次いで、「港区の公認委員」が9.9%（前回24.5%）、「町会長・副会長、自治会長・副会長」が9.2%（前回18.9%）、「社会福祉協議会委員」が7.4%（前回14.0%）、「本所・各支所主催の地域支援事業における委員会・協議会の会長・副会長・座長」が4.6%、「各地域の防災協議会・ネットワーク会長・副会長」と「老人クラブ役員」がともに4.2%（前回7.7%と9.1%）となっている。「その他」が33.6%（前回33.6%）と多いのは、CCクラブ会員が、ここにあげた活動内容以外の多様な活動に参加していることを示している。この項目の回答総数は前回が143ケースで今回が198ケースであった。前回の比率より大きく低くなった項目も人数からみると多くの減少にはなっていない。

(11) クラブの今後の活動について（複数回答）

① 今後のCCクラブの活動のあるべき方向

最も割合が高いものは、「CCクラブの活動の『学び』の機会を増やす」で40.3%（前回40.1%）、次いで、「地域貢献・地域福祉活動により注力する」が39.1%（前回38.2%）、「行政（支所協働推進課他）との地域事業の協働の取り組みをつくる」が29.1%（前回34.9%）、「地域CCクラブに一般区民も自由に入力できる『開かれたサロン』を開設」が24.3%（前回23.0%）、「地元大学と連携した地域貢献事業を展開する」が21.4%（前回27.8%）となっている。

その他として、「地域CCクラブの活動をもっと充実させる」が18.9%（前回23.0%）、「もっと楽しい活動をやりたい」が18.7%（前回17.5%）、「今までの活動で十分である」が15.3%（前回9.4%）、「CCクラブ会員個人が行う活動を支援する」が11.9%（前回14.6%）、「CCクラブは一般区民には敷居が高いのもっとオープンにする」が8.0%（前回9.1%）となっている。

上位の傾向はあまり変化がない。前回から大きく増加したものは、「今までの活動で十分である」で現状に満足している人が増えたことである。

一方、減少したものは、「行政（支所協働推進課他）との地域事業の協働の取り組みをつくる」や「地元大学と連携した地域貢献事業を展開する」などであるが、いずれも依然として活動のあるべき方向の上位を占めている。積極的に学びの場や行政との協働活動を望んでいることがわかる。

② 携帯電話などのモバイル環境について

1) どのようなモバイル機器を使用しているか

最も割合が高かったのは、「スマートフォンを使用している」が91.7%であった。次いで、「パソコンを使用している」が67.6%、「タブレットを使用している」24.1%、「スマートフォン以外の携帯電話を使用している」が5.3%、「何も使用していない」は1.3%となっている。

前回調査（2018年）で、スマートフォンを使用している人の割合は68.3%と7割弱であったが、今回の調査では全91.7%と全体の9割に増加している。多くの人がスマートフォンを使用している状況である。これもコロナ禍で対面での活動の制限により、モバイルデータ通信等による交流の必要性が高まったことも一つの誘因と考えられる

2) SNS（LINE、Facebook、Twitter など）を利用して知人と連絡しているか

「している」が78.3%。「していない」が18.9%であった。

前回調査（2018年）では、「している」と「していない」の割合はほぼ半々であったが、今回の調査では、「している」が全体の8割弱まで増加している。この結果は、スマートフォンを使用している人の増加を反映しているものと考えられる。

3) CCクラブのホームページをSNSで簡単に投稿できれば、連絡・コメント等で利用してみたいか

「利用してみたいと思う」が31.2%（前回29.9%）、「利用してみたいと思わない」が58.4%（64.4%）であった。「利用してみたいと思う」は前回調査よりは増加した。しかし、前の質問では、SNSを利用して知人と連絡をとっている人の割合が高かったが、CCクラブのホームページの活用した情報交換については、利用したいと考える人が全体の3割にとどまった。

(12) コロナ禍以降の変化について（複数回答）

① コロナ禍以降、自身や家族に変化があったか

「変化はなかった」が45.9%と最も割合が高かった。次いで、「自身の体力が落ちた」が41.0%で、全体の4割の人が体力の低下を感じている。その他、「自身が病気になった」が10.9%、「家族の体力が落ちた」が10.0%、「家族が病気になった」が7.6%、「家族の介護・看護をする必要が出た」が5.1%となっている。

② コロナ禍になってから新しく始めたこと

「特にはじめたことはない」が40.6%で最も割合が高い。次いで、「LINEやZOOM等のオンラインでの交流」が27.2%、「家でできる運動等」が24.4%、「家でできる趣味活動等」が16.3%、「屋外での一人でできる運動等」が12.3%、「その他始めたこと」が10.2%となっている。

③ 今後、新たに始めたいこと、再開したいこと

「特に始めたいことはない」が38.2%で最も割合が高かった。他方、「知人（CCクラブ会員以外）と共に行う趣味活動」が25.5%、「以前から出来ていない一人でやる旅行や趣味活動」が24.8%、「CCクラブ会員と共に行う地域活動」が20.2%、「CCクラブ会員と共に行う趣味活動」が19.7%など、全体の2割の人が、今後、旅行や趣味活動、地域活動を始めたいと考えている。

コロナ禍以降、自身や家族の病気、体力の低下などを合わせると5割以上の人に変化があった。やはりコロナ禍による大きな影響があったことは間違いのない。しかし「変化はなかった」と答えた人も5割近くで最も多かった。

コロナ禍以降新しく始めたことは「特にない」と答えた人は40.6%で最も高いが

同様に「ある」と答えた人はその他にも含め5つの種類で5割以上であった。

(13) コロナ禍で出来なくなったこと、現在もできていないことの自由回答

①家族や友人との会食と飲食ができなくなったこと

- ・家族との会食・飲食よりも友人との会食・飲食が出来なかった、の方が多い。
- ・会食、飲食と同様に他の行動ができなくなったという記述が目立つ。
- ・家族・親族との会食・飲食が出来なくなったケースが少ないのは、日常生活を共にしているケースが多く敢えて表現する必要がなく、潜在的にもっと多いとも感じる

②家族友人との会合や交流ができなくなったこと

- ・地域の内外を問わず、具体的な記述が多くみられる。
- ・友人との対面交流ができなくなったが、別の交流手段を得た会員もいる。
- ・友人との交流に比べ家族親族との交流ができなくなったことへの意見は少ないが、交流が途絶えたことによる、情報の遮断や、疎外感等内容は切実さを感じる。
- ・CCクラブ会員との交流ができなくなったことも生活に大きな影響があったことを感じる。

③趣味のために外で出かけることができなくなったこと

- ・歌に関連する記述は多く、コーラスグループ、カラオケ等があり、日常生活のなかで歌を歌うことの大切さを感じる。
- ・美術館、映画館に行けなくなった等外出の機会が減ったことも心身ともに及ぼす大きな影響があった。
- ・運動に行く機会がなくなり、その他の行動の制約が、体力や気力の衰えをもたらした現在の生活にも影響がでていることが危惧される。
- ・身近にあったいきいきプラザの講習や料理教室が休止となった。その後復活したものや復活していないものがあり、このような地域の居場所を求めていることを感じる。
- ・その他の項目に入れたが、図書館通いを止めたこと、自分が行っていた習い事教室を止めた記述もある。コロナ禍という未知のものに対する家族間での認識の相違も感じられる。

④ボランティア活動に参加できなくなったこと

- ・食事作り、地域活動、歌のボランティア、介護施設、サロン活動等のボランティア活動の中断は会員本人の気持ちはもとより、受け手側の現況を心配する声が多くあった。
- ・ここでも歌に関する記述があり、個人の活動の項目と合わせると、歌に関する活動が停止されたことは大きな影響があったと感じる。
- ・一時的にできなくなったボランティアを再開する記述もあり、熱心さや使命感も感じる。

⑤海外旅行や国内旅行ができなくなったこと

- ・旅行に関する項目を別にしたが、この記述内容は趣味での活動が多い。

⑥CCクラブの活動に参加できなくなったこと

- ・CCクラブの活動として分類したが、CCクラブ友人との活動を含めると多くの会員の活動が相当数制限されたと感じる。

⑦外出ができず、病院への面会や葬儀にいけなくなったこと

- ・外出ができない、病院の面会に行けない、葬儀に行けないと具体的に書いた方は少ないが、人生の節目に友人知人との別れや見舞いに行けないことに大きな悔いを感じている。
- ・記述には切実さを感じ、また、近隣への行動も制約された記述もある。

⑧その他の意見

- ・現在も仕事をしている会員もおり、仕事の一部を中止や制限されるなど、その影響もあった。また、記述は少ないが健康に関する関心も多いと感じる。

(14) 行政、社会福祉協議会、港区の関連団体、CCクラブなどに関する自由回答

1. CCクラブに関すること

①活動内容について

- ・組織の基本的な在り方や現在の会員、もしくはCCクラブ組織全体の活動についての指摘がある。
- ・CCクラブの認知度を高める活動の要望や、多様な意見を聞けるように年齢層の若い人の参加も良いのではとの意見もある。

②CCクラブへの感謝

- ・CCクラブの運営に関わっている人への感謝の表現がある。
- ・自身の活動を紹介しつつCC大学で学んだことへの感謝の言葉がある。

③活動への意欲について

- ・今後の活動について社会貢献をしたい意欲がある人がいる一方、区の活動にあまり関心のない人もいる

④組織運営（担い手、体制、予算など）について

- ・地域CCクラブの運営を担う人が少ない現実とその原因について述べる意見がある。
- ・現在のCCクラブ運営部門の人員構成やあり方についての意見がある。
- ・CCクラブの在り方そのものについて具体的な意見がある。
- ・地域CCクラブの活動について活発な活動を期待する意見がある。

⑤行政や関係機関との連携について

- ・行政がCCクラブをどう見ているか知りたい、という意見がある。
- ・行政の在り方や期待の意見があり、連携に関しては疑問の意見もある。
- ・CCクラブと大学、行政が連携する活動に期待する意見がある。

⑥会員間の連絡・交流について

- ・CC大学在学中の個人情報修了後にも使わせて欲しいとの要望がある。
- ・CCクラブの情報伝達をHP以外にも展開する必要性の指摘がある。

⑦活動参加者を増やすことについて

- ・修了生が増加した現在、活動していない人についての指摘がある。
- ・CC大学に期待し、今後、より多くの人に関心を持てるような具体的な例をいくつか提案された人もいる。

⑧CCクラブ活動のあり方について

- ・CC大学の高齢化に対して、個人の活動実践だけで、他人への活動を求めないでほしいという意見がある。
- ・行政のCCクラブに対する位置づけについての意見がある。

⑨CCクラブのPR、認知について

- ・CCクラブが大きな組織になり地域社会との連携やPR活動が十分でない指摘がある。

⑩高齢化による活動への影響について

- ・CC大学入学以来、年数が経ち、超高齢者同士の活動が難しい、CC大学入学生が以前より高齢化し、「リーダー養成」は難しい、という指摘がある。

⑪活動を求めてほしくない

- ・CC大学の経験は良かったが、修了後の活動を求めないで欲しい、との要望もある。

2. CC大学に関すること

①講義内容、開講方法について

- ・CC大学のような学びの場は他区にはないので、カリキュラムの一部を区民に公開してはどうか、との意見の一方、カリキュラムのマンネリ化しているとの指摘がある。

②CC大学への感謝

- 感謝の言葉もある。
- ・CC大学中の学んだことが修了後の活動に生かしている。感謝している。
- ・コロナ禍中の入学で見学の中止等があったが、事務局や先生に感謝している。

③さらなる学びの機会について

- ・修了後に一堂に会する機会がなく修了後の学びの機会が欲しい、との意見がある。

おわりに

この度 2023 年チャレンジコミュニティ・クラブ（以下CCクラブ）の活動実態調査報告書を速報版として出すことができた。

CCクラブ会員 753 名の内 480 名からアンケートの回答が寄せられ、これは全体の 63.7%にのぼる。多くの会員の協力を得られたことに感謝したい。CC大学1期生から15期生迄多くの修了生を出し様々な場所で活動を続けている会員が7割近くいる中で、活動を止めてしまった人、止めざるを得なかった人もいる。

アンケートでは「今後のCCクラブの活動のあるべき方向について」という問いかけに「学びの機会を増やす」や「地域貢献・地域福祉活動により注力する」に全体のほぼ4割の人が回答した。これは前回2018年の調査でもほぼ同じ割合であり依然として多くの人々が活動に意欲をもっている。今後このような人々にどのような場所や情報の提供をするかが引き続きの課題であろう。並行して、活動を止めた人、止めざるを得なかった人にも配慮が必要である。CCクラブは他者への貢献、ボランティア活動をする団体であるが、自分たち内部にも目を向ける必要がある。自由回答には多くの意見が寄せられている。一つ一つの小さな声を掬い取り、CCクラブを誰もが参加し続けられる組織にしていかななくてはならない。

本報告書は速報版であるが、より多くの会員に読んでもらい今後の活動への取り組みや、日常生活への参考となればと考える。なお、2024年度には最終報告書としての「正規版」を作成し関係者あてに配布する予定である。

冒頭の案内にも書きましたが2023年活動実態調査にあたり河合克義先生（明治学院大学名誉教授・CCクラブ顧問）には調査準備から報告書作成までご指導をいただきました。石川由美先生（帝京平成大学健康医療スポーツ学部准教授）には調査分析と共同の執筆をいただきました。そしてこの調査全般にわたり、港区高輪地区総合支所様と明治学院大学様には多大なご支援とご協力をいただきました。皆様にはここに重ねてお礼申し上げます。

チャレンジコミュニティ・クラブ 地域連携部会長 金原智子

チャレンジコミュニティ・クラブ

2023年活動実態調査

ご協力をお願い

CCクラブは今年で約750名の会員数になりました。CC大学を修了された方は約850名ですが、いろいろな事情で退会された方がおり、現在の会員数になります。

2018年に会員の生活実態と活動内容の調査を行いました。それから5年が経過し、会員としてCC大学12期生から15期生を迎え、会員数は152名増加しました。

CC大学修了後に多くの会員の皆様が地域の中で多様な活動を展開されている実態があります。この3年間に新型コロナウイルス禍がありCCクラブ会員の生活と活動の変化が考えられます。

今回、港区からの提案もあり、CCクラブ会員の現在の状況を知ることと会員の活動が地域に浸透していく状況を多くの皆様に知っていただき、地域と一体となった地域貢献活動につなげていくために2018年度に続き、「2023年活動実態調査」を実施いたします。

調査の結果はCCクラブ「活動報告会」やホームページなど様々な方法で公表させていただきます。また、港区から発信される資料にも使用いたします。

このような趣旨をご理解いただき、多くの会員の方にご協力頂けますようよろしくお願い申し上げます。

※この調査は無記名です。お名前等個人情報が公表されることはありません。

2023年6月

調査主体：港区高輪地区総合支所

チャレンジコミュニティ・クラブ

(調査担当：地域連携部会)

この調査についてご不明な点がございましたら、下記までお問合せ願います。

【メールでのお問い合わせ】 副代表(地域連携部会) 太田則義 noriohta1214@gmail.com

【電話でのお問い合わせ】 副代表(地域連携部会) 太田則義 電話 090-2556-0222

【調査対象範囲】 CCクラブ1～15期生

ご回答にあたってのお願い

【調査用紙のご記入方法】

- ご回答には、黒のボールペンか濃い鉛筆をお使いください。
- ご回答は、選択肢からあてはまる項目を選び、番号に○印をつけてください。
- 記述項目については簡潔に分かりやすく記入してください。

【調査用紙の返送方法】

- 同封されています返信用封筒にてお送りください。
- 問合せについて、メール、電話については上記問い合わせ先に、また、郵便での問い合わせ FAXの問い合わせは下記をお願いいたします。

送付先 〒108-0071 東京都港区白金台1-2-37

株式会社 明治学院サービス FAX:03-5421-1556

回答期限：2023年6月26日(月)

チャレンジコミュニティ・クラブ 2023 年活動実態調査 調査票

調査主体：港区高輪地区総合支所
チャレンジコミュニティ・クラブ

1. 基本項目（2023年6月1日現在でお答え下さい）

■あなたご自身についておうかがいします。

問1. あなたは、CC大学の何期生ですか（○は1つ）

- | | | | | | |
|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 1. 1期生 | 2. 2期生 | 3. 3期生 | 4. 4期生 | 5. 5期生 | 6. 6期生 |
| 7. 7期生 | 8. 8期生 | 9. 9期生 | 10. 10期生 | 11. 11期生 | 12. 12期生 |
| 13. 13期生 | 14. 14期生 | 15. 15期生 | | | |

問2. 性別のあてはまる方に○をし、年齢をご記入下さい

1. 女性 2. 男性 3. 無回答

満_____歳（2023年6月1日現在）

問3. あなたのお住まいはどの地域ですか（○は1つ）

- | | | | | | |
|-----------|--------|---------|---------|---------|--------|
| 1. 芝浦港南地区 | 2. 芝地区 | 3. 高輪地区 | 4. 麻布地区 | 5. 赤坂地区 | 6. 港区外 |
|-----------|--------|---------|---------|---------|--------|

問4. ご自身の健康状態についてどのようにお考えですか（○は1つ）

- | | | | | |
|-------|---------|-------|------------|---------|
| 1. 良い | 2. まあ良い | 3. 普通 | 4. あまり良くない | 5. 良くない |
|-------|---------|-------|------------|---------|

2. 入学時の状況

問5. あなたがCC大学に入学した動機は何ですか（○はいくつでも）

- | |
|--|
| 1. 人生の転機にあたり多くの選択肢の中から選んだ |
| 2. CC大学修了生に勧められた |
| 3. 家人の勧め |
| 4. 知人・友人の勧め |
| 5. 暇をもて余しているから |
| 6. すでに地域貢献に取り組んでおり、さらに深堀を目指した |
| 7. 同じ志を持つ仲間を求めた |
| 8. 自分の居場所を求めて |
| 9. 港区の広報紙で知り、CC大学の理念に共感したから |
| 10. 明治学院大学の校風・講師陣の顔ぶれに惹かれて |
| 11. 自分の住んでいる地域の土地柄・風土・歴史に関心を持つようになったから |
| 12. 民生委員・児童委員として |
| 13. その他(具体的に) |

()

問6. あなたが今までに一番長く従事されたお仕事は何ですか（○は1つ）

1. 自営業・家族従業員	2. 公務員(教員含む)
3. 会社経営者・会社役員・団体役員	4. 勤労者(事務職)
5. 勤労者(生産現場・技術職・工員・運転手など)	
6. 勤労者(営業・販売・サービス業・店員など)	
7. 医療・福祉従事者(看護師、保育士、介護職など)	
8. 専門的技術的職業(医師、弁護士、研究者など)	
9. 臨時職・日雇い・パート・アルバイト・派遣職員	10. 農林漁業
11. 自由業(執筆業、芸術関係)	12. 専業主婦・専業主夫・無職
13. その他	

()

3. CC大学修了後の状況

問7. CC大学修了後の交流についておうかがいします

1期～12期の方と13～15期の方に分けておうかがいします

1期～12期の方へお聞きします

(1) あなたは、CC大学修了後、CCクラブ会員の皆さんと交流していますか（○は1つ）

1. <u>交流している</u> ⇒(2)へ	2. <u>交流していない</u> ⇒(3)へ
3. <u>コロナ禍前は交流していたがコロナ禍後に交流を止めた</u> ⇒(2)へ	

(2) 上記(1)で「1. 交流している」「3. コロナ禍前は交流していたがコロナ禍後に交流を止めた」と答えた方におうかがいします

① どのような交流をしていますか、していましたか。（○はいくつでも）

1. CC大学時代のグループ活動への参加	2. グループ活動とは別の個人的交流
3. 地域CCクラブでの交流	4. 運営委員会、部会に所属したから。

② 交流の目的は何ですか（○はいくつでも）

1. 楽しみの時間を増やしたい	2. 一人だけの不安感を減らしたい
3. 地域活動のきっかけを作りたい	4. 特に目的はない
5. その他	

③ 交流の頻度は次のどれですか（○は1つ）

1. 月2回以上	2. 月1回程度	3. 隔月	4. 不定期
----------	----------	-------	--------

(3) 上記(1)で「2. 交流していない」と答えた方におうかがいします（○は1つ）

1. 必要ない	2. あまり必要ない	3. 忙しい	4. 今は出来ないが今後交流したい	5. その他
---------	------------	--------	-------------------	--------

問10. CC大学入学以前と以後の意識について全員におうかがいします

次の項目について、あなたの気持ちに近いものを○で囲んで下さい。(各項目 ○は一つ)

(1)入学以前は仕事(家事)中心だった

1. そう思う 2. そう思わない 3. どちらともいえない

(2)入学以前から地域活動に関心があった

1. そう思う 2. そう思わない 3. どちらともいえない

(3)入学以前は民生委員・児童委員活動を知っていましたか

1. 知っていた 2. 知らなかった

(4)入学以前は社会福祉協議会の活動を知っていましたか

1. 知っていた 2. 知らなかった

(5)CC大学修了後、今の生活にCC大学は大きな影響を与えている

1. そう思う 2. そう思わない 3. どちらともいえない

(6)CCクラブの活動に参加している

1. 参加している 2. 参加していない

(7)入学以降、新しい友だちがたくさんできたと思う

1. そう思う 2. そう思わない 3. どちらともいえない

(8)入学以降、地域(住民)に関心を持つようになった

1. そう思う 2. そう思わない 3. どちらともいえない

(9)入学以降、区の施策に関心を持つようになった

1. そう思う 2. そう思わない 3. どちらともいえない

(10)CCクラブは自分の生活に安心感を与える

1. そう思う 2. そう思わない 3. どちらともいえない

4. 地域活動、社会福祉活動等

問11. あなたは、現在、地域活動、社会福祉活動などをしてますか（○は1つ）

- 1. 活動している ⇒問13. へ
- 2. 現在は活動していないがコロナ禍以前は活動していた⇒問13. へ
- 3. 活動していない ⇒問12. へ

問12. 問11. で「3. 活動していない」と答えた方にその理由をおうかがいします
(○はいくつでも)

- 1. 仕事をしている
- 2. 介護等でできない
- 3. 健康に自信がない
- 4. 興味のある活動が無い
- 5. 関心がない
- 6. コロナが心配で活動できない
- 7. どのような活動があるのかわからない

問13. 問11. で「1. 活動している」「2. 現在は活動していないがコロナ禍以前は活動していた」と答えた方におうかがいします
コロナ禍以前の活動も含め地域活動、社会福祉活動の拠点はどこですか
(○はいくつでも)

- 1. 社会福祉協議会でのボランティア活動
- 2. 町会・自治会・マンション管理組合・老人クラブ等
- 3. NPO法人/社団法人
- 4. CCクラブ運営委員会・部会活動、地域CCクラブ活動
- 5. シルバー人材センター
- 6. 港区役所（本庁）
- 7. 各地区総合支所（芝浦港南、芝、高輪、麻布、赤坂）
- 8. 地域団体（いきいきプラザなど）
- 9. 個人、グループの自主的活動
- 10. CC大学在学中あるいは修了後、新たに立ち上げた個人、グループ活動
- 11. その他

()

問14. あなたの地域活動、社会福祉活動の内容は下記のどれですか（○はいくつでも）

- 1. 高齢者支援
- 2. 子育て支援
- 3. 障がい者支援
- 4. 地域防災
- 5. 緑化・環境美化
- 6. 交通指導
- 7. 語り部（観光案内）
- 8. 国際交流
- 9. 民生委員・児童委員
- 10. 語学教育
- 11. まちおこし
- 12. 景観保護
- 13. 町会・自治会の活動（会の運営）
- 14. マンション管理組合、自治会活動
- 15. 区民参画型の区の事業
- 16. 知識・資格取得を通じた支援活動
- 17. 趣味・教養を生かした支援活動
- 18. その他 ()

問15. あなたは、次のような活動に携わった経験はありますか（〇はいくつでも）

1. 民生委員・児童委員
2. 町会長・副会長、自治会長・副会長
3. 港区の公認委員
4. 社会福祉協議会委員
5. 各地域の防災協議会・ネットワーク会長・副会長
6. 本庁・各支所主催の地域支援事業における委員会・協議会の会長・副会長・座長
7. 国際交流の場での通訳
8. タウンフォーラムに参加
9. 老人クラブ役員
10. その他（具体的な活動をお書き下さい）

（ ）

11. なし

5. CCクラブの今後の活動について

問16. 今後のCCクラブの活動のあるべき方向についておうかがいします（〇はいくつでも）

1. 地域貢献・地域福祉活動により注力する
2. 地元大学と連携した地域貢献事業を展開する
3. 行政（支所協働推進課他）との地域事業の協働の取り組みをつくる
4. 地域CCクラブの活動をもっと充実させる
5. CCクラブ会員個人が行う活動を支援する
6. CCクラブは一般区民には敷居が高いのもっとオープンにする
7. 地域CCクラブに一般区民も自由に入出りできる“開かれたサロン”を開設
8. CCクラブの活動に「学び」の機会を増やす
9. もっと楽しい活動をやって欲しい
10. 今までの活動で十分である

問17. モバイル環境（携帯電話、スマホ、タブレット）をはじめとして使用している機器などについておうかがいします。

（1）あなたはどのような機器を使用していますか（〇はいくつでも）

1. スマートフォンを使用している
2. スマートフォン以外の携帯電話を使用している
3. タブレットを使用している
4. パソコンを使用している
5. 何も使用していない

（2）SNS（LINE、Facebook、Twitter など）を利用して知人と連絡していますか

1. している
2. していない

(3) CCクラブのホームページをSNSで簡単に投稿できれば、自分も連絡やコメントなどグループ間で利用してみたいと思いますか

1. 利用してみたいと思う

2. 利用してみたいと思わない

6. コロナ禍以降に関する質問です

問 18. コロナ禍になり、自身や家族（どなたでも）に変化がありましたか（〇はいくつでも）

1. 変化はなかった

2. 自身の体力が落ちた

3. 自身が病気になった

4. 家族の体力が落ちた

5. 家族が病気になった

6. 家族の介護・看護をする必要が出た

7. 自身が介護・看護されることになった

8. その他（

）

問 19. コロナ禍になってから新しく始めたことは何ですか（〇はいくつでも）

1. 家でできる趣味活動等

2. 家でできる運動等

3. LINE や ZOOM 等オンラインでの交流

4. 屋外での一人で行える運動等

5. その他の始めたこと（

）

6. 特に始めたことはない

問 20. コロナ禍で出来なくなったこと、現在もできていないことは何ですか（自由に書いてください）

例えば ・サロン活動などの居場所活動 ・会食や食事作りなどの活動 ・歌を歌うなどの活動 など

（自由に記載）

問 21. コロナの感染症分類が 2 類から 5 類になったことで、新たに始めたいことまたは再開したいことはありますか

(○はいくつでも)

1. CCクラブ会員と共に行う地域活動
2. CCクラブ会員と共に行う趣味活動
3. 知人（CCクラブ会員以外）と共に行う地域活動
4. 知人（CCクラブ会員以外）と共に行う趣味活動
5. 一人で行う地域活動、ボランティア活動
6. 以前から出来ていない一人で行う旅行や趣味活動
7. 特に始めたいことはない
8. その他 ()

問22 行政、社会福祉協議会、港区の関連団体)、CCクラブなどについて、ご意見やご要望がありましたら、ご自由にご記入下さい。

質問は以上です。

アンケート調査にご協力下さいまして、まことにありがとうございました。

2023年東京都港区 チャレンジコミュニティ・クラブの実態と活動に関する調査報告書(速報版)

編集/チャレンジコミュニティ・クラブ 地域連携部会(2023年度)

金原 智子 (10期)	太田 則義 (7期)
今泉 昌代 (10期)	西多 和子 (4期)
呉 東富 (5期)	大塚 堅一 (11期)
山岸 洋子 (11期)	丸毛 昭生 (13期)
荒川 太 (14期)	小杉 良子 (14期)
大友 登喜雄 (15期)	

2023年東京都港区 チャレンジコミュニティ・クラブの実態と活動に関する調査報告書(速報版)

発行者 チャレンジコミュニティ・クラブ
編集 チャレンジコミュニティ・クラブ 地域連携部会
協力 チャレンジコミュニティ大学総括コーディネーター・
明治学院大学名誉教授・学長特別補佐 河合克義
港区高輪地区総合支所協働推進課
明治学院大学総合企画室社会連携課
明治学院サービス株式会社 (CCクラブ事務局)
〒108-0071 東京都港区白金台 1-2-37
Tel. 03-5421-1555 Fax. 03-5421-1556
Email ccclub@meijigakuin-s.co.jp
<http://www.minato-ccc.jp>

発行日 2024年2月24日

